

# 公立大学法人公立小松大学

## 令和3年度 業務実績報告書



令和4年6月

公立大学法人公立小松大学

# 目次

1	公立大学法人公立小松大学の概要	
(1)	基本情報	1
(2)	設置する大学の学部構成	2
(3)	組織・運営体制	2
(4)	組織図	4
2	評価基準	
(1)	小項目別評価	5
(2)	指標単位評価	5
(3)	大項目別評価	6
(4)	全体評価	7
3	令和3年度業務の実施状況	
(1)	全体評価	8
(2)	大項目別評価	9
(3)	小項目別評価	18
(4)	指標単位評価	136
4	資料	140
5	用語解説	147

# 1 公立大学法人公立小松大学の概要

## (1) 基本情報

- ① 法人名 公立大学法人公立小松大学
- ② 所在地 石川県小松市四丁町ヌ1番地3
- ③ 設立根拠法令 地方独立行政法人法
- ④ 設立団体 小松市
- ⑤ 沿革 平成30年4月 公立大学法人公立小松大学設立  
公立小松大学開学（生産システム科学部、保健医療学部、国際文化交流学部）  
小松短期大学設置者変更  
学校法人小松短期大学解散  
令和2年3月 小松短期大学閉学  
令和4年4月 公立小松大学大学院開設（サステイナブルシステム科学研究科）
- ⑥ 法人の目的 地方独立行政法人法に基づき、大学を設置し、管理することにより、南加賀における教育研究の中心として、幅広い知識と深い専門の学術を教授研究し、地域と世界で活躍する人間性豊かな人材の育成を図るとともに、成果の還元に努め、広く社会の発展に寄与することを目的とする。



## (2) 設置する大学の学部構成

大学	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	現員 (令和3年5月1日現在)		
						男	女	計
公立小松大学	生産システム科学部	生産システム科学科	80人	—	320人	297人	27人	324人
	保健医療学部	看護学科	50人	—	200人	14人	191人	205人
		臨床工学科	30人	—	120人	60人	70人	130人
	国際文化交流学部	国際文化交流学科	80人	—	320人	60人	263人	323人
	総計			240人	—	960人	431人	551人

## (3) 令和3年度組織・運営体制

### ① 役員

役職	氏名	任期	所属先・職
理事長	石田 寛人	平成30年4月1日～令和4年3月31日	
副理事長	山本 博	平成30年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学長
理事	横川 善正	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学副学長
理事	千葉 正	令和2年4月1日～令和4年3月31日	事務局長
理事	野村 長久	令和2年4月1日～令和4年3月31日	
理事	森 久規	令和4年2月1日～令和4年3月31日	非常勤
理事	西 正次	令和2年4月1日～令和4年3月31日	非常勤
理事	鈴木 康夫	令和2年4月1日～令和4年3月31日	非常勤
監事	松本 哲哉	平成30年4月1日～令和4年度財務諸表の承認の日	非常勤
監事	能登 宏和	平成30年4月1日～令和4年度財務諸表の承認の日	非常勤

② 審議機関

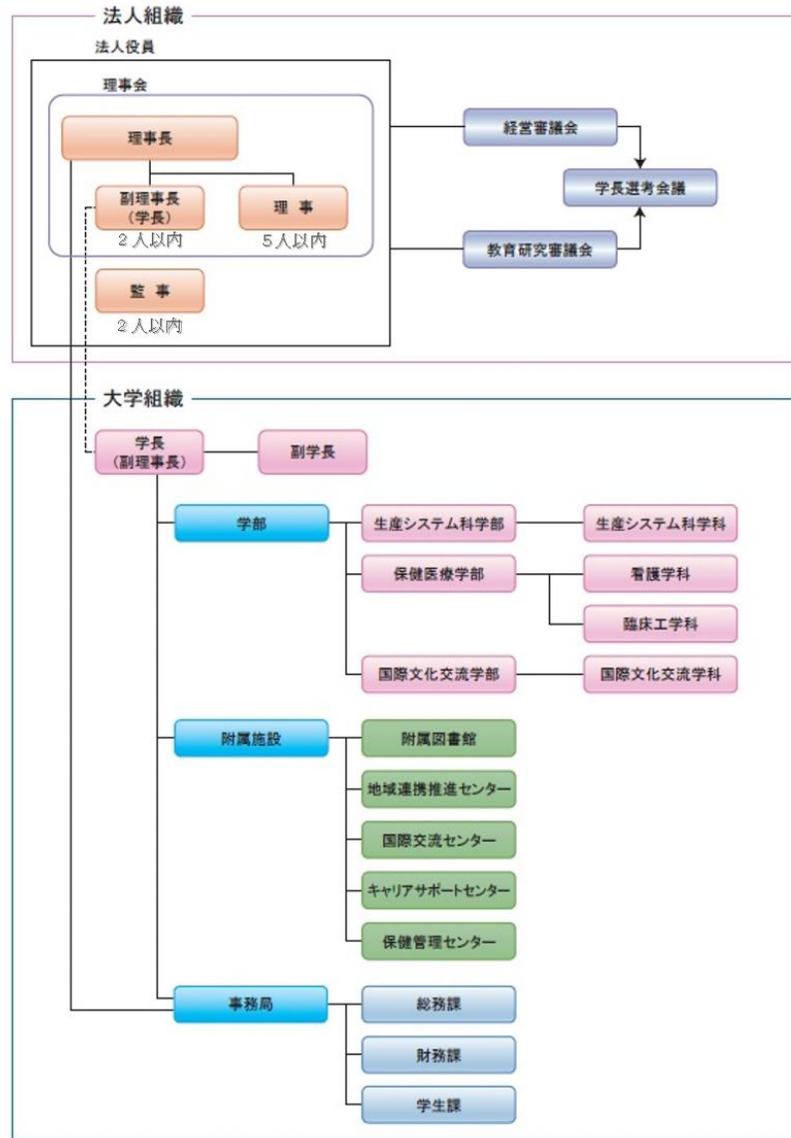
【経営審議会】

役職	氏名	任期	所属先・職
委員（議長）	石田 寛人	平成30年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事長
委員	山本 博	平成30年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人公立小松大学副理事長（公立小松大学長）
委員	横川 善正	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事（公立小松大学副学長）
委員	西 正次	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事
委員	鈴木 康夫	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事
委員	千葉 正	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立大学法人公立小松大学理事（事務局長）
委員	山崎 光悦	令和2年4月1日～令和4年3月31日	国立大学法人金沢大学長
委員	保川 高司	令和3年4月1日～令和4年3月31日	株式会社小松製作所 栗津工場 工場長
委員	東野 義信	令和2年4月1日～令和4年3月31日	医療法人社団東野会 東野病院 院長
委員	早松 利男	令和2年4月1日～令和3年6月22日	小松市参与
委員	越田 幸宏	令和3年6月23日～令和4年3月31日	小松市副市長

【教育研究審議会】

役職	氏名	任期	所属先・職
委員（議長）	山本 博	平成30年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学長
委員	横川 善正	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学副学長
委員	木村 繁男	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学副学長、生産システム科学部長
委員	北岡 和代	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学保健医療学部長
委員	岩田 礼	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学国際文化交流学部長
委員	真田 茂	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学保健医療学部臨床工学科長
委員	岡村 徹	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学附属図書館長
委員	酒井 忍	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学生産システム科学部教授
委員	徳田 真由美	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学保健医療学部教授
委員	盛田 清秀	令和2年4月1日～令和4年3月31日	公立小松大学国際文化交流学部教授

(4) 組織図



## 2 評価基準

法人が行う業務実績報告書における自己評価は、以下の基準により実施する。

### (1) 小項目別評価

年度計画の記載項目（小項目）ごとの進捗状況の自己評価を行い、業務実績報告書において次の5段階により進捗状況を示すとともに、自己評価の判断理由（実施状況）を記載する。

評価	評価基準	評価の条件
5	年度計画を大幅に上回る	・特に優れる若しくは顕著な成果がある
4	年度計画を達成	・上回る若しくは十分な実施状況
3	年度計画を概ね実施	・実施している
2	年度計画を十分に実施せず	・下回る若しくは実施が不十分
1	年度計画を大幅に下回る	・特に劣る若しくは実施していない

### (2) 指標単位評価

年度計画の記載項目（指標単位）ごとの達成状況の自己評価を行い、業務実績報告書において次の5段階により進捗状況を示すとともに、自己評価の判断理由（実績値）を記載する。

評価	評価基準	評価の条件
s	年度計画を大幅に上回る	・達成率 100%以上かつ顕著な成果がある
a	年度計画を達成	・達成率 100%以上
b	年度計画を概ね実施	・達成率 80%以上 100%未満
c	年度計画を十分に実施せず	・達成率 60%以上 80%未満
d	年度計画を大幅に下回る	・達成率 60%未満

### (3) 大項目別評価

年度計画の小項目別評価及び指標単位評価を踏まえ、中期計画の次の事項（以下「大項目」という。）ごとに、当該事業年度における中期計画の進捗状況について、次の5段階により自己評価する。

II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	
1	教育に関する目標を達成するための措置
2	研究に関する目標を達成するための措置
3	国際交流に関する目標を達成するための措置
III 地域貢献に関する目標を達成するための措置	
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	
V 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	
VII その他業務運営に関する目標を達成するための措置	
XII 余剰金の使途	
XIII その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	

※次の大項目は省略とする。

- VIII 予算、収支計画及び資金計画・・・・・・・・・・財務諸表及び決算報告書で別途報告を行うため。
- IX 短期借入金の限度額・・・・・・・・・・借入の実績がないため。
- X 出資等に係る不要財産の処分に関する計画・・・・・・計画上「なし」とされているため。
- XI 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画・・・・・・計画上「なし」とされているため。

評価	評価の目安
中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	・小項目別評価の平均値が 4.3 以上、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、さらに業務の進捗状況や特記事項の内容に特筆すべき進捗や取組がある場合

中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を上回り、「A」相当と認める場合</li> <li>・小項目別評価の平均値が 3.5 以上 4.2 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「A」相当と認める場合</li> </ul>
中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下、かつ、指標単位評価の各項目が数値指標を概ね上回り、「B」相当と認める場合</li> <li>・小項目別評価の平均値が 2.7 以上 3.4 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「B」相当と認める場合</li> </ul>
中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下、または、指標単位評価の項目において数値指標を下回り、「C」相当と認める場合</li> <li>・小項目別評価の平均値が 1.9 以上 2.6 以下に満たないが、指標単位評価の評定及び主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して「C」相当と認める場合</li> </ul>
中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小項目別評価の平均値が 1.8 以下、または、指標単位評価の各項目において数値指標を大幅に下回り、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると認める場合</li> </ul>

#### (4) 全体評価

大項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務実績の全体について総合的に勘案し、次の5段階により自己評価する。

評価
中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる
中期目標・中期計画の達成のためには改善を要する
中期目標・中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である

### 3 令和3年度業務の実施状況

(1) 全体評価 大項目別評価の結果を踏まえ、以下のように判断する。

#### 【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

平成30年度に南加賀唯一の公立大学として開学した本学は、令和3年度で完成年度を迎え、**第一期生となる卒業生を送り出した**。4年生の卒業研究・論文指導、就職支援に力を入れるとともに、令和4年4月の大学院開設を目指して準備を進め、**10月22日には文部科学大臣より大学院サステナブルシステム科学研究科設置認可を「可」とする旨の答申**を受けた。新型コロナウイルスに対しては、昨年度に引き続き十分な感染予防対策を講じながら、ウィズコロナにおける大学運営に教職員が一体となって取り組んだ。

【教育・学生支援】全授業において学生に「授業評価アンケート」を実施し、本年度の授業満足度は5段階評価で平均4.26と高い評価を得た。4年生の卒業研究・論文、国家試験等では、担当教員が丁寧な指導・サポートを行い、**看護学科では、看護師国家試験を受験した50名が全員合格し、合格率100%の数値目標を達成するとともに、臨床工学科では、臨床工学技士国家試験合格率は91.2%で、全国合格率80.5%を大きく上回った。**

学生支援では、各学科ともに相談教員を配置し、学生との定期的な面談により、学修面・生活面の把握とサポートを行った。経済的支援については、授業料免除や奨学金申請のほか、国の給付金の周知・申請受付を積極的に行った。キャリアサポートセンターでは、学生のキャリア形成と就活支援のため、様々な企画を実施する中で、コロナ禍でも学生が孤立しないようにオンラインでの就活の交流会等も開催し、心理的なケアにも配慮した。**キャリアサポートセンターと就職担当教職員一丸となって、学生の進路相談・対応にあたる体制をとり、令和3年度卒業生の就職内定率は100%となった。**

志願者募集では、高等学校進路指導教諭対象の説明会やオープンキャンパス、高校訪問など例年通り実施し、志願倍率は5.9倍となった。

【研究・地域連携】シーズ・ニーズマッチングシンポジウム、こまつ市民大学などを通じて、市民や地域社会への知の還元を図った。市民公開フォーラムは、**大学院開設のキックオフフォーラムと位置づけ、「持続可能性(サステナビリティ)」をテーマに開催した。本学教員の研究紹介に特化した広報誌「Tachyon Academia」**を新たに年1回作成・発行し、本学の研究内容・成果に関する情報を広く発信した。

【国際交流】昨年度に引き続き、オンラインを活用した各協定校との語学研修や交流会を積極的に実施した。また、2名の学生が交換留学へ参加した(うち1名はオンライン留学)。産学合同シリコンバレー研修として、ボイシー州立大学とオンラインでの交流会を初めて開催した。

【業務運営】大学院の開設に向けて、**粟津キャンパス大学院棟の竣工、末広キャンパス研究棟整備に係る調整、関係規則の制定、教員選考試験、各専攻入学者選抜試験**などを行った。Microsoft社のアプリを活用したオンライン会議やデータの共有による情報化の推進、業務の効率化を図った。



学位記授与式

## (2) 大項目別評価

Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置
1 教育に関する目標を達成するための措置

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.8	4 (33%)	4 (33%)	2 (17%)	0 (0%)	2 (17%)

### 【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

#### [教育について]

- 教育研究の質の向上に向けて、全授業において「授業評価アンケート」を実施し、結果を教員にフィードバックし授業改善につなげた。本年度の授業満足度は平均 4.26（目標値 3.3）となった。
- **各学科において、学外実習に本格的に取り組んだ。** 生産システム科学科「学外技術体験実習」において、84 名が 30 企業で 5 日間のインターンシップを実施した。国際文化交流学科においては、「インターンシップ」で 63 名が 68 企業を訪問し、就業意欲の向上を図るとともに、地元団体や企業、自治体の協力を得て、農業、観光、芸術、保育など、6 つの課題をテーマに 51 名が「地域実習」に取り組んだ。看護学科においても、近隣の保健・医療機関や福祉施設などと連携し、昨年実施できなかった各種臨地実習に取り組むことができた。臨床工学科においては、感染症対策を徹底し、大学設置申請の際に計画していた学外実習を全て実施することができた。特に、令和 4 年 3 月に卒業した第一期生のうち複数名が実習先の病院に就職しており、本実習は「インターンシップ」としての機能も担ったと考えられる。さらに、34 名の第一期生のうち 33 名が、ニプロ株式会社が主催する institute for MEDical Practice (iMEP) 研修に参加し、臨床工学技術に関連する最新の医療機器・設備に触れる経験ならびにブタなどの中型動物を用いた模擬手術などの研修を受ける機会を得た。
- 南加賀唯一の公立大学として工、文、医系の 3 学部 4 学科を備える総合大学として 2018 年に誕生した本学は、**令和 3 年度に完成年度を迎え、初の卒業生を送り出した。**今年度は、4 年次の卒業研究・論文の作成に向け、丁寧な指導・サポートを行った。また、国家試験対策として、看護学科では国家試験サポート委員が中心となって支援を行い、**看護師国家試験を受験した 50 名が全員合格、そのうち保健師国家試験を受験した 23 名も全員合格し、合格率 100% の数値目標を達成した。**臨床工学科では、数回模擬試験を実施し、その結果をもとに不得意分野の対策を個々の学生に指導した。さらに、国家試験対策講座を開講し、試験直前にはメールで質問を受け付けて 4 年生全員に解答例を公表するなど、細やかなサポートを行った。結果として**臨床工学技士の国家試験合格率は 91.2%で、全国合格率 80.5%を大きく上回った。**



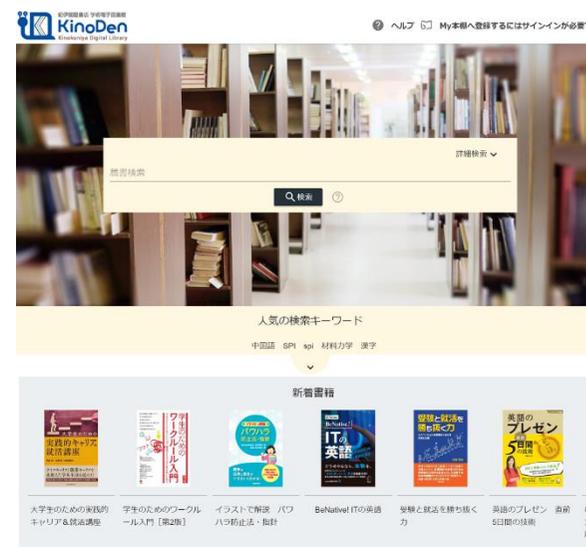
学位記授与式

[志願者確保について]

- 高校教諭対象の説明会やオープンキャンパス、高校訪問などはコロナウイルスに配慮してほぼ例年通り実施し、志願者の確保に努めた。また、2021年度の入試実績データ（志願者数や合格者得点数等）を分析し、2022年度入試における国際文化交流学科の一般入試募集定員の前期・中期日程における定員配分の見直しを行った。

[学生支援体制について]

- 各学科ともに相談教員を配置し、学生との定期的な面談により、学修面・生活面の把握とサポートを行った。また、生産システム科学科では、AI技術でイノベーションを起こし、地域活性化を図るとともに、**将来の地域社会を支えるAI人材の育成を目的に「AI研究会」を発足し**、授業以外での学生相互及び学生・教員間の交流を促進した。
- 学生生活の経済的支援については、授業料免除や奨学金申請の情報周知や助言などを積極的に行った。また、国の給付金である「学生等の学びを継続するための緊急給付金」について周知・申請受付を行い、191名の学生に給付金が支給された。
- 保健管理センターでは、学生定期健康診断を実施し、再検査が必要な学生に対して、再診の呼びかけを徹底した。また、保健医療学部1年生と臨床工学科2年生のB型肝炎集団予防接種を新規で行い、全員の接種と抗体検査を完了した。新型コロナウイルス感染症については、引き続き学内の感染症対策を徹底するとともに、**ワクチンの集団接種や個別接種の情報提供や会場への送迎バスの運行を行った**。学生・教職員からの連絡、相談にもきめ細かく対応した（令和3年度感染者数：学生27名、職員3名）。
- 附属図書館では、新入生に対してガイダンスを実施し、図書館利用の促進に取り組むとともに、**大学院サステイナブルシステム科学研究科の開設にあわせて、SDGs関連書籍の充実や、企画展示を行った**。また、就職活動支援として、電子書籍提供サービス「KinoDen」を導入し、就職活動関連図書を揃えた。ほかにも、ゴールデンウィーク中に自習室利用を可能にしたり、10月から末広図書館の閲覧室利用時間を拡大したりするなど、学生のニーズを踏まえた学習環境の充実を図った。



電子書籍「KinoDen」

- キャリアサポートセンターでは、3年生を対象に各種セミナーやガイダンス、グループディスカッション、地元若手経営者との就活イベント等、様々な企画を実施し、学生のキャリア形成と就活支援を行った。また、コロナ禍で不安を抱える学生が多い中、学生が孤立しないようにオンラインで就活の交流会を開催するなど、心理的なケアにも配慮した。なおキャリアサポートに関しては、キャリアサポートセンターと学科、就職担当教員が一丸となって、学生の進路相談・対応にあたる体制をとった。最終的に、**令和3年度卒業生の就職内定率は100%であった。**
- 国際交流については、協定校等とオンラインを活用した交流を積極的に実施するとともに、産学合同シリコンバレー研修として、ボイシー州立大学とオンラインでの交流会を初めて開催した。また新たに**韓国の湖西大学校と大学間協定を締結**し、交流協定は累計16件（大学間：10件、部局間：5件、その他：1件）となった。



面接練習会

[大学院について]

- 令和3年3月に行った文部科学省への大学院設置認可申請書の計画に沿って開設準備を進め、10月に**文部科学大臣から公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科の設置認可を「可」とする旨の答申を受けた。**サステイナブルシステム科学研究科では、公立小松大学が有する工・文・医系の知的人的資源を活かし、AI・データ科学や他者とのコミュニケーション能力を共通リテラシーとして涵養し、地域・世界の持続性に資する多様な専門知識と技能を備え、時代と社会の変化にしなやかに対応できる人材育成を図る。
- 入学者選抜試験は、11月から専攻毎に実施し、生産システム科学専攻に18名、ヘルスケアシステム科学専攻に4名、グローバル文化化学専攻に3名が合格した。
- 大学院設置に関する情報発信として、中央キャンパス及び小松市役所に懸垂幕を設置したほか、ホームページで教育理念や入試情報など随時発信することで、広く地域や一般の方への周知を図った。また、例年開催している市民公開フォーラムを大学院開設のキックオフフォーラムと位置づけ、「持続可能性（サステナビリティ）」をテーマに、大学院の客員・特任教授として迎える方々にもご講演いただいた。ほかにも、大学広報誌「Tachyon」において、大学院についての特集記事を掲載した。



粟津キャンパス大学院棟 修祓式・竣工式

- 粟津キャンパスに大学院棟を増設し、3月に修祓式および竣工式を行った。大学院棟は2階建て延べ床面積約600㎡で、研究室や実験室を配置し、風洞や放電加工機、電子顕微鏡など各種大型実験装置、機械設備を導入することで、更なる研究環境の向上を図った。

**II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置**  
**2 研究に関する目標を達成するための措置**

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
<b>3.9</b>	<b>6</b> (86%)	<b>0</b> (0%)	<b>0</b> (0%)	<b>1</b> (14%)	<b>0</b> (0%)

**【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

- 各学科に対し、研究支援として「研究発展・向上費」の募集を行い、各学科の特色を活かした個別研究テーマについて支援した。
- 本学独自の研究支援制度として、地域・世界の未来に資する特色ある独創的研究、産業・医療・国際上の問題等の解決に向けた研究を対象とした、「公立小松大学重点研究『みらい』」の募集を行い、応募のあった4件を審査委員会の審査のうえ採択した。
- コンプライアンス教育として**全教員を対象に日本学術振興会研究倫理 e ラーニングの一斉受講を実施**し、競争的研究費等の不正防止など研究倫理に関する意識の向上を図った。
- アカデミックな雰囲気の醸成・学部横断的な研究の推進を図ることを目的に、全教員を対象としたオンラインでの学内交流会「Salon de K」を毎月1回開催した。11月実施の「Salon de K」では、「公立小松大学重点研究『みらい』」の研究成果報告会を行った。
- 「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」は、「今こそ地域と共に！」をテーマにオンラインで開催した。産学官連携イベント（北陸技術交流テクノフェア、T-Messe2021 富山県ものづくり総合見本市、Matching HUB Kanazawa 2021）では、研究シーズの発信や地域連携推進センターの活動をPRした。
- **市民公開フォーラムは「持続可能性(サステナビリティ)」をキーワードに令和4年度本学客員・特任教授予定者を含む各分野の専門家4名を講師に招き、「地域と世界のサステナブルな未来を考える」と題して開催した。**
- 広報誌 Tachyon の研究版として教員の研究をより詳しく紹介する「Tachyon Academia」の第1号を発行し、本学教員の研究を広く発信した。
- **学会報告件数、論文・著書数は、目標値を大きく上回る結果となった(学会報告件数 146 件、論文数 117 編、英語その他外国語論文 84 編、著書 13 編)。**



広報誌「Tachyon Academia」Vol.1 (奥)  
 市民公開フォーラム チラシ (前)

## II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

### 3 国際交流に関する目標を達成するための措置

#### 【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.8	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (67%)

- 世界各国の大学等と協定締結に向けた交渉を続け、新たに大学間協定を1件締結し、協定は累計16件（大学間：10件、部局間：5件、その他：1件）となった。また、学生2人が交換留学へ参加し、1人が中国の東南大学へ半年間（R3.4.1～R3.8.31）オンライン留学、1人は米国のオースティン・ピー州立大学へ1年間（R4.1.1～R4.12.31）留学した。

また、**交換留学における学生の経済的援助を目的とした公立小松大学留学支援奨学金制度を設立し、採択された学生に対し、国・地域に応じた奨学金を給付した。**

- オンラインを活用し、各協定校と様々な語学研修や交流会を実施した。国際文化交流学科では「海外語学研修」において、中国の東南大学が開催する中国語初級者向けのサマースクールや中・上級者向けの中国語研修、ニュージーランドのオークランド大学 English Language Academy が開催する英語研修などに参加した。
- 日本と北米との間で対外発信力を有し、将来を担う人材を招へい・派遣する事業である**外務省対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」**に採択されたことにより、国際文化交流学部の学生が、米国のオハイオ大学、ウィスコンシン州立大学マディソン校、リーハイ大学の学生とオンラインで文化交流会を実施した。
- **令和3年度 JICA 青年研修事業に採択され、保健医療学部看護学科教員が主体となり、仏語圏アフリカ諸国の医療従事者を対象とした「地域保健医療」プログラム（R4.1.18～R4.2.8）を実施した。**
- 地域の多文化理解の促進に向けた取り組みとして、こまつ市民大学で中国語講座や世界遺産検定チャレンジ講座などを開講した。また、小松市国際交流協会と共催で英会話カフェを15回、中国語カフェを4回開催した。



対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」でのグループフォト



小松市在住中国出身の方を講師に迎えた中国語カフェ

**Ⅲ 地域貢献に関する目標を達成するための措置**

**【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.8	3 (42%)	2 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (29%)

- サステイナブルな未来について、各研究分野の視点で考察し、市民や地域社会への知の還元を図るため、**市民公開フォーラム「地域と世界のサステイナブル未来を考える」、シーズ・ニーズマッチングシンポジウム「今こそ地域と共に！」を実施した。**
- 共同研究や受託研究の推進、地域の課題解決に向けた大学の知の還元を目指し、地域連携推進センターを中心に、Matching HUB Hokuriku 2021、北陸技術交流テクノフェア、T-Messe2021 富山県ものづくり総合見本市などの産官学連携イベントに出展し、大学の情報発信と地域連携事業のPRを行った。
- 地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出するため、各教員の研究分野に沿った「こまつ市民大学」講座を小松市教育委員会生涯学習課と連携して感染対策を行いつつ開講した。
- SVJC (Silicon Valley Japan College) 主催のオンラインによるシリコンバレー研修「プロとつながる9日間 人脈が全て」を8月23日～31日に開催し、小松市内の企業数社が参加した。また、担当教員と学生との意見交換を行い、今後のシリコンバレー連携事業の方向性を検討した。
- サイエンスヒルズこまつのイベント等で教員が講師を務め、夏休みの自由研究のヒントや子どもたちに学び、発見の楽しさを伝えた。また、9月より新たに大学紹介展示を設置し、PR動画の放送、学部紹介、研究者紹介などを行った。
- 大学祭「第4回青松祭」は昨年度同様オンラインで開催し、学生実行委員会を中心に学生が企画・動画の作成等を進めた。事前に撮影した学術講演、サークル等のPR動画など様々な企画のストーリーミング配信を行うとともに、一部ライブ配信を行った。
- 昨年度に引き続き小松市から依頼を受け、**4月17日から8月29日の間に行われた延べ122回の新型コロナウイルスワクチン集団接種に看護学科の教員延べ168人、学生延べ197人が協力し、市内3カ所の集団接種会場において、経過観察や会場誘導を行った。**



第4回青松祭（オンライン開催）



Matching HUB Hokuriku 2021

#### IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

##### 【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

- 理事長及び学長両名のトップマネジメントのもと、理事会や各種審議会、教授会等を運営し、適切な法人運営に取り組んだ。自己点検・評価委員会及び評価室により、各セクションの年間の業務の方針や予定、進捗状況の管理表を作成し、半年に一度ヒアリングを実施し、各組織の業務全体を把握し、適切な進捗管理を推進した。
- 大学院設置認可申請業務のため、担当事務職員（専任1名、併任3名）を選任し、修士・博士課程設置検討WGとともに準備を進めた。
- 教員選考試験や栗津キャンパスの大学院棟整備を実施し、質の高い教育研究を実施できる体制づくりを進めた。また、教員評価基準検討WGを設置し、実施概要を策定した。
- **大学院の開設に向けて、栗津キャンパス大学院棟の竣工、末広キャンパス研究棟整備に係る調整、関係規則の制定、大学院担当職員を選任、教員選考試験、各専攻の入学者選抜試験などを行った。**
- **全学FD/SD研修会を2回実施**するとともに、公大協等外部主催のオンライン研修会への参加を促した。
- Microsoft社のアプリを活用した会議やデータ集約など、情報化の推進及び業務の効率化を図った。



栗津キャンパス大学院棟（令和4年3月竣工）

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.9	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

#### V 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

##### 【自己評価】中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

- 入学志願者の確保及び入学定員の充足によって安定した学生生徒等納付金収入の確保を図るため、コロナ禍においてもオンラインの活用等工夫を凝らしながら、オープンキャンパスの開催や高校訪問、進路指導教諭対象説明会、進学相談会への参加など、様々な取組を実施した。
- パンフレット「公立小松大学基金への寄附のご案内」の活用や、ホームページの基金の活用事例を紹介するページにより、基金の受け入れを促進した。また、**科学研究費及びその他外部資金獲得の実績は、完成年度以降目標値を超える結果(科学研究費採択数:44件、その他外部資金獲得数:14件)となった。**

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.3	2 (67%)	1 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

## VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

### 【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.6	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

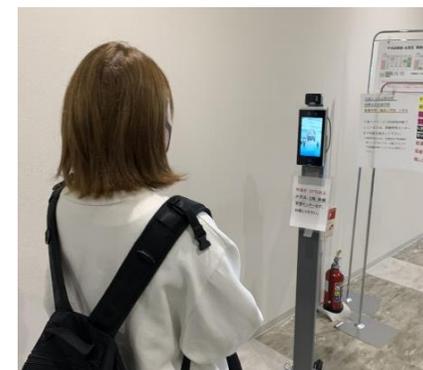
- 自己点検・評価委員会及び評価室により、年間の業務の方針、予定、進捗状況を管理するため、進捗管理様式を定め、法人・大学の組織ごとに作成し、半年に一回、評価室にてヒアリングを実施した。ヒアリングにおいては、業務実績評価における今後の課題について十分に配慮した上で滞りなく業務を遂行できているかについても確認した。評価の実施にあたっては、法人の審議会や各種委員会において説明を行い、円滑な実施に努めた。
- 「広報室」を中心に、広報誌「Tachyon」、大学案内の発行、ホームページの運用、ラジオ番組「世界に向かって飛び立て！公立小松大学」などの様々な媒体での広報活動を展開した。**新たな広報媒体として、研究に特化した広報誌「Tachyon Academia」を発行し、本学の研究内容・成果に関する発信を強化した。**また後期の全学科オリエンテーションで、リーフレット「大学生から知っておきたいメディア対応力」を配付し、取材対応の注意点などを説明することで、学生へのメディアリテラシーの向上を図った。

## VII その他業務運営に関する目標を達成するための措置

### 【自己評価】中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
3.4	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

- 昨年度より全キャンパスに空気清浄機計 10 台、オゾン発生器計 100 台、サーモグラフィー体温測定器計 4 台を設置するとともに、職員が日々施設内消毒を実施するなど、新型コロナウイルス感染防止に努めた。
- 危機管理委員会及び安全衛生委員会を定期的開催し、**教職員・学生の新型コロナウイルス感染に対する危機意識を組織的に高めた。**
- 職員を対象とした定期健康診断やストレスチェック、全学的な SD・FD 研修等を実施し、職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。また、年 5 日以上の子休取得義務化を受け、定期的に職員へ有給休暇の取得状況を通知し、年休の取得促進を図った。
- 新型コロナウイルス感染症の対策として、教員の在宅勤務制度の構築やオンライン会議の積極的導入など、各課で業務改善を行った。



サーモグラフィー体温測定器

- 安否確認システム「Safetylink24」について、新入生をはじめ、新たに採用された教職員に対しても説明を行い、登録を促進した。また、安否確認システム配信訓練を年2回実施し、訓練未回答者に対しアプリのインストールを案内した。
- 令和2年度の決算・業務について監事監査を実施し、法人業務は適正に実施していると認められた。
- 令和2年度の業務・会計処理について学生課及び総務課（人事係）に対し内部監査を実施した。また、公的研究費の交付金額が多い各学科の教員1名を選出し、公的研究費内部監査を実施した。

**XII 余剰金の使途**

**【自己評価】中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる**

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
<b>3.0</b>	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

- 令和2年度決算において計上した当期総利益の80,578,200円を教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てるため積み立てた。

**XIII その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項**

**【自己評価】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

小項目別 評価平均値	指標単位評価				
	s	a	b	c	d
<b>3.5</b>	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)

- 大学院の開設に向けて、栗津キャンパスでは大学院棟を建設した。また、キャンパス長寿命化計画に基づき、栗津キャンパス学生食堂の外壁修繕を行った。さらに、計画外の対応として、末広キャンパスでは研究実験棟整備のため建設用地の購入をはじめ基本設計に着手するなど、研究施設の整備を加速させた。
- 目的積立金より80,578,200円を取崩し、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てた。

(3) 小項目別評価

① 自己評価結果一覧

大項目	事業 項目数	5	4	3	2	1	評定 平均値
		年度計画を大 幅に上回る	年度計画を上 回る	年度計画を概 ね実施	年度計画を十 分に実施せず	年度計画を大 幅に下回る	
II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 1 教育に関する目標を達成するための措置	47	5 (10.6%)	30 (63.8%)	11 (23.4%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	3.8
II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 2 研究に関する目標を達成するための措置	10	0 (0.0%)	9 (90.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
II 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置 3 国際交流に関する目標を達成するための措置	5	0 (0.0%)	4 (80.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.8
III 地域貢献に関する目標を達成するための措置	12	1 (8.3%)	8 (66.7%)	2 (16.7%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	3.8
IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	17	1 (5.9%)	13 (76.5%)	3 (17.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.9
V 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	10	0 (0.0%)	3 (30.0%)	7 (70.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.3
VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	5	0 (0.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.6
VII その他業務運営に関する目標を達成するための措置	19	0 (0.0%)	7 (36.8%)	12 (63.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.4
X II 余剰金の使途	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.0
X III その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	2	0 (0.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.5
合計	128	7 (5.5%)	78 (60.9%)	41 (32.0%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	3.7

② 小項目別業務実績・自己評価結果（詳細）

Ⅱ 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 共通教育

中期目標	学生の学習意欲を高め、基礎的な学力と豊かな人間性を涵養するために、導入科目、一般科目及び外国語科目を開講する。また、専門領域を超えた分野横断的な教育を行い、学生の交流と幅広い視野・思考力・総合力の育成に努める。大学が立地する小松市はもとより日本、世界の歴史や文化の理解を高める。
------	---

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 教育に関する目標を達成するための措置 - (1) 共通教育</b>					
①学生の学習意欲を高め、基礎的な学力と豊かな人間性を涵養するために、導入科目、一般科目及び外国語科目を開講する。	II-1-1	大学設置認可申請書に記載した教育課程を体系的、組織的に実行するとともに、学習成果の評価方法を点検・改善する。 オンライン授業を導入した令和2年度の学生の学習到達具合、モチベーションなどを分析しながら、今後の授業形態のあり方を検討する。	各学部、教育企画委員会	<p>年間の履修登録単位に上限が設けられているCAP制により、学生が希望する時期に履修登録できない等の課題が抽出された。そのため保健医療学部と国際文化交流学部では学部規定の一部改正を行い、組織全体として教育課程の改善に取り組んだ(生産システム科学部においても改正に向けて準備中)。 (学部規定改定内容) 保健医療学部:年間の履修登録上限を48単位から「52単位」に 国際文化交流学部:年間の履修登録上限46単位を「学期毎の履修登録上限を24単位」とし、学部共通科目をその適用から外した。</p> <p>学習成果の評価については、臨床工学科でアンケートを実施し、その内容をPDCAサイクルによって教育効果の分析と確認、教育形態の改良を行った。後期は、前期の授業アンケート結果に基づき、宿題や小テストで復習の機会を増やすことで、学生の理解度が高まったという結果となった。 生産システム科学科では実習科目でのDXの導入をめざし、教材の製作および教育DXに関するFDフォーラムに教員2名が参加した。 また、オンライン授業(令和2年度実施)と対面授業(令和元年度、令和3年度前期実施)における満足度の比較・分析を行った結果、同じような評価であった。引き続きこの結果を踏まえ、今後の授業形態のあり方について検討を進めていく。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-2	アクティブ・ラーニングや少人数教育、複数の教員集団によるきめ細かい指導等の取組を推進し、授業内容に応じた学生の学習意欲の向上を図る。	各学部	<p>共通教育科目の導入科目の内、「アカデミック・スキルズ」、「テーマ別基礎ゼミ」は、いずれも、少人数グループに分かれての討議や演習、発表などのアクティブ・ラーニングを取り入れて実施した。</p> <p>また、2年次の専門基礎科目や3年次の専門共通科目でも少人数制の指導やグループディスカッションなどを取り入れ、学生の主体的な学びにつなげている。</p> <p>生産システム科学科では、「テーマ別基礎ゼミ」、「課題探求プロジェクト」において、担当教員との議論を中心に据えた形で、各テーマについての解析、実験等を行った。また、各種演習付き科目において、教員やティーチングアシスタントとの間で演習問題についての質疑を活発に行った。</p> <p>看護学科では、「テーマ別基礎ゼミ」において、昨年同様5グループに分かれ、少人数でのきめ細かい指導を行った。</p> <p>臨床工学科では、「アカデミック・スキルズ」において3人一組でグループを作り、課題提案、調査・検討を行い、発表会と報告書提出まで指導した。なお、後期は対面で実施し、オンラインよりも理解しやすいとの評価であった。</p> <p>国際文化交流学科では、「テーマ別基礎ゼミ(1年次)」、「演習ゼミ(3年次)」において、感染対策を行った上でプレゼンテーションとディスカッションを試みるとともに、「インターンシップ」の事前・事後指導で、オンラインによるプレゼンテーションとディスカッション能力の向上を図った。</p> <p>また、3年次の「地域実習」(全6クラス)では、受講者が実際に現場に出て問題に取り組むことで、教室で学んだ考えや知識を経験的に身につけ応用する「アクティブ・ラーニング」を取り入れた。いくつかのクラスでは今年度小松市で開催された「日本遺産サミット」への参加を通して、地域貢献に対する意欲が高まった。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-3	自らの学びと社会とのつながりを知るための学修機会を設け、社会の第一線で活躍している方のゲストスピーカー招聘等を実施する。	教育企画委員会	<p>各学科、キャリアデザインを展望しながら、組織や社会集団の一員として貢献していくための知識とノウハウを学ぶための導入科目「キャリアデザイン・チーム論」を中心に、産業界や医療界などで活躍する講師を招き、自らの学びと将来のイメージを繋ぎ、学生の学修意欲の向上につなげた。</p> <p>【生産システム科学科】 「キャリアデザインチーム論」「日本産業史」において、南加賀の産業の発展に触れ、その歴史や産業構造の特色について講義した。また、実社会で生きて行くための基礎知識をJAFのスタッフや弁護士を招いて特別講義を実施した。</p> <p>◎南加賀産業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/26 市山勉氏(㈱エオネックス代表取締役社長)</li> <li>・6/2 黒本和憲氏(㈱小松製作所顧問)</li> <li>・6/9 近藤高行氏(会宝産業㈱代表取締役社長)</li> </ul> <p>◎「振動工学及び演習」特別講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/30 山崎直子氏(本学学長特別補佐)「宇宙・人・夢をつなぐ～宇宙の動向」</li> </ul> <p>◎「エネルギー資源と開発」特別講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12/22 池上康之氏(佐賀大学教授)「海洋熱エネルギー」</li> <li>・1/12 土井隆雄氏(京都大学特定教授)「宇宙における人間活動」</li> </ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>【保健医療学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/12 JAF(日本自動車連盟石川県支部)「大人の交通マナー」</li> <li>・5/19 石川県消費生活支援センター「賢い消費者塾」</li> <li>・6/2 堤敦朗(金沢大学教授)</li> </ul> <p>【看護学科】</p> <p>専門基礎科目及び専門科目の講義・演習・実習科目において、小松市民病院の院長及び看護部認定看護師等、小松市で活躍している保健師及び訪問看護師等、多彩なゲストスピーカーを招聘した。なお臨地実習については、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全て学内実習で実施したが、今年度は半分ほど実際の現場で対面での実習を行うことができた。</p> <p>【臨床工学科】</p> <p>「チーム医療論」では金沢大学附属病院ME機器管理センター、加賀医療センター危機管理室、ソフィア病院腎臓内科、東京大学大学院医学系研究科より講師を招き「他医療職種との連携」「チーム医療とコミュニケーション」「他職種連携による研究成果を基にしたチーム医療」などの地域医療や研究など幅広い授業を行った。</p> <p>また「学内実習」では、臨床工学技士として地元医療機関で活躍している瀬尾篤宣氏による、臨床業務の経験に基づく技術的実習指導を定期的実施した。※対面で実施</p> <p>【国際交流文化学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/17 宮橋小松市長「共につくろう！新しい小松へ」(1年次対象の「キャリアデザイン・チーム論Ⅲ」)</li> <li>・1/26 中台外交専門家「緊張高まる台湾海峡情勢と日本の対応」</li> <li>・1/21、28、2/4 公開講演会「北陸で学ぶ中東の政治・宗教・社会」</li> </ul> <p>他にも、キャリアサポートセンターの松木礼子氏によるキャリアデザインに関する実践的レクチャーを実施した。</p>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-4	授業評価アンケート等の集計結果を、科目ごとに各学部において分析を行う。課題を整理し、対策を講じることにより、教育の質の向上を図る。	各学部、教育企画委員会	<p>前期・後期の最終回の授業で、学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てる為、全学的に授業評価アンケートを実施した。 集計には、学生の利便性、集計作業の効率化などを踏まえ、ポータルサイト(学務情報システム)を利用した。 アンケート結果は授業改善に活用するため、全教員にフィードバックされ、学長や学部長・学科長から、授業内容の改善等に関する必要な指示がなされた。</p> <p>その他、各学科の独自の取り組みにより、教育の質の向上に努めている。</p> <p>【生産システム科学科】 特に評価が低い科目の教員と学科長が話し合いを持ち、その原因について議論した。</p> <p>【看護学科】 実習に関するアンケートを各看護領域で独自に実施し、改善に向けた対策を講じた。</p> <p>【臨床工学科】 実習レポートや授業内の小テストの後にアンケート調査を行い、学生の授業に対する意見を聴取。PDCAサイクルで授業改善を図っている。さらに、新たな試みとして学生へのアンケート調査による「学習効果の見える化」を実施。各学期で個人面談を実施し、講義・実習に対する疑問点など聴き、学習法などを指導した。</p> <p>【国際文化交流学科】 アンケートを分析し、学部全体に関わる問題点と個々の教員に関わる問題点を整理して、対策を検討している。</p> <p>[授業満足度(5点満点)] 全体 平均4.26(目標値3.3) ※令和2年度全体平均4.2 (前期 平均4.27 / 後期 平均4.25)</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<p>②学生の交流と幅広い視野・思考力・総合力を育成するため、専門領域を超えた分野横断的な教育と、大学が立地する小松市はもとより日本、世界の歴史や文化の理解を高める教育を行う。</p>	<p>II-1-5</p>	<p>学生全員が地域を学び、地域に触れ、地域について考える機会を授業に積極的に取り入れ、地域社会に貢献できる人材育成を展開する。</p>	<p>各学部、教育企画委員会</p>	<p>導入科目で「南加賀の歴史と文化」を全学部の1年生が受講し、古典の読解を通して地域の歴史を学んだ。</p> <p>生産システム科学科では、「キャリアデザインチーム論」「日本産業史」において、南加賀の産業の発展に触れ、その歴史や産業構造の特色について講義した。また、地域で活躍している企業家を招いて特別講義を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/26 市山勉氏(㈱エオネックス代表取締役社長)</li> <li>・6/2 黒本和憲氏(㈱小松製作所顧問)</li> <li>・6/9 近藤高行氏(会宝産業㈱代表取締役社長)</li> </ul> <p>「環境技術適合論」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/20 小林与志次氏(小松市首席専門官)「小松市の環境への取り組み」</li> <li>・7/27 小林与志次氏(小松市首席専門官)「木場湯見学」</li> </ul> <p>「資源有効利用学」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2/15 小松市エコロジーパークこまつ(環境保全センター) 見学</li> </ul> <p>看護学科では、専門基礎科目及び専門科目において、地域で活躍している人材(医師、看護師、保健師等)が非常勤講師あるいは特別講義講師・臨地実習指導者として学生の教育に携わっている。</p> <p>また、2月18日に、看護学科2・3年生を対象に小松市民病院との交流会を開催し、25名が参加した。</p> <p>臨床工学科では、キャリアデザインのために地域の外部講師を招聘し、JAF(日本自動車連盟石川県支部)「大人の交通マナー」、石川県消費生活支援センター「賢い消費者塾」、堤敦朗教授(金沢大学)などに講演いただいた。また「学内実習」では、臨床工学技士として地元医療機関で活躍している瀬尾篤宣氏による技術的実習指導を定期的実施した。</p> <p>国際文化交流学科では、感染対策をとりながら「地域実習」及び国際観光地域創生コースの演習(ゼミ)を中心に地域連携の諸活動を少しずつ進め、後期には活動が本格化した。3年次の「地域実習」では、各種団体と連携し、下記課題に取り組んだ(括弧内は連携団体)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学童保育のサポート活動(NPO法人「円満の会」) 3名</li> <li>(2) 農業・農村の6次産業化(株式会社六星) 6名</li> <li>(3) 里山地域活性化(鶴遊立地域活性化委員会、小松市観光文化課、コマツなど) 9名</li> <li>(4) 九谷焼振興と観光活性化(小松市観光文化課、能美市観光交流課、九谷焼関係者・作家など) 17名</li> <li>(5) 地域の芸術・文化支援(小松芸術劇場うらら) 7名</li> <li>(6) 滝ヶ原フィールドワーク(一般社団法人北陸古民家再生機構、株式会社滝ヶ原クラフトアンドステイ、株式会社滝ヶ原ファーム、小松市観光文化課など) 9名</li> </ol> <p>これら6本の課題について、成果報告と合同の総括会を行なった。</p>	<p>4</p>

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-6	全学部学生のTOEIC受験を奨励するとともに、中期計画の教育指標の目標値達成に向け、スコアの分析を踏まえ授業改善や特別講座を実施する。	国際文化交流学科、教育企画委員会	<p>【全学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次を対象に、TOEICの出題形式のテキストに基づき、リスニング力および文章読解力の養成を目指す授業科目「実用英語 I・II・III・IV」を開講した(全60回)。</li> <li>・2/17 TOEICIP試験を実施 対象:全学科希望者(国際文化交流学科は1年生) 受験者数:108名(生産31名、臨床4名、国際73名) 平均点:488点(国際文化交流学部は526点)</li> </ul> <p>【国際文化交流学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/21～24 9/29のTOEIC受験に向けた直前対策講座を実施 中位以下の学生を対象として底上げを図り、全体の傾向と個々の学生の問題点について分析し、学生に助言を行った。 対象:2～4年生、参加者:7名</li> <li>・9/29 TOEIC受験 過去3回の受験で平均点が約50点上昇し、最高点も885点と高いため、一つの成果と言える。一方450点以下の層も厚く、この層が平均点を押し下げている(最低点は290点)。 対象:4年生(R4年3月卒業生) 受験者数:75名 平均点:549点(数値目標600点) ※600点以上は28名(37.3%)</li> </ul> <p>なお、3年生は過去3回の受験で平均点が542.3点で、初回から約60点上昇した。</p>	3
	II-1-7	幅広い視野と豊かな人間性の育成を図るため、分野横断的なテーマを扱う授業を実施する。	教育企画委員会	<p>共通教育科目の一般科目(人間力)において、コミュニケーション能力、表現力の要請を通じて豊かな人間性の育成を図るための授業を開講した(「哲学」「人文地理学」「言葉と文化」ほか6科目)。また、全学科対象の「南加賀の歴史と文化」は横断型科目として、全学生に対して地域への理解を深めた。</p> <p>さらに、保健医療学部では4年生対象の「看護技術の科学的検証」において、看護学科・臨床工学科の両学生が分野横断的なテーマを設定し、授業の成果を学生が学会発表した(第9回看護理工学会)。</p>	3

(2) 小項目別業務実績・自己評価結果 (詳細)

II 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(2) 専門教育

中期目標	確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた講義、演習を行うとともに、実践的な課題解決型学習を行う。これにより、主体的な学びの姿勢を育み、日本と世界に広く通用しうる課題発見・解決能力の醸成を図る。
------	--

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 教育に関する目標を達成するための措置 - (2) 専門教育</b>					
① 確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた講義、演習を行う。	II-1-8	学生が専門分野に対して関心を持って学習に取り組むよう、教育方法の改善に努め、質の高い教育を実施する。	各学部、教育企画委員会	<p>生産システム科学科では、3年次必修科目「学外技術体験実習」において、受講者計84人が近隣の30企業で1週間の実習を体験した。</p> <p>看護学科では、非常勤講師が担当する専門基礎科目並びに専門科目において、学生評価は概ね良好である。また、臨床医学系の講義科目の多くは近隣の病院等に勤務する医師に依頼し、質の高い教育を進めている。</p> <p>臨床工学科では、1年次の解剖学と生理学の試験成績が不良だった学生に、その理由について自己分析行ってもらうことで、自らの課題について考える教育を行った。また、理解が浅い学生が多い電気工学では、より基礎的な項目の確認や演習を多く取り入れて理解を深めた。2年次の医学概論においては、医の倫理が問われる具体的ケースについて判断する演習を行った。また、電子工学では毎回の講義で課題を出し、課題の解答はTEAMS上で共有することで、学生自身で復習できるようにした。</p> <p>国際文化交流学科では、学生は履修モデルなどで例示された教員の指導方針に従って履修しているケースが多いことが検証の結果見えてきた。この結果を踏まえ、現行カリキュラムや教学制度について改善すべき点の洗い出しを行い、看護学科以外の他学科と歩調を合わせて、カリキュラム改正へ向けての準備を進めている。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-9	<p><b>【II-1-4】再掲</b></p> <p>授業評価アンケート等の集計結果を、科目ごとに各学部において分析を行う。課題を整理し、対策を講じることにより、教育の質の向上を図る。</p>	各学部、教育企画委員会	<p>前期・後期の最終回の授業で、学生の理解度や満足度を把握し、授業内容や教授法の改善に役立てる為、全学的に授業評価アンケートを実施した。</p> <p>集計には、学生の利便性、集計作業の効率化などを踏まえ、ポータルサイト(学務情報システム)を利用した。</p> <p>アンケート結果は授業改善に活用するため、全教員にフィードバックされ、学長や学部長・学科長から、授業内容の改善等に関する必要な指示がなされた。</p> <p>その他、各学科の独自の取り組みにより、教育の質の向上に努めている。</p> <p><b>【生産システム科学科】</b> 特に評価が低い科目の教員と学科長が話し合いを持ち、その原因について議論した。</p> <p><b>【看護学科】</b> 実習に関するアンケートを各看護領域で独自に実施し、改善に向けた対策を講じた。</p> <p><b>【臨床工学科】</b> 実習レポートや授業内の小テストの後にアンケート調査を行い、学生の授業に対する意見を聴取。PDCAサイクルで授業改善を図っている。さらに、新たな試みとして学生へのアンケート調査による「学習効果の見える化」を実施。各学期で個人面談を実施し、講義・実習に対する疑問点など聴き、学習法などを指導した。</p> <p><b>【国際文化交流学科】</b> アンケートを分析し、学部全体に関わる問題点と個々の教員に関わる問題点を整理して、対策を検討している。</p> <p>[授業満足度(5点満点)] 全体 平均4.26(目標値3.3) ※令和2年度全体平均4.2 (前期 平均4.27 / 後期 平均4.25)</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-10	コース選択にあたっては、入学時のオリエンテーションにおいて十分な説明を行う。また、適切なコース選択が行われるよう、学生の適性、関心、希望を踏まえた教員による進路の相談・助言を定期的に行う。	生産システム科学科、看護学科、国際文化交流学科	<p>生産システム科学科では、入学時のオリエンテーションにおいてコース配属について単位取得条件を含め周知し、かつ半期ごとのオリエンテーションでも繰り返し説明をした。 2021年度 生産機械コース 36名／知能機械コース 35名</p> <p>看護学科では、学生の保健師養成課程のコース選択のニーズに対してさらなる充足を図るため、「履修資格放棄届」制度を導入した。また、1年次に2回(4月/後期履修ガイダンス時)、2年次に3回(前期・後期各履修ガイダンス時及び12月単独説明会)情報提供し、相談する体制を確立した。 2021年度 保健師コース選択 20名(定員上限25名)</p> <p>国際文化交流学科では、オリエンテーション等でコース選択に関する概要説明及び指導を行い、多くの学生が、2年前期の専門基礎科目履修を通じて卒業後の進路も見越したコース選択を行っている。なお、コース選択に迷う学生については相談教員が個別に助言を行い、2年後期中はコース変更の相談にも柔軟に対応している。 2021年度 国際観光・地域創生コース 45名／グローバルスタディーズコース 34名</p>	3
	II-1-11	卒業研究、論文の作成に向け、学習計画の立案を支援する。学内での研究発表を実施する。現行カリキュラムの評価・検証を行い、将来のカリキュラム改正につなげる。	生産システム科学科	<p>各研究室で卒業研究の進捗を定期的実施し、学生の研究を支援した。また、学内で中間発表会と最終発表会を実施した。</p> <p>・12/15 中間発表 学生が卒業研究をまとめたパネルを使って、地元企業からの見学者にそれぞれの研究テーマを発表した。 学内参加者:4年生67名、3年生56名、教員・技術職員22名 学外参加者:47名 ※(株)小松製作所、澁谷工業(株)、ライオンパワー(株)等、地元の正常業やIT企業27社が参加</p> <p>・2/18 最終発表(卒業研究アブストラクト集を印刷)</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-12	<p>近隣の保健・医療機関や社会福祉施設、保育所などと連携し、各種臨地実習を実施する。 令和3年4月からの保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正(令和4年度の入学生から新カリキュラムの適用)を受け、関係する現行カリキュラムの評価・検証を行い、カリキュラム改正を進める。 卒業研究、論文の作成に向け、学習計画の立案を支援する。学内での研究発表を実施する。 看護師、保健師の国家試験に向けて、学修進度に応じた支援を実施し、全員の合格に向けた組織的な取組を推進する。</p>	看護学科	<p>最終年度の看護統合実習及び公衆衛生看護実習も滞りなく実施することができた。 COVID-19による影響を鑑み、各看護領域が柔軟に対処し、深刻な課題は生じなかった。 また、現行カリキュラムの振り返りを行い、新カリキュラムに適合したカリキュラム改正を検討し、文科省に変更申請(9月)。その後、変更申請は意見なしで承認された(令和4年1月26日付)。 卒業研究については方針通りに進み、国家試験サポート委員会が中心となって、学科内全体で学生の看護師・保健師の国家試験合格100%を目指して支援を行った。2月3日に各学生に受験票を配布し、teams内による壮行会を開催した(教員からの激励メッセージ、受験グッズ贈呈)。</p> <p>[看護師国家試験(2021年度卒業生)] 合格者:50名(合格率100%) ※全国合格率 91.3%</p> <p>[保健師国家試験(2021年度卒業生)] 合格者:23名(合格率100%) ※全国合格率89.3%</p>	5
	II-1-13	<p>専門科目の講義、演習、学内実習にあたっては、学生がより効果的に学べるように各種実習機器やシミュレーションモデルを積極的に活用する。 卒業研究、論文の作成に向け、学習計画の立案を支援する。学内での研究発表を実施する。 臨床工学技士の国家試験に向けて、学修進度に応じた支援を実施し、全員の合格に向けた組織的な取組を推進する。 看護学科のカリキュラム改正に伴い、関連する合同講義などのカリキュラム改正を検討する。そのほか、現行カリキュラムの評価・検証を行い、将来のカリキュラム改正につなげる。</p>	臨床工学科	<p>学内実習においては、生体と同様な操作を体感できる人工心肺シュミレータを活用した。 国家試験対策として、数回の模擬試験を行い、その結果を基に不得意分野の対策を学生個々に指導した。また、4年生前期の学生に対して、電気電子情報関係の国試対策補講を行った。過去問を中心として、基礎の復習、問題解法のポイントなどを指導した。さらに4年生の病院実習前に、ニプロiMEPでの動物(ブタ)を用いた外部研修(滋賀県)を行った。 内容は呼吸・代謝・循環の生命維持管理装置、その他ME機器を学生が中心で操作を行うもので、学生教育としては生命維持管理装置の操作もさることながら、犠牲になる動物への敬意、生命に対する尊厳、医療人としての倫理的な自覚を促した。実習レポートなどによれば、学生には緊張感のある教育効果の大きい外部実習であり、来年以降も実施したい。 11月からは国家試験対策講座を開講し、受験指導を行った。11月下旬と1月の合計3回の全国統一模擬試験を学内で実施した。1月からはメールでの質問も受け付け、当該学生だけでなく、4年生全員に解答例をメール添付で送った。非常に好評であった。 カリキュラム改正についてはワーキンググループを発足し検討を行った。</p> <p>[臨床工学技師国家試験(2021年度卒業生)] 合格者:31名(合格率91.2%) ※全国合格率80.5%</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-14	<p>地域実習、インターンシップ、異文化体験実習、海外語学研修の実施にあたっては、受入先企業や大学、行政などと担当教員が連携協力し、課題解決能力や実践能力の養成を図る。 卒業論文の執筆に向け、学習計画の立案を支援する。 現行カリキュラムの評価・検証を行い、将来のカリキュラム改正につなげる。</p>	国際文化交 流学科	<p>[地域実習] 一部、感染拡大により地域での活動が制限されたため実施が10月以降にずれ込んだが、下記6課題について実施した。(括弧内は連携団体) [II-1-5再掲] (1) 学童保育のサポート活動(NPO法人「円満の会」) (2) 農業・農村の6次産業化(株式会社六星) (3) 里山地域活性化(鶴遊立地域活性化委員会、小松市観光文化課、コマツなど) (4) 九谷焼振興と観光活性化(小松市観光文化課、能美市観光交流課、九谷焼関係者・作家など) (5) 地域の芸術・文化支援(小松芸術劇場うらら) (6) 滝ヶ原フィールドワーク(一般社団法人北陸古民家再生機構、株式会社滝ヶ原クラフトアンドステイ、株式会社滝ヶ原ファーム、小松市観光文化課など)</p> <p>[海外語学研修、異文化体験実習] 設置計画書の記載通り、オンラインによる研修を実施した。 ・中国 東南大学中国語サマースクール 11人(8/23～9/5) 東南大学春季中国語研修 8人(2/14～2/25) ・ニュージーランド オークランド大学English Language Academy英語研修 1人(2/14～3/11) ・フィリピン Davao Language Academy, Summer English Course 14人(2/1～3/20)</p> <p>[インターンシップ] ＜海外＞ 金沢大学環日本海域環境研究センターと共同で行っている「カンボジア国立アンコール遺跡整備公園インターンシップ」は、春休み期間(2022年2～3月)の実施を検討していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。 ＜国内＞ 夏季の国内インターンシップ参加者が例年に比べ増加し、9月末までに63名が研修を終えた。8月-9月期は感染拡大がピークに達したため、中止・延期されるインターンシップが相次いだ。地元企業68社の協力を得て研修先を振替えて確保することができた。インターンシップの時期が一部でずれ込んだことで、地域実習の実施に影響が出ることもあった。主なインターンシップ受け入れ企業: ㈱北國銀行、小松市役所、小松ウォール工業㈱、㈱ホテルアローレ、石川テレビ放送㈱など 68社</p> <p>[卒業論文] ゼミ単位で綿密な指導が実施され、期日までに卒業予定者全員が論文を提出した。副指導教員は側面から個別に学生のケアを行った。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②ディプロマポリシーに掲げる専門能力を強化するため、各学部・学科に対応した地域あるいは海外の課題と取り組むProject-based Learning(課題解決型学習)を行う。	II-1-15	「課題探求プロジェクト」、「学外技術体験実習A、B」において受入企業等と連携協力し、課題抽出や課題設定、授業方法などの改善に取り組む。	生産システム 科学科	「課題探求プロジェクト」、「学外技術体験実習」においてPBLを実施し、それらの学科内合同発表会を計画した。「学外技術体験実習」では、受入企業と連携し、5日間のインターンシップを実施。10月29日に栗津キャンパスで合同発表会を行った。「課題探求プロジェクト」では、1月21日、27日に合同発表会を予定していたが、感染拡大防止のため各研究室でオンラインによる発表会に切り替えて実施した。	4
	II-1-16	各看護学領域において実施される「看護実習」等において、PBLを行う。学修成果を分析し、授業方法の改善に取り組む。	看護学科	「看護実習」等において、PBLを行った。また、国家試験対策を踏まえて、教員による「国家試験サポート委員会」を月1回開催した(各領域から委員を出した)。学生の希望により、担任からの実質的サポートも行った。	4
	II-1-17	「テーマ別基礎ゼミ」等でPBLを行う。学修成果を分析し、授業方法の改善に取り組む。	臨床工学科	「テーマ別基礎ゼミ」(全15回)では、医療や工学の基礎的な課題を学生が選択し、自ら考え、答えを追求できるような学修課程を実施した。文献検索方法や解析ソフトについての情報を与え、ディスカッションを行い、最終的にそれぞれ学習した成果を全員が発表した。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-18	<p>「地域実習」などで、地域の企業や団体等と連携し、PBLを用いた授業を行う。また、国際課題への取り組みにあたっては、海外の協定校との相互授業、交流なども行う。</p>	国際文化交流学科	<p>「地域実習」では教員が学生及び提携機関・企業と協議の上設定した下記6つの課題に取り組んだ。その成果は「公立小松大学公式チャンネル - YouTube」などで公開した。[II-1-5再掲]</p> <p>(1) 学童保育のサポート活動(NPO法人「円満の会」) 3名  (2) 農業・農村の6次産業化(株式会社六星) 6名  (3) 里山地域活性化(鶴遊立地域活性化委員会、小松市観光文化課、コマツなど) 9名  (4) 九谷焼振興と観光活性化(小松市観光文化課、能美市観光交流課、九谷焼関係者・作家など) 7名  (5) 地域の芸術・文化支援(小松芸術劇場うらら) 17名  (6) 滝ヶ原フィールドワーク(一般社団法人北陸古民家再生機構、株式会社滝ヶ原クラフトアンドステイ、株式会社滝ヶ原ファーム、小松市観光文化課など) 9名</p> <p>国際課題への取り組みについては、下記のとおり海外の協定校等と連携し実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/7 アメリカ・オースティン・ピー州立大学と、Nashville Cherry Blossom Conference 2021で交流。参加者:8名</li> <li>・9月～ アメリカ・オースティン・ピー州立大学主導により、合同授業(本学学生と広島県立大学学生が参加)を実施。</li> <li>・9/8 中国・東南大学と合同で、本学学生が中国語で発表し、先方の学生・教員が質問、議論を交わした。参加者:8名</li> <li>・3/3 マレーシア・ラーマン大学と合同のWebinarを行ない、本学からは臨床の平山順教授による講演に続いて、3名の学生が地域との連携と「地域実習」の成果を発表した。</li> </ul>	4

(3) 入学者選抜

中期目標		大学の入試広報を積極的・計画的に行い、アドミッションポリシーにもとづいて目的意識・学習意欲・学力の高い入学者確保に努める。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 教育に関する目標を達成するための措置 - (3) 入学者選抜</b>					
①本学のアドミッションポリシーにもとづいて、目的意識・学習意欲・学力の高い入学者を確保するため、大学の入試広報を積極的・計画的に行う。	II-1-19	オンラインの活用も図りながら、大学説明会の開催或いは合同説明会への参加、オープンキャンパスや高校訪問を実施し、学生募集活動を展開する。 引き続き、入学者の声及びこれまでの教育の成果を積極的に入試広報に活用する。	教育企画委員会（入試部会）	<p>高校教諭対象の説明会やオープンキャンパス、高校訪問など、コロナウイルスに配慮し例年通り実施した。</p> <p>[オープンキャンパス] 受験対象学年のみを対象に感染症対策を行ったうえで実施した。 参加人数 3キャンパス（3学部4学科）合計：254名 （内訳：生産38名、看護73名、臨床76名、国際67名） ※参考：令和2年度169名</p> <p>[高等学校進路指導教諭対象大学説明会] 北陸三県の高校教諭（進路指導）を対象とした大学説明会を4会場（小松、金沢、福井、富山）で開催し、64校64名の参加者となった。 ※会場別参加校・参加者数 小松会場（6/21）：10校10名、金沢会場（6/25）：28校28名、 富山会場（6/22）：17校17名、福井会場（6/24）：9校9名</p> <p>[高校訪問] 教員・事務職員による高校訪問を6月および9月に実施。北陸三県を中心とした訪問の実施を検討したが、新型コロナウイルス感染症の流行により、石川県内の高校に限定して実施した。 6月：13校、9月：9校 ※令和2度は新型コロナウイルス感染症流行状況により郵送にて対応</p> <p>[進学相談会] 業者主催による進学相談会へ参加した。 金沢会場4回、富山会場4回、福井会場2回、新潟会場3回、長野会場1回</p> <p>[オンラインの活用] 大学コンソーシアム石川主催のオンライン説明会（7/18開催41名視聴）及び業者主催のオンライン説明会（10/2開催17名視聴）に参加した。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②入学者選抜の結果を検証し、入試制度・方法の改善につなげる。	II-1-20	入試結果の分析及び入学者の追跡調査による検証を行い、2021年度に実施する入試に向けて方法等を改めて点検する。	教育企画委員会（入試部会）	<p>入試部会において2021年度入試の志願者数、志願者出身高校、合格者の得点率等のデータの分析を行った。2022年度入試における国際文化交流学科の一般入試募集定員において、前期日程、中期日程における定員配分の見直しを行った。</p> <p>[国際文化交流学科 入学者選抜募集定員] 前年度：前期30人、中期30人 今年度：前期35人、中期25人</p> <p>[募集要項の公表] ・9/6 学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）をHP上に掲載 ・11/1 学生募集要項（一般選抜）をHP上に掲載</p>	3
	II-1-21	これまでの入試結果を踏まえて、5年目以降の入試の種類及び種類ごとの定員を再検討する。	教育企画委員会（入試部会）	<p>入試部会において、各学科で実施した入学者の選抜区分ごとの学力調査結果をもとに相関を検証し、今後の選抜方法の見直しの材料とすることとした。</p>	3

(2) 小項目別業務実績・自己評価結果 (詳細)

II 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(4) 学生支援

中期目標	地域との連携・協力のもとに、教職員が一体となって組織的に学生一人ひとりの学業・生活を支援する。また、学生が1年次から自ら目指すべき将来像を明確にし、社会的・職業的自立を図るために必要となる能力を形成できるようキャリア教育を充実させるとともに、キャリアサポートセンター等によるキャリア形成支援を行う。
------	---

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 教育に関する目標を達成するための措置 - (4) 学生支援</b>					
①職員が一体となって、学生一人ひとりの学業・生活を支援する体制を構築し、安心して学べる環境を提供する。	II-1-22	大学生生活の基本を学ぶとともに、交流を深めるため新生を対象としたオリエンテーションなどを実施する。	各学部	<p>新生を対象として実施している「きずな合宿」を各学科で開催し、入学生間、学生-教員間、入学生-先輩間で交流を行い、絆を深めた。 (新生248名、上級生28名参加)</p> <p>生産システム科学科では、最新の人工知能技術を利用して、地域が抱える問題を解決することを目的とした、学生主体の研究会「人工知能研究会」を発足。学生らがディスカッションを通じて、地域が抱える問題について考え、これらを解決するためのAIアプリを提案、設計、開発を行うことで、学生らの自主性と問題解決能力を育み、将来の地域社会を支えるAI人材の育成を目指す。人工知能研究会を通して、授業以外での教員と学生、学生と学生間の交流が促進された。</p> <p>看護学科及び臨床工学科では、履修ガイダンスと共に、初回の「キャリアデザイン・チーム論II」において合同で学部教育や支援体制等の内容を説明した。また、連携して開催した「きずな合宿」において「紙の鶴」を制作し、看護学科と臨床工学科の学生代表(2名)が小松市民病院に寄付し、医療従事者へのエールを送った。</p> <p>国際文化交流学科では、就活を終えた4年生が下級生のために自主的な体験報告会を企画するなど、キャリア形成のために上級生の活動に下級生の参加を呼び掛けることで、縦の繋がりの構築を図った。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-23	相談教員（アカデミックアドバイザー）制度により、個々の学生に応じたきめ細かな支援を行う。	各学部	<p>生産システム科学科では、1教員が4～5名の学生の修学支援や生活面の相談を行う現行制度を継続。一部、深刻な問題を抱える学生は、学科長を中心に教務・学生生活の担当教員が、保健管理センターと協同で対応した。</p> <p>看護学科では、今年度入学生より、助手の力を投入し、4名体制の担任制度とし、より丁寧なケアやサポートを行った。</p> <p>臨床工学科では、4年生については、卒研指導に併せて国試対策の勉強の進捗状況や健康状況を把握し、きめ細かな支援を行った。いずれの学年でも、特に実習・演習科目においては、COVID-19対策を万全にしながら対面教育を重視した。</p> <p>国際文化交流学科では、5月中旬までに1～3年次までの全学生を対象とした相談教員による面接を実施した。12月～1月にはゼミの担当教員を中心に3年の全学生を対象とした進路相談を実施し、きめ細やかな指導、支援を行った。</p>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-24	健康診断の徹底や新型コロナウイルスなどの感染症予防、健康相談、保健情報提供等、健康支援のための取組を推進する。また、学生相談を3キャンパスで随時実施する。	保健管理センター	<p>学生定期健康診断を実施し、ほぼ全ての学生が受診した。尿・血圧の再検査を実施。要医療・要精検・要再検査（医療機関での検査必要）と判断された28名の学生には医療機関への受診勧奨を実施。受診結果未提出の学生には12月に保護者宛に書類を郵送した。11月19日（金）又野学校医が来学し、学生の健康診断結果の確認。同時に要受診判定者の受診結果を確認し、学業の継続に支障をきたしている学生はいなかった。</p> <p>健康調査票の結果、保健管理センターに相談希望の学生、既往症のある学生、精神面で気になる学生（中央C100名、末広C38名、粟津C23名）にメール等で連絡し、現状把握と対応を行った。</p> <p>1年生の感染症調査票および健診結果をもとに、4種予防接種の接種歴と抗体価を確認。必要な予防接種の接種勧奨を実施した。  ・勧奨数：生産18名、看護30名、臨床工学14名、国際30名  ・接種者数：生産4名、看護29名、臨床工学11名、国際10名</p> <p>インフルエンザ予防接種を8医療機関の協力の下、下記のとおり実施した（小松市医師会に協力依頼）。接種の事前申し込みはMicrosoft Formsを使用。  ・11/24～12/13 3キャンパスで計8回実施  ・12/14～21 医療機関での個別接種を実施  接種率は、学生が64%（628名/980名中）、教職員が81%（103名/127名中）であった。</p> <p>保健医療学部1年生と臨床工学科2年生のB型肝炎集団予防接種を医師会に依頼し、新規で契約した（やわたメディカル健診センターが実施）。3回の接種（5月14日・6月11日・10月14日）と抗体検査（12月9日）を実施した。個別接種と個別検査も含め、1月22日（土）に全員実施完了した。</p> <p>臨床心理士による学生相談は、週4日間（月～水と金）の午後に実施した。  [令和3年度相談者数]  前期：新規8名、継続14名、相談再開3名、合計25名（うち7名は相談終結）  後期：新規4名、前期からの継続14名、合計18名（うち2名相談終結）</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>総務課とともに、8月25日に坂原臨床心理士によるFD・SD研修を開催した【新規】。テーマは「学生への対応—それぞれの立場で学生を見守り、支えていくために—」。研修会後のアンケートでは「理解できた」との回答が9割、「意義のあるものだった」との回答も9割、継続開催の希望もあった。</p> <p>ほけかんだよりを通して、定期的に学生への感染防止や健康情報の周知を図った。なお、4月～7月までは、全学生・全教職員にほけかんだよりをメールに添付して送付していたが、著作権等に配慮し、後期からは掲示のみとした。</p> <p>研修実績としては、下記のとおり全てオンラインで参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10/6-7 全国大学保健管理研究集会 1名</li> <li>・7/15-16 東海北陸大学保健管理研究集会 2名</li> <li>・9/21-22 障害学生支援実務者育成研修会 1名</li> <li>・11/12 北陸3県大学保健管理研究会 4名</li> </ul> <p>先進的な取り組みを行っている大学への視察については、感染症流行により、他大学への訪問が困難であったため、金沢大学保健管理センターに電話で情報収集を行った。</p> <p>【新型コロナウイルス感染症について】          新型コロナ感染症連絡網を活用し、関係教職員に感染ならびに相談状況を随時報告。安全衛生委員会、学生支援部会で毎月報告。その他、要請があれば理事会に報告した。          また、学生・教職員からの新型コロナ感染症に関する相談や連絡に個別対応した。</p> <p>令和3年度は、学生・教職員からの相談が103件あり、PCR検査実施は71名で、うち陽性者は30名（学生27名、職員3名）であった。学内の講義等での感染はない。</p> <p>5月8日（土）に学内感染確認後の対応をし、同日専門業者による学内消毒を実施した（総務課対応）。その後の主な対応としては、下記のとおり行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境消毒、手指消毒の学内整備と実施及び啓発。</li> <li>・石川県からの事業に則り、6月8日（火）に学生寮入寮者12名全員のPCR検査を実施し、結果は全員陰性であった。</li> <li>・文部科学省より、抗原検査の簡易キットを100個提供いただき、3キャンパスの保健管理センターに配備し、活用した。</li> </ul>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-25	国の高等教育の修学支援新制度に基づいて確実に支援を実施すると同時に、引き続き大学独自の支援策も実施する。	学生課	<p>高等教育修学支援新制度の更新確認申請書を6月1日に小松市役所に提出。在学生に対し、4月2日・8日・9日に修学支援新制度を含む日本学生支援機構奨学金の募集説明会を実施。後期の募集については、ポータルやHP等により募集。</p> <p>日本学生支援機構の奨学生に対し、12月15日・17日・21日に奨学金継続手続きの説明会を実施。</p> <p>本学の貸付金制度の利用者なし。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-26	奨学金受給、安全なアルバイト情報の提供など、学生生活の経済的な支援を引き続き行う。	学生課	<p>各種奨学金制度の案内を各キャンパスにおいてその都度掲示している。</p> <p>国の給付金である「学生等の学びを継続するための緊急給付金」について周知（12月）、申請受付、推薦（1月）を行い、150名の学生に給付金が支給された。また、追加募集の周知、申請受付を行い、41名の学生に給付金が追加支給された。</p> <p>4月のオリエンテーションにおいて、授業料免除や奨学金などの経済支援について、学生に情報周知を行った。申請書類の不備などは学生に細やかな連絡を行い、適切に申請手続きを行った。</p> <p>アルバイト情報については、求人内容や事業者をよくチェックし、学内掲示を行っている。</p> <p>また、中央キャンパスに通う学生への昼食補助として、周辺店舗で使用できる補助券（200円×10枚）を月々交付し、学生への経済支援とあわせ、地域経済にも寄与した。</p> <p>[授業料免除]  前期 全額免除：54人、2/3免除：26人、1/3免除：18人  後期 全額免除：57人、2/3免除：23人、1/3免除：18人</p> <p>[奨学金 ※2021年度新規受給者]  日本学生支援機構奨学金 給付：33人／貸与一種：52人／貸与二種：42人  ・鯖江市奨学生 貸与：1人  ・石川県看護師等修学資金 貸与：1人  ・公立宇出津総合病院看護師等修学資金 貸与：1人</p> <p>[アルバイト情報の提供] ※掲載期間は1か月  全157件</p> <p>[ランチ助成券]  配布月：8か月（4月、5月、6月、7月、10月、11月、12月、1月）  対象：前期 全学部1・2年生、国際3・4年生（合計647人）  後期 全学部1年生、国際文化交流学部2・3・4年生（合計482人）  利用（換金）実績：7,429,200円  ランチ助成 25件、学食ネット 1件</p>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-27	サークルの立ち上げや活動の場の提供、サークル活動助成金制度などにより、学生の課外活動を支援する。また、オンラインの活用、各学部との連携協力などにより、学生交流の活発化を検討する。	学生課	<p>公立小松大学基金を財源に大学としてサークル活動への助成を行った。</p> <p>サークル代表者会議を6月16日に実施し、サークル活動場所に関する情報提供や連盟等の団体登録料の補助、大会参加費の補助について説明した。また、課外活動時における新型コロナウイルス感染症防止についての指導も行った（新型コロナウイルス感染症対策として、1月17日よりサークル活動を当面の間、禁止とした…4月7日に解除）。</p> <p>サークル紹介については、掲示板だけでなく、学内者限定でポータルとも連携し、オンラインでサークル紹介を行った。</p> <p>保健医療学部が行うきずな合宿のボランティアに、サークル8団体（フットサル・卓球・放送・小松活性化・軽音・バレーボール・陸上マラソン）が参加した。</p> <p>2月22日、オンラインにてサークル代表者会議を実施し、今年度の活動実績の報告依頼や次年度継続に関する事、当面のサークル活動について話し合った。</p> <p>[令和3年度サークル登録数] 27団体（継続22団体、新規5団体） ※令和2年度実績25団体</p>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-28	学部学科の専門性に沿った学術書の充実を図り、学生の自主的な学修を支援する。また、利用教育を充実させ、学生の図書館利用の促進を図る。	附属図書館	<p>(1)利用促進に向けた取り組みとして、下記のとおり実施した。 ①5月、6月に新入生に対し、「情報処理基礎」の授業の中で、図書館利用法のガイダンスを実施【新規】</p> <p>②三館連携しての企画展示を実施 ・7月(オープンキャンパスに合わせた企画) 中央図書館:サステイナビリティ 栗津図書館:シラバス掲載参考図書 末広図書館:医療系貸出人気図書 ・9月(大学生の教養をテーマとした企画) ・2月(大学院準備企画) 中央図書館:SDGs×グローバル文化学 栗津図書館:SDGs×生産システム科学 末広図書館:SDGs×ヘルスケアシステム科学</p> <p>③シラバス参考図書を三館で購入(図書:74冊)</p> <p>④電子書籍について、丸善雄松堂の電子書籍提供サービス「eBook Library」に加え、今年度より新たに紀伊国屋書店の電子書籍提供サービス「KinoDen」を導入した。電子書籍は学外においても閲覧可能で、「Kinoden」ではキャリアサポートセンターより希望のあった就職活動関連図書36タイトルを揃えた。</p> <p>&lt;参考&gt; 「eBook Library」書籍・雑誌数…61タイトル 電子ジャーナル購読数…2,574種 有料データベース利用登録数…6種(医中誌web、メディカルオンライン等)</p> <p>(2)資料の整備、充実を図るため、図書 2,383冊・視聴覚53点・電子書籍36点を購入した(3/31現在、三館合計) また、紛失図書等の整理のため「公立小松大学附属図書館除却基準」を新たに定めた。基準に基づき、栗津キャンパス図書館で2,681点の図書・ビデオ・カセットテープ等を除却した。</p> <p>(3)図書館運営委員会を開催(5/26、6/30、8/4、9/29、11/24、1/26、2/17) 各回毎に館長と司書全員で事前ミーティングを実施</p> <p>(4)館長と各館司書参加の業務ミーティングを実施(4/30、6/13、7/27)</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				(5)蔵書点検を下記期間に実施 ・末広図書館 8/18～8/20 ・粟津図書館 9/6～9/8 ・中央図書館 1/4～1/6  [所蔵資料数（令和4年3月31日現在）] ・中央図書館 図書 13,353冊、逐次刊行物 3,623冊、視聴覚591点 ・末広図書館 図書 16,163冊、逐次刊行物 1,212冊、視聴覚329点 ・粟津図書館 図書 37,049冊、逐次刊行物 743冊、視聴覚427点  [貸出冊数/貸出人数（4/1～3/31）] ・学生 6,175冊/3,122人 [生産システム科学科] 1,334冊/729人 [看護学科] 3,008冊/1339人 [臨床工学科] 484冊/246人 [国際文化交流学科] 1,349冊/808人 ・教員 815冊/354人、職員 483冊/244人 [中央図書館] 教員 175冊/88人、職員 333冊/162人 [末広図書館] 教員 531冊/223人、職員 94冊/54人 [粟津図書館] 教員 109冊/43人、職員 56冊/28人	
	II-1-29	自習室の利用実態や学生のニーズを踏まえ、図書館と連携した自習室の学習環境の維持向上を図る。	附属図書館	学習環境の維持向上のため、デスクライトを6台追加で設置し、備品の充実を図った（R1-R2年度に44台設置済）。 また、学生の要望を受け、ゴールデンウィーク（4/29、5/1～5）中、自習室利用を可能とし（計6日間）、10月からは末広図書館の閲覧室利用時間を拡大した（17時→20時）【新規】。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②将来の社会的・職業的自立に資するキャリア教育を実施するとともに、キャリアサポートセンター等によるキャリア形成支援を行う。	II-1-30	就職ガイダンスや業界研究セミナーの実施など、既存のキャリア支援プログラムについて、令和2年度の実施結果を踏まえ、見直しや改善、新規事業の企画等を実施する。	キャリアサポートセンター	<p>1・キャリアデザインセミナー  (生産1年全員) テーマ別基礎ゼミで実施  11/22、11/29、12/6、12/13、12/20、2/10  (国際1年全員) キャリアデザインチーム論で実施  5/24、5/31</p> <p>2・就職ガイダンス (オンライン) 対象：3年生  4/21 キャリアガイダンス 参加者：150名  5/12 就活キックオフガイダンス 参加者：111名  5/19 自己分析 参加者：115名  5/26 履歴書・エントリーシート対策 参加者：104名  6/2 企業研究 参加者：94名  6/9 筆記試験対策 参加者：95名  6/16 面接対策 参加者：116名  6/23 メイク講座 参加者：50名</p> <p>・10/10 就職活動丸ごと体験実践型セミナー  対象：3年生 参加者：41名 (生産21名、国際19名)  業界研究、現役採用担当者による面接・グループディスカッション指導等  【参加企業】7社</p> <p>・2/22 第二弾！直前！就活丸ごと体験実践型セミナー (オンライン)  対象：3年生 参加者：27名 (生産17名、看護5名、国際5名)  業界・企業研究、現役採用担当者による面接・グループディスカッション指導等  【参加企業】9社</p> <p>・就職活動セミナー【新規】 対象：生産・国際3年  12/21 就職リ・スタートセミナー 参加者：9名  12/22 企業選びに失敗しないための企業研究セミナー 参加者：16名  12/22 早期選考突破のための面接対策 (個別・集団) 参加者：12名  1/12 先輩による就職体験談+交流会 参加者：10名  1/12 先輩によるグループディスカッション対策セミナー 参加者：7名  ○筆記試験対策セミナー (動画配信)  ○内定後セミナー (動画配信)</p>	5

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・理系学生のための就活直前ガイダンス（オンライン）【新規】</li> <li>2/16 自己分析セミナー 参加者：生産21名</li> <li>2/16 企業研究セミナー 参加者：生産20名</li> <li>2/17 エントリーシート対策セミナー 参加者：生産24名</li> <li>2/17 面接対策セミナー 参加者：生産23名</li>   <li>3・実践型面接対策講座 民間企業・病院向け（定員3名） 対象：4年生</li> <li>・面接練習会（初級編） 6月、3月 8回開催 計25名参加</li> <li>・面接練習会（中級編） 6月、3月 6回開催 計17名参加</li> <li>・面接練習会（上級編） 4月、5月、6月、3月 22回開催 計37名参加</li> <li>・面接練習会（粟津） 4月 4回開催 計6名参加</li> <li>・現役人事担当者による特別個別相談会（1人25分）</li> <li>①4/9（3名） ②4/13（2名） ③3/30（2名）</li> <li>・集団討論対策セミナー（定員7名）</li> <li>①6/21（6名） ②6/22（5名）</li> <li>・グループディスカッション入門編（オンライン）【新規】</li> <li>①2/3（3名）</li>   <li>4・公務員講座の開講</li> <li>・LEC東京リーガルマインド オンデマンド講座</li> <li>対象：2、3年生 現在10名が申込</li> <li>6/10、7/9、9/9、10、13、14、11/17、12/10、12/27、28、2/17、2/21、3/4</li> <li>・公務員ガイダンス 3/11 参加者：21名</li> <li>・公務員対策個別面接練習会（定員3名） 全10コマ 対象：4年生</li> <li>面接練習会（初級編） ①7/7（3名） ②7/7（2名）</li> <li>面接練習会（中級編） ①7/13（3名） ②7/13（中止）</li> <li>面接練習会（上級編） ①7/27（1名） ②7/27（3名）</li> <li>WEB面接練習会（中級編）</li> <li>①7/1（1名） ②7/1（1名） ③7/20（2名） ④7/20（中止）</li> <li>・グループディスカッション対策セミナー 対象：3年生</li> <li>7/14 参加者：8名（国際8名）</li>   <li>5・MEX金沢2021（第58回機械工業見本市金沢） 5/21 対象：全学年 石川県産業展示館 → 石川県非常事態宣言発令につき中止</li> <li>6・イーメッセ金沢（第36回いしかわ情報システムフェア） 7/16 対象：全学年 石川県産業展示館 参加者：14名</li> </ul>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>7・5/21 ふくいインターンシップ学内ガイダンス（オンライン） 参加者：9名 6/20 リクナビ仕事万博2023 参加者：19名 12/28 いしかわ冬のインターンシップフェス2021 参加者：26名</p> <p>8・企業見学 前期は新型コロナウイルス感染症拡大のため延期 大阪税関金沢税関支署小松空港出張所 10/20 参加者：18名 小松マテール株式会社1/19→新型コロナウイルス感染症拡大のため中止 福井鋳螺株式会社1/26→新型コロナウイルス感染症拡大のため中止</p> <p>9・大学コンソーシアム令和3年度大学生地元定着推進支援事業【新規】 助成金の申請 企業見学バスツアー ・北陸放送株式会社 7/15 参加者：6名（国際6名） ・株式会社富士精工本社 12/1 参加者：11名（生産11名） ・富士精機株式会社 12/8 参加者：9名（生産7名、国際2名）</p> <p>10・業界研究セミナー 業界ごとに北陸の優良企業を一日1社お呼びして開催 学内業界研究セミナー「コマツ栗津工場」 11/24 参加者：17名（生産12名、国際5名）</p> <p>11・学内個別企業説明会 一日1社限定で個別企業説明会を開催 栗津キャンパスの食堂、中央キャンパスの英語カフェもしくは309演習室にて開催 中央キャンパス 5/10 石川県警 石川県非常事態宣言発令につき中止 生産対象 10月：12社、11月：16社、12月：9社、1月：4社 計：41社（前年26社） 国際対象 10月：8社、11月：7社、12月：4社、1月：7社 計：26社（前年17社） →新型コロナウイルス感染症拡大のため1月下旬は中止 2月はオンライン開催 Web学内個別企業説明会【新規】 生産・国際対象 2月：3社</p>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>12・公立小松大学就職支援ブックの作成と配布  (株)ディスクに依頼し、本学用就職支援ブックを作成。3年生全員に配布。</p> <p>13・賠償責任保険加入手続き  インターンシップの参加にあたり、生産・国際3年生全員が賠償責任保険に加入。</p> <p>14・インターンシップ事前研修  ・ビジネスメールの書き方講座（オンライン） 対象：全学年 4/28  キャリア教育の一環としてメールの基本を理解し、先生や企業に対して適切な文章が書けるように指導  講師：WEBコミュニケーションアドバイザー 石川氏 参加者：211名</p> <p>・インターンシップ 学外技術体験実習 事前マナー研修  対象：生産・国際3年 6/30 講師：松木 参加者：165名</p>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-31	新型コロナウイルス感染症による就職活動への影響や活動スケジュール等の変更を注視し、就職活動を行う学生が不利益を被らない支援体制を構築する。	キャリアサポートセンター	<p>1. 理系学生のための就活直前ガイダンス（オンライン）【新規】【再掲II-1-30】 自己分析セミナー 2/16 講師：ディスコ 鈴木氏 参加者：生産21名 企業研究セミナー 2/16 講師：ディスコ 鈴木氏 参加者：生産20名 エントリーシート対策セミナー 2/17 講師：ディスコ 鈴木氏 参加者：生産24名 面接対策セミナー 2/17 講師：ディスコ 鈴木氏 参加者：生産23名</p> <p>2. 第二弾！直前！就活丸ごと体験実践型セミナー（オンライン）【再掲II-1-30】 対象：3年生 2/22 参加者：27名（生産17名、看護5名、国際5名） 業界・企業研究、現役採用担当者による面接・グループディスカッション指導 【参加企業】小松市役所、DMM.com、(株)北陸銀行、加賀東芝エレクトロニクス(株)、(株)トーケン、小松鋼機(株)、損害保険ジャパン(株)、(株)大和、共友会</p> <p>3. グループディスカッション入門編（オンライン）【新規】【再掲II-1-30】 2/3 (3名)</p> <p>4. Web学内個別企業説明会【新規】 生産・国際対象 2月：3社【再掲II-1-30】</p> <p>5. 就活ランチ会（オンライン）【新規】 対象：3年生 3/7～31 参加者：計32名 コロナ禍で不安を抱える学生が多く、心理的居場所感と縦横斜めのつながりを持つために開催</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価																									
	II-1-32	各学部のセンター会議委員及び就職支援担当教員等が、就職先となる企業、医療機関、各種団体との関係づくりを促進し、積極的な情報提供及び情報交換を行う。	キャリアサポートセンター、各学部	<p>1・キャリアサポートセンター会議  ・キャリアサポートセンター会議  4/27、5/26、6/30、7/28、8/25、9/29、10/27、11/24、12/22、1/26、2/16  各学科における就職支援方針、体制、計画、状況などを把握し、学年進行に対応した支援プログラム作成指針（テーマ、ねらい）を検討</p> <p>内定状況（3/23現在）</p> <table border="1"> <tr> <td>全体</td> <td>100.0%</td> <td>就職希望者</td> <td>192名中</td> <td>192名内定</td> </tr> <tr> <td>生産</td> <td>100.0%</td> <td>就職希望者</td> <td>43名中</td> <td>43名内定</td> </tr> <tr> <td>看護</td> <td>100.0%</td> <td>就職希望者</td> <td>44名中</td> <td>44名内定</td> </tr> <tr> <td>臨床</td> <td>100.0%</td> <td>就職希望者</td> <td>33名中</td> <td>33名内定</td> </tr> <tr> <td>国際</td> <td>100.0%</td> <td>就職希望者</td> <td>72名中</td> <td>72名内定</td> </tr> </table> <p>2・産学連携の就活イベント、合同説明会の開催【新規】  ・小松青年会議所の若手経営者×公立小松大学「そこまで言って委員会NK（のみこまつ）」 9/30 参加者：7名（生産2名、国際5名）  グループディスカッション対策  【協力】小松青年会議所の若手経営者6名</p> <p>・小松商工会議所主催 こまつオンライン企業説明会 対象：1～3年生  10/30、31 参加者：11名（生産9名、国際2名）  【参加企業】(株)丸西組、ニシ・ウエルネス(株)、コマツ粟津工場、(株)板尾鉄工所、(株)安土鉄工所、(株)クロダレース、コマツキカイ(株)、小松鋼機(株)、(株)コマテック、(株)武田工業所、(株)寺田鉄工建設、北陸電力(株)、三島石油(株)、(株)トスマク、(株)北研精機、(株)江口組、(株)北日本テクノス、(株)共和工業所、松寿園、小松管工事協同組合</p> <p>3・小松商工会議所 中小企業対策委員会での講演会【新規】 10/5  キャリアサポートセンター長講演「公立小松大学におけるキャリアサポートの現況について」  【参加者】中小企業対策委員会委員・小松商工会議所職員19名</p>	全体	100.0%	就職希望者	192名中	192名内定	生産	100.0%	就職希望者	43名中	43名内定	看護	100.0%	就職希望者	44名中	44名内定	臨床	100.0%	就職希望者	33名中	33名内定	国際	100.0%	就職希望者	72名中	72名内定	5
全体	100.0%	就職希望者	192名中	192名内定																										
生産	100.0%	就職希望者	43名中	43名内定																										
看護	100.0%	就職希望者	44名中	44名内定																										
臨床	100.0%	就職希望者	33名中	33名内定																										
国際	100.0%	就職希望者	72名中	72名内定																										

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-33	「キャリアタスUC」を活用し、企業からの求人情報のほか、学生個々の志望・活動状況の蓄積を進め、キャリアサポートセンター、就職支援担当教員等による個別支援の強化に取り組む。	キャリアサポートセンター	<p>1・キャリアタスUC登録促進 学生向けにキャリアタスUC登録説明会（4/21）を開催し、140名が登録。</p> <p>2・個別相談は対面もしくはオンラインで実施 ・相談件数 【中央キャンパス】 4月：101件、5月：80件、6月：104件、7月：102件、8月：58件、9月：48件、10月：67件、11月：70件、12月：59件、1月：70件、2月：88件、3月：127件 【粟津キャンパス】 4月：32件、5月：12件、6月：53件、7月：24件、8月：5件、9月：1件、10月：0件、11月：10件、12月：10件、1月：13件、2月：35件、3月：40件</p>	5
	II-1-34	特に3・4年生へのキャリアサポートとして、キャリアサポートセンターや各学科の就職担当教員だけでなく、全ての教員が、学生の状況把握や支援を連携して行う。	各学部	<p>生産システム科学科においては、キャリアサポートセンター委員を中心に学生一人一人と面談を行い、就職支援や大学院進学についてサポートした。</p> <p>看護学科においては、キャリアサポート教員をさらに1名増やし、主担当1名、補佐役2名とした。保健師としての就職内定が5名おり、極めて高い数字である。保健師5名；看護師38名；企業1名；助産師進学3名；養護教諭進学2名；保健師別科1名で、卒業見込み50名全員の進路が決定した。</p> <p>臨床工学科においては、学生との面談により頻繁にコミュニケーションをとり、できる限り希望に沿った就職先を斡旋した。履歴書の書き方、小論文などの指導に加え、病院面接の個人練習も行いきめ細かく指導した。求人情報は全国臨床工学技士会や病院、さらには人的ネットワークによって収集した。</p> <p>国際文化交流学科においては、キャリアサポートセンター委員のほかに就職担当委員を定めてキャリア形成支援と就職支援を行った。就職委員がセンターと連携、情報共有することで、学生一人一人の状況を把握し、キャリア形成支援と就職支援を遂行した。このほか、ゼミ単位で指導教員が個別指導を行った。1月末時点での進路決定率は97.3%となり、全国平均をはるかに上回った。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<p>③地域の連携・協力を得て、インターンシップや学外実習等を実施するほか、課外活動を含む学生生活の充実を図る。</p>	<p>II-1-35</p>	<p>協力企業・機関・施設・団体等を幅広く募り、教育・研究・社会連携・大学運営にかかわる、多様な連携協力のための体制を拡大する。</p>	<p>地域連携推進センター</p>	<p>協力企業等の依頼を継続し、連携体制の強化を図るとともに、協力企業等への定期的な情報発信を行い、地域や企業のニーズとのマッチング機会を増やした。</p> <p>[企業等との連携協力体制]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力企業等 338件 ※R2年度：327件</li> <li>(内訳 石川県：191、福井県：65、富山県：59、その他：17、海外：2)</li> </ul> <p>[協力企業への情報発信]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月 研究シーズ集2021、大学案内2022、Tachyon Academia1号発送</li> <li>・10月 Tachyon7号、市民公開フォーラムチラシ発送</li> <li>・11月 シーズ・ニーズ・マッチングシンポジウムチラシ発送、生産シーズ・ニーズ・マッチングシンポジウムご案内（メール）</li> <li>・3月 Tachyon8号発送</li> </ul> <p>その他、キャリアサポートセンターからは、別途各種お知らせなどを送付</p>	<p>3</p>

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-36	<p>インターンシップや学外実習先の確保を進めるとともに、実習テーマ、実施体制等の具体的な内容について調整を行い、授業計画や到達目標に沿った活動とするための環境を整える。また、実施に当たって担当教員は、実習先の指導者と緊密に連携を図り、実習効果が上がる環境調整を行う。</p>	各学部（共通）	<p>生産システム科学科では、3年次必修科目「学外技術体験実習」において、受講者計84人が近隣の30企業で1週間の実習を体験した。</p> <p>看護学科においては、看護実習が看護学科における教育課程のコアとなる科目であることから、万全の準備を土台に実施している。各実習施設からの協力体制も整備されてきたため、COVID-19による影響が及んではいるが、順調と言える。後期においてもその影響は甚大であったが、施設側の協力を得て一部臨地・一部学内、臨地指導者による学内実習指導等を組み合わせ、実施した。</p> <p>臨床工学科においては、コロナ禍の病院実習で各実習施設により制約があったが、7月に4施設・8月に5施設・9月に11施設・10月に2施設で病院実習を行った。地域では石川県7施設、福井県4施設、富山県2施設、秋田県1施設、愛知県1施設、群馬県1施設である。循環器（人工心臓）の実習を行えない学生が5名あったが学内実習とした。4年生34名は11月前半に病院実習を終了できた。</p> <p>国際文化交流学科においては、地域実習（6課題）、インターンシップとも提携先、受け入れ企業との連携は順調に進んだ。実習・研修は、コロナ禍の影響を受けているが、地元企業、団体の支援によって切り抜けることができた。</p> <p>・インターンシップ受け入れ企業68社、参加者63名  （主な受け入れ企業：㈱北國銀行、小松市役所、小松ウォール工業㈱、㈱ホテルアローレ、石川テレビ放送㈱など）【II-1-14再掲】</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-37	国際情勢と研修地域の安全面に十分配慮した上で、海外インターンシップを実施する。新型コロナウイルスによる渡航制限なども考慮し、オンラインを活用した交流等も検討する。	国際交流センター	<p>金沢大学環日本海域環境研究センターと共同で行っている「カンボジア国立アンコール遺跡整備公団インターンシップ」は、春休み期間（2022年2～3月）の実施を検討していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。</p> <p>オンラインを活用した交流については、新規でシリコンバレー研修を開催した。</p> <p>[産学合同シリコンバレー研修（オンライン）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイシー州立大学とのオンライン交流会開催【新規】 1/22（土）9時～10時</li> </ul> <p>参加者：本学学生17人（生産1 臨床2 国際14）、ボイシー州立大学学生17人 小グループに分かれてのディスカッション（地域の紹介、大学での生活の様子、現在の流行や文化など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SVJC（シリコンバレージャパンカレッジ）が主催する夏のプログラム「第24回 Short Term Advanced Program 2021」の参加者を学内で募集 →本学からの参加者はゼロ（市内企業からの参加はあり）</li> <li>・担当教員と学生との意見交換を行い、今後のシリコンバレー連携事業の方向性を検討した。</li> </ul>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-38	地域行事への学生参加を支援する。 産学合同シリコンバレー研修を実施し、地域の活性化に資するプロジェクト企画への発展を試みる。	地域連携推進センター	<p>地域行事は新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、可能な限り積極的な参加を促した。 シリコンバレーにおける産学合同研修についても、オンラインセミナーという形式で直接交流する機会を設けた。</p> <p>[地域行事への参加]</p> <p>①7/17 西町曳山子供歌舞伎 国際文化交流学部の学生7人が、こまつ芸術劇場うららで受付や会場誘導などのボランティアで参加（西村教授（国際）担当）</p> <p>②「日本遺産サミットinこまつ」への協力（国際文化交流学科）【新規】 10/13、14 国際の地域実習の2グループが、発信ツールの制作やサテライト会場でのPR等を実施 ・「鶺鴒立エリア」・・・杓谷教授担当、学生が「おさんぼマップ」作成 ・「滝ヶ原エリア」・・・朝倉准教授担当、Webサイト、360度画像、動画の制作・発信</p> <p>③「日本遺産サミットinこまつ」関連イベント「海外LIVE配信」 @サイエンスヒルズこまつ 木村准教授（国際）が参加。カンボジアとオンラインでつなぎ、アンコール世界遺産の石文化と、小松の石文化を比較しながら紹介</p> <p>④こまつ水辺クリーンデー 3/20 こまつ水辺クリーンデー（木場鴻清掃ボランティア）</p> <p>※お旅まつり曳山曳揃え、クリーンビーチいしかわ、どんどんまつりについては参加を予定していたがコロナの影響によりいずれも中止</p> <p>[産学合同シリコンバレー研修（オンライン）] 【II-1-37再掲】 ・ボイシー州立大学とのオンライン交流会開催【新規】 1/22（土）9時～10時 参加者：本学学生17人（生産1 臨床2 国際14）、ボイシー州立大学学生17人 小グループに分かれてのディスカッション（地域の紹介、大学での生活の様子、現在の流行や文化など）</p> <p>・SVJC（シリコンバレージャパンカレッジ）が主催する夏のプログラム「第24回 Short Term Advanced Program 2021」の参加者を学内で募集 →本学からの参加者はゼロ（市内企業からの参加はあり）</p> <p>・担当教員と学生との意見交換を行い、今後のシリコンバレー連携事業の方向性を検討した。</p>	4

(5) 地域の教育機関との連携と大学院

中期目標	地域の教育機関等と連携し、望ましい高大接続のあり方に向けた改革を行う。また、地域の小学校・中学校・高等学校等との連携・協力により、子どもたちの教育の充実を支援する。 社会の諸問題を解決し、また、教員・学生の質の向上を図るため、経費等につき十分検証しながら、大学院設置の可能性を追求する。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 教育に関する目標を達成するための措置 - (5) 地域の教育機関との連携と大学院</b>					
<p>①地域の教育機関等と連携し、望ましい高大接続のモデルを策定する。</p> <p>②地域の小学校・中学校・高等学校等との連携・協力により、子どもたちの教育の充実を支援する。</p>	II-1-39	高大接続のモデル策定に向けた検討を継続すると同時に一部試行する。	地域連携推進センター、教育企画委員会	<p>小松市立高校と高大連携事業の基本方針について、令和2年度に引き続き協議をすすめるとともに、本学教員が全9回高大連携授業を実施した。</p> <p>[高大連携授業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ブラッシュアップ授業（高校1・2年生対象） 英語検定2級レベルの読解問題に取り組む。 5月～7月 全5回 担当：島内准教授（国際）</li> <li>・国際教養講座 一年生高大連携クラスにて本学教員が授業を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①9月17日（金）10：45～11：35 担当：盛田准教授（国際） 「世界の食料需給と食料安全保障について」</li> <li>②10月22日（金）10：45～11：35 担当：内田教授（看護） 「新型コロナウイルス感染症の対応と世界のワクチン事情について」</li> <li>④11月16日（火）10：45～11：35 担当：梶原准教授（生産） 「人工知能について」</li> <li>⑤「地球環境について」 12月9日（水）10：45～11：35 担当：小原教授（国際） 「映画の政治的・歴史的・心理的意味の解明について」</li> </ul> </li> </ul>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-40	これまでの出張講座などによる学修成果を検証しながら、地域の高等学校等と連携して教育プログラムを実施する。	地域連携推進センター	<p>サイエンスヒルズこまつのイベント等への教員の派遣、展示企画への協力によって、子供たちの教育の充実を支援した。</p> <p>①体験教室 開催協力  ・10/30（土） 鈴木助教（臨床）「氷水とお湯で電気を作ろう」  ・11/7（日） 松井教授（看護）「超音波を使って体の中を見てみよう」  ・2/11（金・祝） 木村副学長「なぜ天気は変化するの？」</p> <p>②展示替えに伴う新規展示 企画協力  AIに関する展示（じゃんけん判定AI）開発（梶原准教授（生産）担当）</p> <p>③大学紹介展示を新設（9月～）  地域に根ざした大学の研究力の発信、地域社会に公立小松大学への理解をより深めてもらうため、サイエンスヒルズの一角に大学紹介スペースを新設し、各学科や研究者の紹介展示やPR動画の放映などを行い、大学の魅力を発信した。</p> <p>地域の教育を支援するため、高大連携授業を実施した。【II-1-39再掲】</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<p>③教員と学生の質の向上を図り、多様化する社会の諸問題を解決するため、経費等につき検証しながら、大学院博士前期課程と後期課程の設置を図る。</p>	<p>II-1-41</p>	<p>令和3年3月に行った文部科学省への大学院設置認可申請書の計画に沿って、開設準備を進める。 学部生及び地域社会に対し、大学院への理解を深める取り組みを進める。</p>	<p>全学</p>	<p>[会議等開催状況] ・修士・博士課程設置検討WGの開催 8回 ・文部科学省事務相談（メール） 10回</p> <p>[設置認可申請] 6/25 大学院設置認可申請に係る補正申請書提出 8/22 大学院設置認可申請に係る再補正申請書提出 10/22 大学設置・学校法人審議会から、公立小松大学大学院サステナブルシステム科学研究科の設置認可を「可」とする旨の答申</p> <p>[粟津キャンパス大学院棟] 8/24 粟津キャンパス大学院棟起工式 3/30 粟津キャンパス大学院棟竣工式</p> <p>[入学者選抜試験] ・第1次募集 12/4 生産システム科学専攻 合格者18名 11/23 ヘルスケアシステム科学専攻 合格者1名 12/18 グローカル文化学専攻 合格者1名 ・第2次募集 2/19 ヘルスケアシステム科学専攻 合格者3名 グローカル文化学専攻 合格者1名 ・第3次募集 3/18 グローカル文化学専攻 合格者1名</p> <p>[関係機関との調整] ・末広キャンパス研究棟 用地取得、用途変更、拡充計画調整 ・小松駅東複合ビル大学フロア実施設計協議 ・大学院設置記念市民公開フォーラムの開催（10/26）</p> <p>[規則規程の整備] ・大学院学則、研究科委員会規則の制定 1/18経営審議会、理事会で承認</p> <p>[広報活動] 11/2～ 懸垂幕設置（中央キャンパス、小松市役所） 11月～ ホームページを順次更新（入試情報、3つのポリシーなど） 2月 Tachyon8号 大学院について特集記事を掲載</p>	<p>5</p>

(6) 社会人教育

中期目標		身近な学びの拠点として、社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施するとともに、附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図り、地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出する。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 教育に関する目標を達成するための措置 - (6) 社会人教育</b>					
①社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施する。	II-1-42	社会人教育プログラムを実施する。社会の環境変化やニーズに対応したプログラムを検討する。	地域連携推進センター	<p>例年社会人を対象として「ものづくり人材スキルアッププログラム」を開講している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、令和3年度は対策を講じながら実施した。</p> <p>(1)ものづくり人材スキルアッププログラム ものづくり企業の従業員を対象とした実践的教育プログラムを実施し、年間23名が受講した。 A：生産管理技術、B：工場経営管理、総合：A+B 【前期】5/17～9/3開催 総合：5名 A：3名 B：1名 選択B：7名 合計15名 【後期】10/18～1/28開催 総合：3名 A：3名 B：2名 選択B：4名 合計8名</p> <p>(2)品質管理検定受験対策講座 【前期】3級のみ開催 11名受講 【後期】開講条件10名以上に満たず、2級・3級とも開催を見送り</p> <p>受講生募集については、講師1名と受講生募集業務委託を締結し、会社訪問によるプログラムのPRなど積極的に募集を行った。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-43	学内のシーズ・ニーズと産業界のニーズ・シーズのマッチングを図るシンポジウムを開催する。	地域連携推進センター	<p>(1) シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 11月27日(土) 14時～16時 オンラインで開催 テーマ：今こそ地域と共に 参加者：75人</p> <p>&lt;発表&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携の取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>①看護学科 中田明恵准教授、小松市ワクチン接種専門チーム 角谷佳江氏 「自治体と大学の協働のカタチ-COVID19ワクチン；小松市と共に！」</li> <li>②国際文化交流学科 杓谷茂樹教授、鶴遊立地域活性化委員会事務局長 林弘光氏 「小松市・鶴遊立地域の活性化に向けた取り組み」</li> </ul> </li> <li>・研究シーズの発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>①臨床工学科 井澤純子 講師 「画像による生体情報解析」</li> <li>②生産システム科学科 梶原祐輔准教授 「これからの地域を支えるAI人材の育成と地域との連携」</li> </ul> </li> <li>・JST大学発新産業創出プログラムの紹介 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 産学連携展開部主任調査員 北川優氏</li> </ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-44	小松市、小松商工会議所、まちづくり市民財団、社会福祉協議会と協同で、こまつ市民大学を運営する。地域ニーズ等を踏まえて講座内容等の見直しを行う。	地域連携推進センター	<p>「こまつ市民大学」は地域連携推進センター長が運営委員として参画し、本学教員が講師を務める講座を多数開講した。ものづくり、健康、語学、国際情勢など、本学の特徴を生かした多彩な内容となり、また、昨年度に引き続き講義の多くは、本学中央キャンパスを会場とした。</p> <p>[実績] (本学教員が担当したもの)</p> <p>①第3期講座 (4月～8月) 講座数：1 講師数 (延べ)：4人 「『危機』を知り、未来に活かす」 受講者：18人</p> <p>②第4期講座 (9月～3月) 講座数：9 講師数 (延べ)：21人 「学長・副学長特別講座」 受講者：16人 「自分らしい人生の旅立ちを考える パート2」 受講者：15人 「初めて学ぶ心の理論」 受講者：34人 「映画を学ぶ/映画から学ぶ」 受講者：13人 「健康100年 『そくさい』プロジェクト」 受講者：10人 「世界遺産チャレンジ講座」 受講者：10人 「はじめての中国語講座・基礎コース」 受講者：13人 「はじめての中国語講座・発展コース」 受講者：6人 「建設業のイノベーション講座」 受講者：13人</p> <p>③運営委員会 7/14 第6回運営委員会 第4期事業計画及び令和3年度予算案の審議</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図る。	II-1-45	地域住民等に向けて、各キャンパスの附属図書館や英語カフェ等を開放する。	附属図書館、総務課	<p>本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、附属図書館や自習室、食堂の一般開放を停止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまつ市民大学 開講に伴い、各キャンパスの講義室を利用した。 中央キャンパス：41回 末広キャンパス：3回</li> <li>※1月～新型コロナウイルス拡大防止のため講義室の貸出しは中止</li> <li>・英語カフェ 地域の感染状況を踏まえ、一部の「英会話カフェ」で利用した。 (詳細はII-1-46を参照)</li> </ul>	2

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-1-46	小松市・小松市国際交流協会と連携し、英語カフェにおいて国際交流プログラムを定期的に開催する。	国際交流センター	<p>①英会話カフェの開催 小松市・小松市国際交流協会と連携し、英会話カフェを実施。小松市国際交流協会会員、小松市国際交流ボランティア、本学学生、および高校生等が参加し、英語でのコミュニケーションを図った。</p> <p>[開催実績] 4/21, 4/28, 5/17, 5/31, 6/22, 8/24, 9/30, 10/7, 10/27, 11/11, 11/25, 12/20, 12/27, 1/13, 1/25 合計：15回開催（うち5回はオンライン開催） 参加学生：27名</p> <p>②海外文化体験の開催 海外で活躍する石川県出身者をゲストに迎えたセミナーを実施。 ・2021/8/24 ブロードウェイ俳優由水南氏によるオンラインセミナー 参加学生 8名</p> <p>小松市国際交流協会と連携し、石川県に在住する外国人を講師に迎え、海外文化体験を実施。 ・中国語カフェ [開催実績] 8/30, 10/8, 12/10, 2/15 合計：4回開催（うち1回はオンライン開催） 参加学生：18名</p>	4
	II-1-47	大学施設の効率的・効果的な運用・管理を図り、本学の運営に支障のない範囲で大学施設の市民利用を推進する。	財務課	<p>例年は、中央キャンパスは、附属図書館及び自習室（高校生・大学生に限る）を、栗津キャンパス及び末広キャンパスでは、学生食堂および附属図書館を一般に開放しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で「こまつ市民大学」、「英会話カフェ」など一部の利用に制限した。</p> <p>[施設利用] 207件（令和2年度：211件） ・中央キャンパス 41件（全てこまつ市民大学） ・栗津キャンパス 163件（うち162件は運動場利用） ・末広キャンパス 3件（全てこまつ市民大学）</p>	4

(2) 小項目別業務実績・自己評価結果 (詳細)

II 教育研究等の質の向上に関する目標

2 研究に関する目標

(1) オリジナルな研究の推進

中期目標	南加賀の研究拠点として、特色ある基礎研究、応用研究、学際研究、分野融合型研究に取り組み、発明・発見と新たな学術分野の開拓に努めるとともに、成果を世界に発信する。併せて、地域が抱える課題解決や住みよさ向上等のニーズに応じた研究を組織的に推進する。
------	--

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>2 研究に関する目標を達成するための措置 - (1) オリジナルな研究の推進</b>					
①南加賀の研究拠点として、特色ある基礎研究、応用研究に取組、発明・発見と新たな学術分野の開拓に努めるとともに、成果を世界に発信する。	II-2-1	学部学科の研究内容を踏まえ、研究機器の整備、各種規程やガイドラインの制定、研修の実施及び研究に関する審査委員会の開催等、ソフト・ハードの両面における研究環境の向上に努める。 研究活動の活発化に伴い、安全な研究環境を実現するため、薬品管理などの規程遵守に努める。	研究・社会連携委員会	<p>[研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本学術振興会研究倫理eラーニングの実施</li> </ul> <p>「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（文科省）」に則り、全教員を対象にコンプライアンス教育として実施。受講後、競争的研究費等の管理に係る誓約書の提出を求め、全教員からの提出を確認した。 受講者80名 誓約書提出80件</p> <p>[各種規程・ガイドラインの制定]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験・実習安全注意事項の作成</li> </ul> <p>完成年度を迎え、卒業研究が開始したことに伴う学生の実験室等の使用機会の増加にあわせ、卒業研究を行う学部4年生、大学院生を対象とした基本的な安全注意事項についてとりまとめ、オリエンテーションにて周知を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公的研究費の適正な運営及び管理に関する規則等の見直し</li> </ul> <p>「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（文科省）」に則り、必要となる規則等の改正、制定を行った。 改正規則等 1件 制定規程等 9件</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[研究環境向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究発展向上費 各学科の裁量で使用することができる研究助成金（上限50万円/学科）として設定し、個別研究テーマについて支援した。</li> <li>各学科研究テーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>生産システム科学科 酒井忍教授 「人工知能技術を応用した高性能卓球ラバーの開発」</li> <li>看護学科 相上律子助教 「精神に障がいがある人々のリハビリを支援する 代償的認知トレーニングのハイブリッド化」</li> <li>臨床工学科 佐藤宜伯准教授 「透析用膜材質からの溶出物の検証」</li> <li>国際文化交流学科 島内俊彦准教授 「援助行動の変容に関する研究： 世代別・性別献血率の変化に影響する社会的因子に着目して」</li> </ul> </li> <li>栗津キャンパス大学院棟の整備 令和3年3月 栗津キャンパス大学院棟を竣工 機械設備等の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>風洞 18,958千円</li> <li>放電加工機 18,000千円</li> <li>電子顕微鏡 17,200千円</li> </ul> </li> </ul> <p>[各種委員会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究・社会連携委員会の開催 定例会議：毎月第1水曜日15:00～ 令和3年度開催実績 12回</li> <li>審査委員会 定期的に審査委員会を実施し、適切な研究活動に向けたチェック体制を実施。 審査実績 <ul style="list-style-type: none"> <li>人を対象とする医学系研究倫理審査：34件</li> <li>利益相反審査：1件</li> <li>遺伝子組み換え実験審査：0件（該当なし）</li> <li>動物実験審査：4件</li> </ul> </li> </ul>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-2-2	<p>重点研究「みらい」の助成等により、特色ある研究や、産業・医療・国際に係る諸課題等の解決に向けた研究、地域をフィールドとする研究を支援する。</p> <p>「研究発展・向上費」等の活用により、各学部学科が特色ある研究の支援を図る。</p>	<p>研究・社会連携委員会</p>	<p>[重点研究「みらい」]</p> <p>地域・世界の未来に資する特色ある独創的研究、産業・医療・国際上の問題等の解決に向けた研究を対象とした本学独自の研究支援制度として、令和元年度より実施。本年度は4月に募集を行い、応募のあった4件を、6月に実施の審査委員会による審査のうえ採択した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>支援金額：1研究計画につき50万円 以内/年</li> <li>研究期間：1または2年間</li> <li>採択件数：新規 3件程度/年</li> </ul> </li> <li>・採択研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>生産システム科学科 坂本一磨助教 「WebデータとSNSの投稿を用いて自動生成した文章を活用したユーザの属性推定に関する研究」</li> <li>看護学科 片山美穂講師 「ストレングスマodelを活用した教育効果と関連する波及効果」</li> <li>臨床工学科 鈴木郁斗助教 「採血不要なポータブル血液多成分計測システムの開発」</li> <li>国際文化交流学科 朝倉由希准教授 「自然環境と文化の結びつきに関する研究 ～小松市内の里山をフィールドとして～」</li> </ul> </li> </ul> <p>[重点研究「つよみ」]</p> <p>令和4年度より、重点研究「みらい」を本学ならではの「つよみ」の候補となる研究を支援する重点研究「つよみ」にリニューアルするための準備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援概要 <ul style="list-style-type: none"> <li>支援金額：1研究計画につき総額300万円～500万円</li> <li>研究期間：2年間</li> <li>採択件数：新規 1件程度/年</li> </ul> </li> </ul> <p>[研究発展・向上費]</p> <p>各学科の裁量で使用することができる研究助成金（上限50万円/学科）として設定し、個別研究テーマについて支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科研究テーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>生産システム科学科 酒井忍教授 「人工知能技術を応用した高性能卓球ラバーの開発」</li> <li>看護学科 相上律子助教 「精神に障がいがある人々のリカバリーを支援する代償的認知トレーニングのハイブリッド化」</li> <li>臨床工学科 佐藤宜伯准教授 「透析用膜材質からの溶出物の検証」</li> <li>国際文化交流学科 島内俊彦准教授 「援助行動の変容に関する研究： 世代別・性別献血率の変化に影響する社会的因子に着目して」</li> </ul> </li> </ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-2-3	複合・融合領域の研究を誘起するため、学部横断型の研究会を定期的に開催し、キャンパス間の研究者交流を図る。	研究・社会連携委員会	<p>学内交流会「Salon de K」は、今年度より事務局主体の運営から方針を変更し、各学科から教員2名を運営部会員として任命し、運営部会を組織して運営を行った。参加者は全教員を対象とし、オンラインを利用した月1回程度の定期開催とした。</p> <p>〔開催実績〕</p> <p>7/30 講師：生産システム科学科 上野助教 「発見と学習を用いたロボットアームおよび工作機械の高精度化」</p> <p>8/23 金沢大学附属病院 金田医師 「オープンダイアログについて」</p> <p>8/24 東北大学 粕谷助教 「分光測定法と精密力学測定法を組み合わせた材料・デバイス界面評価」</p> <p>9/22 臨床工学科 藤田准教授 「人工知能技術に関する濫蓄」</p> <p>10/28 国際文化交流学科 島内准教授 「Google appsを利用した英語授業の実践活動報告」</p> <p>11/17 令和元年度採択公立小松大学重点研究「みらい」研究成果報告会 臨床工学科 李教授 「我々の「みらい」である子供の運動発達モニタリングシステムの構築」</p> <p>生産システム科学科 梶原准教授 「人工知能を用いた高齢ドライバーの交通事故防止システム開発に関する研究」</p> <p>国際文化交流学科 一ノ渡准教授 「日ロ地域間経済関係の現状と可能性～石川県の経済関係の多様化に向けて～」</p> <p>12/24 臨床工学科 鈴木助教 「近赤外分光法を用いた汗の成分計測に関する基礎的検討」</p> <p>1/27 看護学科 上田助教 「高齢者の下肢浮腫（むくみ）の研究」</p> <p>2/4 足利大学 山下准教授（令和4年度本学着任予定） 「雷の不思議」</p> <p>3/4 生産システム科学科 坂本助教 「SNSユーザの属性推定や社会事象の抽出、人物認識とスポーツ情報処理に関する研究」</p> <p>3/24 国際文化交流学科 千葉准教授 「「地域」のかたち——中東、アジア、北陸の事例から」</p> <p>開催回数合計：11回（令和2年度開催回数：3回）</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-2-4	論文・著書の発表や国際シンポジウム等での発表を奨励するとともに、IRの一環としてこれらの実績の把握・とりまとめを行う。	研究・社会連携委員会	<p>上半期、下半期の年2回、教員の研究業績の取りまとめを行った。昨年度は学会報告件数などで新型コロナウイルス感染症の影響による件数の大幅な減少が見られたが、今年度は例年を上回る水準まで件数が回復した。学会報告件数、学術論文数、著書数はいずれも目標値を上回り、学会報告件数、学術論文数では過去最高の数値となった。一方で、共同研究・受託研究は微減傾向にあり、目標値を達成に向け研究・社会連携委員会で協議を進めている。</p> <p>[研究関連業績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会報告 : 146件 (完成年度目標値: 100件) R2年度: 66件</li> <li>・学術論文 : 117編 (完成年度目標値: 70編) R2年度: 97編</li> <li>(うち外国語論文: 84編 (完成年度目標値: 30編) R2年度: 72編)</li> <li>・著書 : 13編 (完成年度目標値: 5編) R2年度: 18編</li> <li>・共同研究・受託研究数: 6件 (完成年度目標値: 10件) R2年度: 7件</li> </ul>	4
	II-2-5	研究活動を広く市民に還元するため、市民公開フォーラムを開催する。	研究・社会連携委員会	<p>「持続可能性 (サステナビリティ)」をキーワードに、各分野の専門的かつ普遍的な観点から地域と世界の今後を見据え、サステナブルな未来について考察することを目的とし、市民公開フォーラムを下記のとおり開催した。</p> <p>市民公開フォーラム: 「地域と世界のサステナブルな未来を考える」 (公立小松大学を支える会共催) 日時: 10月24日 (日) 13時30分~16時00分 場所: こまつ芸術劇場うらら 講演: 高橋泰氏 (国際医療福祉大学教授) 「医療の最適化・DX化の観点から」 田嶋伸博氏 (タジマモーターコーポレーション代表) 「スマートシティの観点から」 浦野邦子氏 (コマツ顧問) 「コマツのCSRの取り組みとESG経営」 中村誠一氏 (金沢大学古代文明・文化資源学研究センター長) 「文化資源学の観点から」 来場者: 200名</p> <p>本フォーラムの講演内容を動画収録し、大学院サステナブルシステム科学研究科での講義等において活用予定。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-2-6	研究活動や成果をホームページや報道を通じて発信する。また、地域に対して本学の研究力を紹介する取組を展開する。	広報室、総務課	<p>ホームページや大学案内冊子での研究者紹介のページの更新、シーズ集の発行、広報誌Tachyonでの研究者紹介に加え、今年度は本学の研究紹介に重点を置いた広報誌の発行、YouTubeを活用してラジオこまつの広報番組「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」の公開など、本学の研究力を広く地域に発信する新たな取組を行った。</p> <p>[研究シーズ集・研究者要覧2021] 本学研究者のシーズを掲載した研究シーズ集を毎年度改定し、発行。 6月 2,000部 改訂発行(協力企業、高校等へ発送)</p> <p>[広報誌Tachyon] 受験生、本学学生、保護者、地域住民等への情報発信を目的とした大学広報誌「Tachyon」を発行。 7号 岩田佳雄教授(生産システム科学科) 8号 徳田真由美教授(看護学科)</p> <p>[広報誌Tachyon Academia] 【新規】 広報誌Tachyonの研究版として本学研究者の研究をより詳しく紹介する「Tachyon Academia」を発行。 1号 酒井忍教授(生産システム科学科) 「スポーツ選手に寄り添う用具とマシンの研究開発」 李鍾昊教授(臨床工学科) 「脳の運動機能モニタリングシステムの開発研究」 小原文衛教授(国際文化交流学科) 「映画を学ぶ、映画から学ぶ」</p> <p>[YouTubeの活用] ・ラジオこまつ広報番組 「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」 【新規】 公開動画数:12本 内訳:李教授(臨床)・野川准教授(臨床)、青松祭PR、山田講師(看護)、看護学科学生、池田准教授(生産)、上田教授(生産)、上野助教(生産)、国際文化交流学科学生 ・シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの発表動画 公開動画数:4本 ・国際文化交流学科地域実習で学生が作成した動画を公開 公開動画数:2本</p> <p>[その他寄稿] ・(一財)北陸経済研究所「北陸経済研究」産学連携project 【新規】 11月号 富澤淳教授(生産システム科学科) 「次世代モビリティのフレーム構造を実現する熱間曲げ焼入れ(3DQ)技術の開発」</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②地域が抱える問題解決等に資する研究を推進する。	II-2-7	ゼミナール、課題探求プロジェクト、卒業研究等を通して、地域が抱える産業、医療、国際上の問題等発見・解決に向けた研究の醸成を図る。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	<p>[地域実習]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本遺産サミットinこまつ 10/13(土)・14(日)に開催された「日本遺産サミットinこまつ」では国際文化交流学科の教員、学生が参加し、取り組みに協力した。 ・地域実習(国際)の2グループが、発信ツールの制作やサテライト会場でのPR等を実施 鶴遊立エリア…杓谷教授担当、学生が「おさんぼマップ」作成 滝ヶ原エリア…朝倉准教授担当、Webサイト、360度画像、動画の制作・発信</li> <li>・関連イベント「海外LIVE配信」@サイエンスヒルズこまつ 木村准教授が参加。カンボジアとオンラインでつなぎ、アンコール世界遺産の石文化と、小松の石文化を比較しながら紹介</li> <li>●地域実習(国際) 各種団体と連携し、下記課題に取り組んだ(括弧内は連携団体) (1)学童保育のサポート活動(NPO法人「円満の会」) (2)農業・農村の6次産業化(株式会社六星) (3)里山地域活性化(鶴遊立地域活性化委員会、小松市観光文化課、コマツなど) (4)九谷焼振興と観光活性化(小松市観光文化課、能美市観光交流課、九谷焼関係者・作家など) (5)地域の芸術・文化支援(小松芸術劇場うらら) (6)滝ヶ原フィールドワーク(一般社団法人北陸古民家再生機構、株式会社滝ヶ原クラフトアンドステイ、株式会社滝ヶ原ファーム、小松市観光文化課など) これら6本の課題について、成果報告と合同の総括会を行なった。</li> </ul> <p>[卒業研究]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生産シーズ・ニーズマッチングシンポジウム(生産) 生産システム科学科によるシーズ・ニーズマッチングシンポジウムを開催。 日時:12/15(水) 13時30分~16時00分 場所:公立小松大学栗津キャンパス 内容:卒業研究の中間発表(ポスターセッション) 17研究室 49テーマ 参加者:学外 約50人、学内 約150人、参加企業数 27社</li> </ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>●地域課題に関する卒業研究の実施状況調査  地域課題の解決につながる卒業研究の実施状況について調査を実施。当該課題がどのようなものかあわせて調査し、学科の特色を生かした地域課題の発見・解決につながる研究を支援していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果（実施状況）  生産 47%、看護 78%、臨床 50%、国際 50%</li> </ul> <p>[人工知能研究会の設立]  生産システム科学部梶原祐輔准教授が中心となり、人工知能研究会を設立した。</p> <p>目的：AI技術でイノベーションを起こし、地域活性化を図るとともに、将来の地域社会を支えるAI人材の育成  活動内容：地域社会の抱える課題を解決するAIアプリの開発、AI開発の基礎を学ぶ  構成員：約30人（生産システム科学部2、3年生 + インテリジェント工学研究室メンバー）※地域企業への参加も呼びかけを行う</p>	

(2) 共同研究

中期目標		地域における「知の源泉」として研究を活性化させ、地域とともに発展していくため、他大学、企業等と共同研究や受託研究等の産官学連携を推進する。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>2 研究に関する目標を達成するための措置 - (2) 共同研究</b>					
地域における「知の源泉」としての役割を果たすため、他大学、企業等と共同研究や受託研究等の産官学連携を推進する。	II-2-8	近隣自治体や民間企業等とのネットワークを強化し、共同研究、受託研究の推進に努める。	研究・社会連携委員会、地域連携推進センター	<p>研究関連イベントへの出展、産学官連携コーディネーターによる北陸3県を中心とした企業訪問により、大学と企業や各種団体との関係構築を推進している。また、ホームページには産学連携コーディネーターの紹介や技術相談問い合わせフォームを設け、地元企業等からの相談受付体制を整備している。</p> <p>[産学官連携コーディネーター] 1名配置 ・訪問活動実績（協力企業等の依頼） 39件</p> <p>[企業等との連携協力体制] ・協力企業等 338件 ※R2年度：327件 （内訳 石川県：192、福井県：67、富山県：59、その他：18、海外：2）</p> <p>[協力企業への情報発信] ・8月 研究シーズ集2021、大学案内2022、Tachyon Academia1号発送 ・10月 Tachyon7号、市民公開フォーラムチラシ発送 ・11月 シーズ・ニーズマッチングシンポジウムチラシ発送、生産シーズ・ニーズマッチングシンポジウムご案内（メール） ・3月 Tachyon8号発送</p> <p>[共同研究・受託研究] ・共同研究 : 5件 ※R2年度:6件 ・受託研究 : 1件 ※R2年度:1件 （完成年度目標値：合計10件）</p>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-2-9	<p>本学の研究シーズを外部に継続的に発信するとともに、他大学、企業や各種団体、自治体等との各種プロジェクト活動を推進する。若手教員の萌芽的研究や学生の卒業研究からの共同研究やシーズ育成の可能性を追求する。</p>	<p>研究・社会連携委員会、地域連携推進センター</p>	<p>「シーズ・ニーズマッチングシンポジウム」の開催などにより、本学の研究力の発信を行うとともに、地域課題解決に向けた連携協力体制の構築を推進した。また、産学官連携イベントへの出展や広報媒体による発信も積極的に行い、研究シーズの発信や地域連携推進センターの活動をPRした。</p> <p>[研究シーズの発信]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 ※詳細は、II-1-43参照</li> <li>●研究シーズ集・研究者要覧2021 ※毎年度更新予定 6月 2,000部 改訂発行 協力企業、高校等への発送</li> <li>●広報誌Tachyon Academia] 8月 4,000部発行 【新規】 協力企業、高校等への発送 酒井教授（生産）、李教授（臨床）、小原教授（国際）の紹介</li> <li>●広報誌Tachyon 9月 4,000部発行 大学の地域連携・地域貢献の取り組みを特集 3月 4,000部発行 令和4年4月開設の大学院について特集</li> </ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[産学官連携イベントへの出展]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●北陸技術交流テクノフェア (web出展) web開催：10/4 (月)～29 (金) ・富澤淳教授(生産システム科学科) 「次世代モビリティのフレーム構造を実現する熱間曲げ焼入れ (3DQ) 技術の開発」</li> <li>・鈴木郁斗助教 (臨床工学科) 「水溶液中の有機・無機成分濃度の光学的推定」</li> <li>●T-Messe2021富山県ものづくり総合見本市【初参加】 10月28日 (木)～11月30日 (火) ※対面開催は中止、バーチャル出展のみ ・富澤淳教授(生産システム科学科) 「次世代モビリティのフレーム構造を実現する熱間曲げ焼入れ (3DQ) 技術の開発」</li> <li>・野川雅道准教授(臨床工学科) 「健康増進を目指した多波長分光法による携帯型非侵襲血液多成分計測システムの研究開発」</li> <li>●Matching HUB Kanazawa 2021 11月12日 (金) ANAクラウンプラザホテル金沢 ブース出展：中田明恵准教授 (看護学科) 「保健医療学部看護学科 研究・教育・社会活動の紹介」 大学院開設PR</li> </ul> <p>[サイエンスヒルズこまつとの連携]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●体験教室 開催協力 ・10/30 (土) 鈴木助教 (臨床) 「氷水とお湯で電気を作ろう」</li> <li>・11/7 (日) 松井教授 (看護) 「超音波を使って体の中を見てみよう」</li> <li>・2/11 (金祝) 木村副学長 「なぜ天気は変化するの？」</li> <li>●展示替えに伴う新規展示 企画協力 AIに関する展示 (じゃんけん判定AI) 開発 (梶原准教授 (生産) 担当)</li> <li>●大学紹介展示を新設 (9月～) 【新規】 PR動画の放送、学部紹介、研究者紹介など</li> </ul>	

(3) 外部資金

中期目標		研究を充実・発展させるため、科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた組織的な取組みを推進し、自己財源確保に努める。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>2 研究に関する目標を達成するための措置 - (3) 外部資金</b>					
科学研究費補助金等の外部資金の獲得に向けた組織的な取組を推進し、自己財源確保に資する。	II-2-10	科学研究費補助金等の外部資金獲得に向け、情報収集やFD研修会の開催を通じて、申請及び採択の拡大に努める。 各種財団の研究助成、産学官連携に関わる助成情報などを随時学内ネットワークに掲載し、各教員の外部資金獲得支援に供する。	研究・社会連携委員会、財務課	<p>研究助成や産学官連携に関する情報を学内において一元管理・発信するため、Microsoft365 sharepointを活用し、情報公開用のサイトを公開し、随時掲載情報の拡張を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直近90日のアクセス状況 人気ページ閲覧数：28回 1日の最高アクセス人数：8人</li> <li>・R3年度掲載…科研費：4件、研究助成：9件 セミナー：4件、産学官連携情報：6件</li> </ul> <p>また、研究・社会連携委員会の定例会議において月ごとの助成金獲得状況（科研費含む）や、各学科の委員の報告による特筆すべき研究業績を共有している。</p> <p>[科研費採択実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規 15件（基盤B 1件、基盤C 12件、若手 2件）</li> <li>・継続 29件（基盤B 3件、基盤C 17件、若手 6件、国際共同A 1件、スタート支援 2件）</li> <li>計 44件（完成年度以降目標値 15件）</li> <li>・新規採択率 34.1% (14/41)</li> </ul> <p>[科研費応募実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタート支援（5月） 2件（内採択 0件）</li> <li>・R4年度科研費事業（11月） 34件</li> </ul> <p>[その他外部資金の実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金 新規 10件（生産 3件、臨床 6件、国際 1件） 継続 2件（生産 1件、臨床 1件） 計 12件</li> <li>・奨学寄附金 新規 1件（生産 1件） 継続 1件（生産 1件） （完成年度以降目標値 5件）</li> </ul>	4

### 3 国際交流に関する目標

#### (1) 海外大学等との交流

中期目標	協定締結校を開拓するとともに、海外大学等との教職員・学生交流、国際共同研究、シンポジウム・セミナー開催等を推進する。これにより、公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図る。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>3 国際交流に関する目標を達成するための措置 — (1) 海外大学等との交流</b>					
<p>①公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図るため、協定締結校を開拓する。</p> <p>②公立小松大学独自の国際的な教育研究シーズの育成を図るため、海外大学等との職員・学生交流、国際共同研究、シンポジウム・セミナー開催等を推進する。</p>	II-3-1	引き続き、海外大学等との交流協定締結を拡大するとともに、学生交流をはじめとした協定校等との交流活動を展開する。	国際交流センター	<p>新たに大学間交流協定校を1件締結し、協定は累計16件（大学間：10件、部局間：5件、その他：1件）となった。また、長期交換留学は2人派遣（うち1人はオンライン留学）、1人受入（オンライン留学）を行った。</p> <p>[新たな協定の締結] ○大学間協定 ・韓国 湖西大学校（2022/2/24）</p> <p>[交換留学、短期留学実績] ○長期留学 派遣 2人 ・米国 オースティン・ピー州立大学（2022/1～2022/12） 1人 ・中国 東南大学（2021/4～2021/8） 1人※オンライン</p> <p>○長期留学 受入 1人 ・中国 常州大学（2021/4～2022/3） 1人※オンライン</p> <p>○短期留学 派遣 20人 ・中国 東南大学中国語サマースクール（2021/8/23～9/5） 11人 東南大学春季中国語研修（2022/2/14～2/25） 8人 ・ニュージーランド オークランド大学English Language Academy 英語研修（2022/2/14～3/11） 1人</p> <p>※すべてオンラインで実施</p> <p>[その他交流活動実績] ○オンライン交流 5件 ・2021/4/7 オースティン・ピー州立大学（米国）と「桜」をテーマにした文化交流会であるナッシュビル桜カンファレンスを実施。 本学参加学生 8人 ・7/19 京都アメリカ大学コンソーシアム主催による米国学生との文化交流会を実施。 本学参加学生 8人 ・8/16～8/20 東南大学（中国）との文化交流会を実施。 本学参加学生 8人</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・9/10 外務省主催による対日理解促進交流プログラム「カケハン・プロジェクト」参加。米国のオハイオ大学、ウィスコンシン州立大学マディソン校、リーハイ大学の学生と文化交流会を実施。 本学参加学生 16人</li> <li>・9/22 プリンズオブソククラ大学プーケット校（タイ）と文化交流会を実施。 本学参加学生 4人</li> <li>・3/28 外務省主催による対日理解促進交流プログラム「JENESYS オンライン交流プログラム～日本の魅力発信～」参加。ブルネイ、フィリピン、東ティモール、インドネシアの大学生と交流会を実施。 本学参加学生：7人</li> </ul> <p>交換留学（派遣）を対象とした公立小松大学留学支援奨学金制度を新設した。 〔公立小松大学留学支援奨学金支給実績〕 オースティン・ピー州立大学（米国）留学1名へ支給</p>	
	II-3-2	<p>交換留学生や短期研修プログラム参加者の受入にあたり、新型コロナウイルス感染症に係る各種制度の変更等を注視し、派遣大学との連絡など、担当教員と国際交流センターが連携してあたる。小松市国際交流協会や行政等と連携する。</p>	国際交流センター	<p>協定校担当教員との連絡体制を強化するため、次年度に向けて各協定校別担当者の見直しを行った。 新年度留学生受入にあたり、学生寮の感染症対策に係る生活用品の整備、隔離期間後のPCR検査受験に備えた市内医療機関との連携、派遣元大学との緊密な連絡体制を構築した。 交換留学や短期語学研修参加の際、学生に提出を求めている誓約書の見直しを実施。既存の誓約書に加え、新型コロナウイルス感染症の影響下における渡航についての誓約書を作成した。</p>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-3-3	外国人留学生のための日本語教育体制の充実を図る。	国際交流センター	オンラインにて交換留学中の常州大学学生1人に対し、2021年4月から2022年3月の留学期間に週2回（約120回）日本語教育を実施した。また、小松市国際交流協会主催の日本語スピーチコンテストに、同留学生1人がオンラインで参加した。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	II-3-4	国際シンポジウムの開催や国際共同研究に向け、協定校等との学術交流を推進する。	研究・社会連携委員会、国際交流センター	<p>各学部において海外協定校とオンラインセミナーを下記のとおり実施した。</p> <p>[生産システム科学部]          ・2022/2/28 さくらサイエンスオンラインプログラム          国立研究開発法人科学技術振興機構が実施しているさくらサイエンスプログラムに生産システム科学部山田外史教授の申請が採択され、モンクット王立工科大学トンプリー校（タイ）とオンラインで研究交流会を実施した。          参加者数：学生25人、教員2人（モンクット王立工科大学）、本学生産システム科学部教員6人</p> <p>[保健医療学部]          ・2022/1/18～2/8 保健医療学部によるJICA青年研修事業          2021年度JICA青年研修事業に保健医療学部看護学科が採択され、仏語圏アフリカ諸国の医療従事者（20歳～35歳程度）を対象とした研修を実施した。          本学側参加教員：14人（保健医療学部）          JICA研修員：8人</p> <p>[国際文化交流学部]          ・2021/9/22 プリンソブソククラ大学プーケット校（タイ）との共催ウェビナー          国際文化交流学部木村誠准教授が東京オリンピック事例としたコロナ禍の心理的影響について、プリンソブソククラ大学プーケット校Pornpisanu Promsivapallopホスピタリティ観光学部長が、コロナ禍におけるプーケット観光モデル事業「Phuket SandBox」について講演した。          本学側登壇者：木村誠准教授（国際文化交流学部）          本学側参加学生：約10人</p> <p>・2022/3/3 トウンク・アブドゥル・ラーマン大学（マレーシア）との研究者、学生交流会実施。          保健医療学部臨床工学科平山順教授が体内時計に関する研究紹介を行い、国際文化交流学部学生が小松市の紹介を行った。          本学側登壇者：平山順教授（保健医療学部臨床工学科）          本学側参加学生：約10人</p>	4

(2) 地域における国際貢献

中期目標		「国際都市こまつ」の一層の推進に資するため、地域の国際活動や国際関連課題解決に協力し、地域と世界の懸け橋としての役割を果たす。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>3 国際交流に関する目標を達成するための措置 - (2) 地域における国際貢献</b>					
地域と世界の懸け橋として、「国際都市こまつ」の発展に貢献するため、国際活動や国際関連課題解決への支援・協力をを行う。	II-3-5	地域の多文化理解や国際化に資する取組を行う。	地域連携推進センター、国際交流センター	<p>小松市や小松市国際交流協会等と連携し、英会話カフェや中国語カフェを実施することで語学力を向上させるとともに小松市在住の外国人と交流を深めた。また、「こまつ市民大学」にて多文化理解に係る講座を実施するなど、多様な取組により「国際都市こまつ」の発展に貢献した。</p> <p>[国際化・多文化理解の促進に向けた取組、連携実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「英会話カフェ」の開催 小松市国際交流員やALT等と、グループに分かれてフリートークを実施。市内高校生や社会人、本学学生などが参加した。</li> </ul> <p>[開催実績] 4/21, 4/28, 5/17, 5/31, 6/22, 8/24, 9/30, 10/7, 10/27, 11/11, 11/25, 12/20, 12/27, 1/13, 1/25 合計：15回開催（うち5回はオンライン開催） 参加学生：27名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「中国語カフェ」の開催 小松市国際交流協会と連携し、小松市在住の外国人を講師に迎え、中国語でのフリートーク、文化体験などを実施した。</li> </ul> <p>[開催実績] 8/30, 10/8, 12/10, 2/15 合計：4回開催（うち1回はオンライン開催） 参加学生：18名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまつ市民大学での講座開講 [多文化理解に係る講座] 「世界遺産検定チャレンジ講座」（全11回） 受講者：10名 「はじめての中国語 基礎コース」（全12回） 受講者：13名 「はじめての中国語 発展コース」（全8回） 受講者：6名</li> </ul>	4

Ⅲ 地域貢献に関する目標

1 地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進

中期目標	教育研究成果及び大学がもつ知的資源の社会への還元を果たし、もってまちの活力と未来を創生するため、地域の企業、医療・福祉施設、教育機関等との多様な連携を構築し、ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携活動を推進する。
------	--

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 地域貢献のための体制構築と地域との連携活動の推進</b>					
① 地域の企業、医療・福祉施設、教育機関等との多様な連携を構築する。 ② ものづくり、健康福祉、教育、文化、観光等の領域における地域との連携を推進する。	Ⅲ-1-1	自治体や地域の各種団体等からの要請に応じて、各種審議会や委員会の委員やアドバイザーとして積極的に参画し、各委員の専門性を社会へ発信する。	地域連携推進センター	小松市等が設置する各種委員会等の委員として専門的知識を有する教員を派遣した。  39件（小松市：19件 その他：20件）  [派遣した委員会] ・令和3年度小松市明るい選挙推進協議会 ・小松市景観まちづくり審議会 ・日本遺産サミットin小松開催実行委員会 ・小松市健康づくり推進協議会委員 ・小松市共同参画プラン審議会 など	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-1-2	<p><b>【Ⅱ-1-35】再掲</b></p> <p>協力企業・機関・施設・団体等を幅広く募り、教育・研究・社会連携・大学運営にかかわる、多様な連携協力のための体制を拡大する。</p>	地域連携推進センター	<p>協力企業等の依頼を継続し、連携体制の強化を図るとともに、協力企業等への定期的な情報発信を行い、地域や企業のニーズとのマッチング機会を増やした。</p> <p>[企業等との連携協力体制]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力企業等 338件 ※R2年度：327件 (内訳 石川県：191、福井県：65、富山県：59、その他：17、海外：2)</li> </ul> <p>[協力企業への情報発信]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月 研究シーズ集2021、大学案内2022、Tachyon Academia1号発送</li> <li>・10月 Tachyon7号、市民公開フォーラムチラシ発送</li> <li>・11月 シーズ・ニーズマッチングシンポジウムチラシ発送、生産シーズ・ニーズマッチングシンポジウムご案内（メール）</li> <li>・3月 Tachyon8号発送</li> </ul> <p>その他、キャリアサポートセンターからは、別途各種お知らせなどを送付</p>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	III-1-3	大学紹介や教育研究成果を地域に還元するため、各種媒体を通じて情報発信を積極的に行う。	広報室	<p>各種媒体を活用して以下のとおり情報発信を行った。</p> <p>[各種媒体を活用した大学及び研究者紹介]</p> <p>①大学広報紙（更新版）の発行 2021年6月 10,000部発行 令和3年度着任教員追加・更新 共通教育科目 科目名や科目概要を追加 各学科ページ 学生の写真とコメントを新規掲載</p> <p>②英語版大学案内の更新 令和3年度着任教員追加・更新など ※印刷製本は行わず、PDF版で更新</p> <p>③ホームページの運用 令和3年度着任教員追加・更新 新型コロナウイルス関連情報の追加・更新 その他、各種情報のアップ及び随時更新</p> <p>④英語版ホームページの運用 令和3年度着任着任教員追加・更新</p> <p>⑤広報誌Tachyonの発行 2021年9月 第7号 4,000部発行 教員紹介：岩田教授（生産システム科学科） 2022年2月 第8号 4,000部発行 教員紹介：徳田教授（看護学科）</p> <p>⑥ラジオ広報番組での発信（放送日・出演者） 9/4・11 李教授（臨床） 9/18・25 野川准教授（臨床） 10/2・7 青松祭実行委員 10/14・21・30 山田講師（看護） 11/6・13 看護1年生 11/20・27 看護1年生 12/4・11 池田准教授（生産） 12/18・25 上田教授（生産） 1/1・8 上野助教（生産） 1/15・22・29 国際4年生 3名 2/5・12 国際3年生 2名 2/19・26 国際3年生 2名</p> <p>⑦動画の活用 ・9月～ラジオこまつの広報番組「世界に向かって飛び立て！公立小松大学」の音声データをYouTubeチャンネルに公開【新規】 公開動画数：12本（総再生回数：1,109回）</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[その他] (テレビ媒体出演等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10/20 (水) MROのローカルワイド番組「絶好調W」(19:00～)に青松祭実行委員が出演 番組内の約10分の企画で青松祭をPR</li> <li>3/28 (月) MRO「レオスタ」で卒業に合わせた特集</li> </ul>	
	III-1-4	<p>本学の研究シーズを外部に継続的に発信するとともに、他大学、企業や各種団体、自治体等との各種プロジェクト活動を推進する。特に、令和2年度に採択された総務省「異能vationプログラム」拠点として、地域課題の解決や新たな価値創造を図る事業創出プロジェクトを実施する。</p>	<p>研究・社会連携委員会、地域連携推進センター</p>	<p>(1)サイエンスヒルズこまつとの連携(企画、展示)【再掲II-1-40】</p> <p>①体験教室 開催協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10/30 (土) 鈴木助教(臨床)「氷水とお湯で電気を作ろう」</li> <li>11/7 (日) 松井教授(看護)「超音波を使って体の中を見てみよう」</li> <li>2/11 (金祝) 木村副学長「なぜ天気は変化するの?」</li> </ul> <p>②展示替えに伴う新規展示 企画協力 AIに関する展示(じゃんけん判定AI)開発(梶原准教授(生産)担当)</p> <p>③大学紹介展示を新設(9月～)【新規】 地域に根ざした大学の研究力の発信、地域社会に公立小松大学への理解をより深めてもらうため、サイエンスヒルズの一角に大学紹介スペースを新設し、各学科や研究者の紹介展示やPR動画の放映などを行い、大学の魅力を発信した。</p> <p>(2)シリコンバレーと地域とをつなぐプロジェクト【再掲II-1-38】 ボイシー州立大学とのオンライン交流会開催【新規】 1/22 (土) 9時～10時 参加者: 本学学生17人(生産1 臨床2 国際14)、ボイシー州立大学学生17人 小グループに分かれてのディスカッション(地域の紹介、大学での生活の様子、現在の流行や文化など)</p> <p>(3)小松市新型コロナウイルスワクチン集団接種業務への協力(看護学科) 【新規】 期間: 4/17～8/29の土曜日、日曜日 会場: 市民センター、こまつドーム、第一地区コミュニティセンター 延べ122回、教員延べ168人、学生の延べ197人が協力 経過観察ブースでの接種者の観察、案内など</p>	5

## 2 社会人教育（再掲）

中期目標		身近な学びの拠点として、社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施するとともに、附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図り、地域の人びとが学びに触れ、自らを豊かにする場を創出する。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>2 社会人教育（再掲）</b>					
①社会人教育プログラム、市民公開講座等を実施する。	Ⅲ-2-1	<b>【Ⅱ-1-42】再掲</b> 社会人教育プログラムを実施する。社会の環境変化やニーズに対応したプログラムを検討する。	地域連携推進センター	例年社会人を対象として「ものづくり人材スキルアッププログラム」を開講している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、令和3年度は対策を講じながら実施した。 (1)ものづくり人材スキルアッププログラム ものづくり企業の従業員を対象とした実践的教育プログラムを実施し、年間23名が受講した。 A：生産管理技術、B：工場経営管理、総合：A+B <b>【前期】</b> 5/17～9/3開催 総合：5名 A：3名 B：1名 選択B：7名 合計15名 <b>【後期】</b> 10/18～1/28開催 総合：3名 A：3名 B：2名 選択B：4名 合計8名 (2)品質管理検定受験対策講座 <b>【前期】</b> 3級のみ開催 11名受講 <b>【後期】</b> 開講条件10名以上に満たず、2級・3級とも開催を見送り  受講生募集については、講師1名と受講生募集業務委託を締結し、会社訪問によるプログラムのPRなど積極的に募集を行った。	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-2-2	<p><b>【Ⅱ-1-43】再掲</b></p> <p>学内のシーズ・ニーズと産業界のニーズ・シーズのマッチングを図るシンポジウムを開催する。</p>	地域連携推進センター	<p>(1) シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの開催 11月27日(土)14時～16時 オンラインで開催 テーマ：今こそ地域と共に 参加者：75人 &lt;発表&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携の取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>①看護学科 中田明恵准教授、小松市ワクチン接種専門チーム 角谷佳江氏 「自治体と大学の協働のカタチ-COVID19ワクチン；小松市と共に！」</li> <li>②国際文化交流学科 杓谷茂樹教授、鶴遊立地域活性化委員会事務局長 林弘光氏 「小松市・鶴遊立地域の活性化に向けた取り組み」</li> </ul> </li> <li>・研究シーズの発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>①臨床工学科 井澤純子 講師 「画像による生体情報解析」</li> <li>②生産システム科学科 梶原祐輔准教授 「これからの地域を支えるAI人材の育成と地域との連携」</li> </ul> </li> <li>・JST大学発新産業創出プログラムの紹介 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）産学連携展開部主任調査員 北川優氏</li> </ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	III-2-3	<p><b>【II-1-44】再掲</b></p> <p>小松市、小松商工会議所、まちづくり市民財団、社会福祉協議会と協同で、こまつ市民大学を運営する。地域ニーズ等を踏まえて講義内容等の見直しを行う。</p>	地域連携推進センター	<p>「こまつ市民大学」は地域連携推進センター長が運営委員として参画し、本学教員が講師を務める講座を多数開講した。ものづくり、健康、語学、国際情勢など、本学の特徴を生かした多彩な内容となり、また、昨年度に引き続き講義の多くは、本学中央キャンパスを会場とした。</p> <p>[実績] (本学教員が担当したもの)</p> <p>①第3期講座 (4月～8月) 講座数：1 講師数 (延べ)：4人 「『危機』を知り、未来に活かす」 受講者：18人</p> <p>②第4期講座 (9月～3月) 講座数：9 講師数 (延べ)：21人 「学長・副学長特別講座」 受講者：16人 「自分らしい人生の旅立ちを考える パート2」 受講者：15人 「初めて学ぶ心の理論」 受講者：34人 「映画を学ぶ/映画から学ぶ」 受講者：13人 「健康100年 『そくさい』プロジェクト」 受講者：10人 「世界遺産チャレンジ講座」 受講者：10人 「はじめての中国語講座・基礎コース」 受講者：13人 「はじめての中国語講座・発展コース」 受講者：6人 「建設業のイノベーション講座」 受講者：13人</p> <p>③運営委員会 7/14 第6回運営委員会 第4期事業計画及び令和3年度予算案の審議</p>	4
②附属図書館、英語カフェ等の施設の市民利用を図る。(再掲)	III-2-4	<p><b>【II-1-45】再掲</b></p> <p>地域住民等に向けて、各キャンパスの附属図書館や英語カフェ等を開放する。</p>	附属図書館、総務課	<p>本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、附属図書館や自習室、食堂の一般開放を停止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>こまつ市民大学 開講に伴い、各キャンパスの講義室を利用した。 中央キャンパス：41回 末広キャンパス：3回 ※1月～新型コロナウイルス拡大防止のため講義室の貸出しは中止</li> <li>英語カフェ 地域の感染状況を踏まえ、一部の「英会話カフェ」で利用した。 (詳細はII-1-46を参照)</li> </ul>	2

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-2-5	<p><b>【Ⅱ-1-46】再掲</b></p> <p>小松市・小松市国際交流協会と連携し、英語カフェにおいて国際交流プログラムを定期的に開催する。</p>	国際交流センター	<p>①英会話カフェの開催 小松市・小松市国際交流協会と連携し、英会話カフェを実施。小松市国際交流協会会員、小松市国際交流ボランティア、本学学生、および高校生等が参加し、英語でのコミュニケーションを図った。 [開催実績] 4/21, 4/28, 5/17, 5/31, 6/22, 8/24, 9/30, 10/7, 10/27, 11/11, 11/25, 12/20, 12/27, 1/13, 1/25 合計：15回開催（うち5回はオンライン開催） 参加学生：27名</p> <p>②海外文化体験の開催 海外で活躍する石川県出身者をゲストに迎えたセミナーを実施。 ・2021/8/24 ブロードウェイ俳優由水南氏によるオンラインセミナー 参加学生 8名</p> <p>小松市国際交流協会と連携し、石川県に在住する外国人を講師に迎え、海外文化体験を実施。 ・中国語カフェ [開催実績] 8/30, 10/8, 12/10, 2/15 合計：4回開催（うち1回はオンライン開催） 参加学生：18名</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-2-6	<p><b>【Ⅱ-1-47】再掲</b></p> <p>大学施設の効率的・効果的な運用・管理を図り、本学の運営に支障のない範囲で大学施設の市民利用を推進する。</p>	財務課	<p>例年は、中央キャンパスは、附属図書館及び自習室（高校生・大学生に限る）を、栗津キャンパス及び末広キャンパスでは、学生食堂および附属図書館を一般に開放しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で「こまつ市民大学」、「英会話カフェ」など一部の利用に制限した。</p> <p>[施設利用] 207件（令和2年度：211件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央キャンパス 41件（全てこまつ市民大学）</li> <li>・栗津キャンパス 163件（うち162件は運動場利用）</li> <li>・末広キャンパス 3件（全てこまつ市民大学）</li> </ul>	4

### 3 学びをまちの活力に

中期目標		多くの企業、施設、店舗、町内会等の理解のもとに、サークル活動やボランティア活動を含む学生生活を広くまち全体で展開し、若者のエネルギーがみなぎる「まちなかキャンパス」づくりを推進する。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>3 学びをまちの活力に</b>					
若者のエネルギーがみなぎる「まちなかキャンパス」づくりを推進するため、企業、施設、店舗、町内会等のご理解のもと、サークル活動やボランティア活動を広く展開する。	Ⅲ-3-1	学生の自主的活動(大学祭、サークル、ボランティア等)に関わる必要な指導・支援を実施する。	学生課	<p>学生らによる自主的・自律的な活動を原則としつつ、教員が顧問としてサークル活動を監督するとともに、事務局学生課が中心となって各種の学生活動を支援した。また、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により機会は少なくなったが、地域とのつながりの中で学び、大学として地域に貢献していくため、地域における行事、ボランティア等に積極的に参加した。参加は学生の希望に基づいて行うことを基本とし、学生の自主性や積極性を重視した。</p> <p>[大学祭] (10/23) 第4回大学祭「青松祭」を開催。昨年度に引き続きオンラインでの開催となり、1～3年生15人が中心となって動画作成等準備に従事した。事前に撮影した学術講演、サークル等のPR動画、コンテスト等様々な企画のストーリーミング配信を行うとともに、一部ライブ配信を行った。大学祭の動画はyoutubeにて公開されている。 (再生回数：1360回) ※2021年11月時点</p> <p>[サークル活動] 学生の課外活動の推進及び安全な活動環境をつくるための情報交換を行うことを目的として、6月16日および2月22日に学生課が中心となってサークル代表者を対象とした会議をオンラインで開催し、サークル活動中のケガなどに対応する保険や、道具の利用、市内施設の利用方法について説明を行った。 第1回会議 (Teams開催) 6月16日 参加数：22団体 第2回会議 (Teams開催) 2月22日 参加数：18団体 学生の課外活動を支援するため、大学施設の使用は無料で行えることとし、また、小松市まちづくり市民財団のご協力のもとに体育施設の料金割引が適用されている。 2021年度サークル総数 27団体 (体育系13、文科系14) ※2020年度：26団体 新型コロナウイルス感染症の拡大により、1月～3月の間サークル活動は禁止となった。</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	Ⅲ-3-2	学生と地域の社会人、シリコンバレーオフィスを結ぶプロジェクトを引き続き実施する。ICTを活用しながら、学生と地域がともに学び、活動するプラットフォームづくりを推進する。。	地域連携推進センター	<p>[各種ボランティア参加]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こまつ水辺クリーンデー（3/20）参加者：学生、教職員11人</li> </ul> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、自治体や外部からのイベント中止が相次いだ。 （お旅祭り、どんどん祭り 中止）</p> <p>オンラインを活用した交流については、新規でシリコンバレー研修を開催した。</p> <p>[産学合同シリコンバレー研修（オンライン）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボイシー州立大学とのオンライン交流会開催【新規】</li> </ul> <p>1/22（土）9時～10時 参加者：本学学生17人（生産1 臨床2 国際14）、ボイシー州立大学学生17人 小グループに分かれてのディスカッション（地域の紹介、大学での生活の様子、現在の流行や文化など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SVJC（シリコンバレージャパンカレッジ）が主催する夏のプログラム「第24回 Short Term Advanced Program 2021」の参加者を学内で募集 →本学からの参加者はゼロ（市内企業からの参加はあり）</li> <li>・担当教員と学生との意見交換を行い、今後のシリコンバレー連携事業の方向性を検討した。</li> </ul>	3

**IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標**

1 組織運営の改善に関する目標

(1) 機動的な管理体制の構築と適切性の確保

中期目標	経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長のリーダーシップのもとに、各種組織・会議の役割と責任を明確にし、速やかで適確な大学運営を行う。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置 — (1) 機動的な管理体制の構築と適切性の確保</b>					
①理事長及び学長を中心とした管理体制を確立し、ガバナンスの強化を図る。	IV-1-1	経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長の指揮のもと、理事会や審議会及び各種委員会等を適切に運営する。	総務課	<p>理事長及び学長のトップマネジメントのもと、理事会や各種審議会、教授会等の組織体制を構築し、重要事項について審議を行い、適切な法人運営に努めた。組織全体としての指揮命令系統を明確にするとともに、示された方針や決定事項を関係する職員隔々まで周知徹底させるため、月に一度学長、副学長、学部長、学科長、事務局長及び事務局各課長が集まる会議を実施した。</p> <p>また、学長の任期満了に伴い、7回にわたる選考会議を経て次期学長を選任した。大学院開設に伴う中期目標・中期計画の変更、各種規程の制定、改正を行った。</p> <p>[重要会議の開催状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会 5回</li> <li>・経営審議会 5回</li> <li>・教育研究審議会 16回</li> <li>・学長選考会議 8回（学長選考7回、業績評価1回）</li> </ul>	4
②各種組織・会議の役割を明確にする。 ③各組織・会議は、互いに良好な連携を図りつつ、それぞれのミッションを果たす。	IV-1-2	自己点検・評価委員会を定期的に開催し、各組織のミッションと進捗状況について情報共有するとともに、組織間の連携を図る。	総務課	<p>自己点検・評価委員会及び評価室により、年間の業務の方針、予定、進捗状況を管理するため、進捗管理様式を定め、法人・大学の組織ごとに作成し、半年に一回、評価室にてヒアリングを実施した。</p> <p>[ヒアリングの実施]</p> <p>4/27・28 評価室による年度計画にかかるヒアリング実施 （令和2年度年度計画の実績、令和3年度年度計画の予定・方針）</p> <p>6/1 第1回自己点検評価委員会 （審議後業務実績を法人評価委員会へ提出）</p> <p>10/26・28 評価室による年度計画にかかるヒアリング実施 （令和3年度年度計画上半期業務の実績）</p> <p>2/21・22 評価室による年度計画にかかるヒアリング実施 （令和3年度年度計画の実績）</p> <p>※完成年度を迎えたことからヒアリング時期を前倒しで実施）</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
④業務内容の変化や業務量の変動に柔軟に対応するため、適宜組織の見直しを行う。	IV-1-3	自己点検・評価委員会による定期的な業務チェック、聞き取りなどにより、事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、組織の適正化と職員の適正な配置を図る。	総務課	<p>令和4年度の大学院開設に向け、担当事務職員（専任1人、併任3人）を選任し、修士・博士過程設置検討WGとともに準備を進めた。組織の適正化、職員の適正な配置を検討し、組織体制の見直しを進めた。</p> <p>[令和3年度事務局体制（保健管理センター、図書館除く）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栗津 財務課7人（大学院設置準備担当併任1人）、学生課2人</li> <li>・中央 学生課12人（大学院設置準備担当併任2人） 総務課9人（大学院設置準備担当専任1人）</li> <li>・末広 総務課（人事）3人、学生課2人</li> <li>・こまつビジネス創造プラザ 総務課1人</li> </ul>	4

(2) 組織力の強化と構成員の資質・能力の向上

中期目標	公立小松大学としてふさわしい組織風土の醸成に努め、教職員全員が法人の目的及び自らの役割を認識した上でそれぞれの専門性を活かし、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能を最大化させる。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置 — (2) 組織力の強化と構成員の資質・能力の向上</b>					
①職員全員が法人のビジョンを共有し、一体となって教育・研究・地域貢献等の機能強化に取り組む。	IV-1-4	大学憲章のもとに、職員に法人・大学の理念やビジョンを浸透させるとともに、中期目標及び年度計画等への理解を深め、ビジョンに基づいた業務の実施につなげる。	全学	4月26日に新規採用職員10人を対象として開催した新規採用職員研修において、学長より、大学憲章の基本理念や目標等について講話を行い、大学の理念について学び、意識の共有を図った。	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②FD及びSD活動を実施し、構成員の資質・能力の向上を図る。	IV-1-5	効果的なFD及びSD活動を実施するため、教職員に共通する課題や、求められる知識及び技能を整理し、研修を計画・企画する。	総務課	<p>年間を通じて研修会を開催し、職員の管理運営や教育・研究についての資質向上に取り組んだ。</p> <p>[本学主催のSD・FD研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/30 第1回FD・SD研修（対面・オンラインの併用） 「ハラスメント防止について」 講師：金沢大学教授 副学長 志村恵 106名参加</li> <li>・8/25 第2回FD・SD研修（対面・オンラインの併用） 「学生の対応について」 講師：公立小松大学カウンセラー （臨床心理士・公認心理師）坂原 泰子 86名参加</li> </ul> <p>[外部主催のSD・FD研修]</p> <p>本学のSO・FD研修と位置付け、参加を推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/30 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「ハイフレックス講義とLMS環境」 1名参加</li> <li>・9/27 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍における看護教育の事例報告」2名参加</li> <li>・10/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「かなざわ食マネジメント専門職大学の特色について」 3名参加</li> <li>・11/24 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「オンラインによる実習教育」 3名参加</li> <li>・12/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍対応における教職協働」 4名参加</li> <li>・3/22 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コンプライアンスについて」 5名参加</li> </ul> <p>[SD研修について] IV-1-6参照</p> <p>[FD研修について] IV-1-7参照</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	IV-1-6	SD活動は、公立大学協会などの外部機関等が主催する研修なども積極的に利用するほか、職員のジョブローテーションを適宜実施し、個々の能力向上につなげる。	各課（共通）	<p>[研修の実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/6 小松市 初任者研修 接遇研修 4名参加</li> <li>・4/26 新規採用職員研修 10名参加</li> <li>・7/16 公立大学協会オンライン研修 「公立大学法人におけるDXについて」 「公立大学における情報セキュリティについて」 5名参加</li> <li>・7/19 日本アイラック株式会社主催 大学国際教育交流・派遣留学 管理者向け危機管理オンラインセミナー 1名参加</li> <li>・7/30 公立大学協会オンライン研修 「公立大学の経営に関する研修会」 2名参加</li> <li>・9/10 令和3年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム (日本学生支援機構主催) 1名参加</li> <li>・9.10月 公立大学協会会計セミナー 6名参加</li> <li>・12/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍対応における教職協働」 4名参加</li> <li>・1/28 公益社団法人日本実験動物学会事務局主催 動物実験外部検証事前説明会 1名参加</li> </ul>	4
	IV-1-7	学生の授業アンケート結果等を参考に、授業の方法などについての研修会、勉強会を企画、実施する。また、教員相互の授業参観を含む多様な形式のFD活動を実施する。	各学部、教育企画委員会	<p>各学科ごとに授業アンケートの結果に基づき、問題点とその原因について対策を検討し、改善を図っている。また、研修を通じてコロナ禍における教育・授業体制の向上に努めた。</p> <p>[研修の実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/30 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「ハイフレックス講義とLMS環境」 1名参加</li> <li>・9/27 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍における看護教育の事例報告」2名参加</li> <li>・10/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「かなざわ食マネジメント専門職大学の特色について」 3名参加</li> <li>・11/24 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「オンラインによる実習教育」 3名参加</li> <li>・12/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍対応における教職協働」 4名参加</li> <li>・3/22 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コンプライアンスについて」 5名参加</li> </ul>	4

## 2 教育研究組織の見直しに関する目標

中期目標	教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能し得るよう、教育研究組織について適宜見直しを行う。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</b>					
教育、研究に対する社会的ニーズを踏まえつつ、大学がその特色を活かしてより適切に機能するために、学部学科や入学者定員の改編、大学院の設置等の教育研究組織の見直しを行う。	IV-2-1	令和3年度入試の結果を踏まえ、区分毎の入学者定員を再考する。	教育企画委員会、学生課	<p>入試部会において2021年度入試の志願者数、志願者出身高校、合格者の得点率等のデータの分析を行った。2022年度入試における国際文化交流学科の一般入試募集定員において、前期日程、中期日程における定員配分の見直しを行った。</p> <p>[国際文化交流学科 入学者選抜募集定員] 前年度：前期30人、中期30人 今年度：前期35人、中期25人</p> <p>【要項配付の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/28 入試部会にて入学者選抜要項（案）の確認</li> <li>・6/16 入学者選抜要項 完成</li> <li>・7/6 入学者選抜要項をHP上に掲載</li> <li>・6/30 入試部会にて学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）（案）の確認</li> <li>・8/31 学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）完成</li> <li>・9/6 学生募集要項（学校推薦型選抜、社会人選抜）をHP上に掲載</li> <li>・9/22 入試部会にて学生募集要項（一般選抜）（案）の確認</li> <li>・11/1 学生募集要項（一般選抜）をHP上に掲載</li> </ul>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	IV-2-2	令和3年3月に行った文部科学省への大学院設置認可申請書の計画に沿って、開設準備を進める。	全学	<p>【※Ⅱ-1-41再掲】</p> <p>[会議開催状況]  ・修士・博士課程設置検討WGの開催 8回  ・文部科学省事務相談（メール） 10回</p> <p>[設置認可申請]  6/25 大学院設置認可申請に係る補正申請書提出  8/22 大学院設置認可申請に係る再補正申請書提出  10/22 大学設置・学校法人審議会から、  公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科の  設置認可を「可」とする旨の答申</p> <p>[粟津キャンパス大学院棟]  8/24 粟津キャンパス大学院棟起工式  3/30 粟津キャンパス大学院棟竣工式</p> <p>[入学者選抜試験]  ・第1次募集  12/4 生産システム科学専攻 合格者18名  11/23 ヘルスケアシステム科学専攻 合格者1名  12/18 グローカル文化学専攻 合格者1名  ・第2次募集  2/19 ヘルスケアシステム科学専攻 合格者3名  グローカル文化学専攻 合格者1名  ・第3次募集  3/18 グローカル文化学専攻 合格者1名</p> <p>[関係機関との調整]  ・末広キャンパス研究棟 用地取得、用途変更、拡充計画調整  ・小松駅東複合ビル大学フロアー実施設計協議  ・大学院設置記念市民公開フォーラムの開催（10/26）</p> <p>[規則規程の整備]  ・大学院学則、研究科委員会規則の制定  1/18経営審議会、理事会で承認</p>	5

3 人事の適正化に関する目標

(1) 人事管理の適切な運用

中期目標	適材適所の人材配置を行うとともに、教職員の資質向上のための研修制度を整備する。また、教職員のエフォート及び実績を適切に評価する制度を構築することによって、教職員のモチベーションを高め、教育研究活動及び業務の活性化を図る。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置</b> — (1) 人事管理の適切な運用					
①FD及びSD活動を実施し、構成員の資質・能力の向上を図る。(再掲)	IV-3-1	<p><b>【IV-1-5】再掲</b></p> <p>効果的なFD及びSD活動を実施するため、教職員に共通する課題や、求められる知識及び技能を整理し、研修を計画・企画する。</p>	総務課	<p>年間を通じて研修会を開催し、職員の管理運営や教育・研究についての資質向上に取り組んだ。</p> <p>[本学主催のSD・FD研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/30 第1回FD・SD研修（対面・オンラインの併用） 「ハラスメント防止について」 講師：金沢大学教授 副学長 志村恵 106名参加</li> <li>・8/25 第2回FD・SD研修（対面・オンラインの併用） 「学生の対応について」 講師：公立小松大学カウンセラー （臨床心理士・公認心理師）坂原 泰子 86名参加</li> </ul> <p>[外部主催のSD・FD研修]</p> <p>本学のSO・FD研修と位置付け、参加を推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/30 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「ハイフレックス講義とLMS環境」 1名参加</li> <li>・9/27 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍における看護教育の事例報告」2名参加</li> <li>・10/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「かなざわ食マネジメント専門職大学の特色について」 3名参加</li> <li>・11/24 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「オンラインによる実習教育」 3名参加</li> <li>・12/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍対応における教職協働」 4名参加</li> <li>・3/22 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コンプライアンスについて」 5名参加</li> </ul> <p>[SD研修について] IV-1-6参照</p> <p>[FD研修について] IV-1-7参照</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	IV-3-2	<p><b>【IV-1-6】再掲</b></p> <p>S D活動は、公立大学協会などの外部機関等が主催する研修なども積極的に利用するほか、職員のジョブローテーションを適宜実施し、個々の能力向上につなげる。</p>	総務課	<p>[研修の実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/6 小松市 初任者研修 接遇研修 4名参加</li> <li>・4/26 新規採用職員研修 10名参加</li> <li>・7/16 公立大学協会オンライン研修 「公立大学法人におけるDXについて」 「公立大学における情報セキュリティについて」 5名参加</li> <li>・7/19 日本アイラック株式会社主催 大学国際教育交流・派遣留学 管理者向け危機管理オンラインセミナー 1名参加</li> <li>・7/30 公立大学協会オンライン研修 「公立大学の経営に関する研修会」 2名参加</li> <li>・9/10 令和3年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム (日本学生支援機構主催) 1名参加</li> <li>・9.10月 公立大学協会会計セミナー 6名参加</li> <li>・12/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍対応における教職協働」 4名参加</li> <li>・1/28 公益社団法人日本実験動物学会事務局主催 動物実験外部検証事前説明会 1名参加</li> </ul>	4
	IV-3-3	<p><b>【IV-1-7】再掲</b></p> <p>学生の授業アンケート結果等を参考に、授業の方法などについての研修会、勉強会を企画、実施する。また、教員相互の授業参観を含む多様な形式のFD活動を実施する。</p>	各学部 (共通)	<p>各学科ごとに授業アンケートの結果に基づき、問題点とその原因について対策を検討し、改善を図っている。また、研修を通じてコロナ禍における教育・授業体制の向上に努めた。</p> <p>[研修の実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/30 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「ハイフレックス講義とLMS環境」 1名参加</li> <li>・9/27 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍における看護教育の事例報告」 2名参加</li> <li>・10/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「かなざわ食マネジメント専門職大学の特色について」 3名参加</li> <li>・11/24 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「オンラインによる実習教育」 3名参加</li> <li>・12/8 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コロナ禍対応における教職協働」 4名参加</li> <li>・3/22 大学コンソーシアム主催オンライン研修 「コンプライアンスについて」 5名参加</li> </ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
②職員のエフォート及び実績が処遇に適切に反映される評価制度を構築、実施する。	IV-3-4	事務職員について、職員評価制度に基づき、評価を実施する。教育職員については、評価制度の要素と尺度を検討し、制度の骨格を作成する。	総務課	<p>勤務成績評価実施要項に基づき、事務職員の成績評価を実施した（5月、11月）。教員の評価制度については、教員評価基準検討WGを立ち上げ、制度設計の協議を計画的に進めている。</p> <p>[職員評価制度]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職能評価（12項目）と業績評価（2項目）の計14項目で評価</li> <li>・評価は5段階で行う</li> </ul> <p>[教員評価制度] 【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員評価基準検討WG 2回（10/19、12/20）</li> </ul>	4

(2) 教職員の採用

中期目標	教職員の採用は、中長期的な視点に立つて行うものとし、原則として公募により行う等、公平性、透明性及び客観性が確保される制度を構築する。また、採用にあたっては、次代を担う教職員を育成していくため、バランスのとれた教職員構成となるよう取り組む。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置 — (2) 教職員の採用</b>					
質の高い教育研究・管理運営を実施していくため、優秀な職員を採用、育成する制度を構築し、運用する。	IV-3-5	人員配置計画に沿った適正な職員採用を行うとともに、職員の能力向上を図るための研修を実施する。	総務課	<p>下記のとおり教職員の採用及び研修を実施した。</p> <p>[採用]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員選考試験</li> <li>募集人数：生産システム科学科 4人</li> <li style="padding-left: 20px;">看護学科 2人</li> <li style="padding-left: 20px;">国際文化交流学科 3人</li> <li>選考試験：生産システム科学科 4/17、4/21、7/9、11/15、3/18</li> <li style="padding-left: 20px;">看護学科 9/4、11/27</li> <li style="padding-left: 20px;">国際文化交流学科 8/27、9/4、11/16</li> <li>採用：生産システム科学科 1人 (R3.10.1)</li> <li>採用予定：生産システム科学科 2人 (R4.4.1)</li> <li style="padding-left: 20px;">看護学科 2人 (R4.4.1)</li> <li style="padding-left: 20px;">国際文化交流学科 3人 (R4.4.1)</li> </ul> <p>・職員選考試験 実施せず。</p> <p>[研修] ※IV-1-5・IV-1-6・IV-1-7参照</p>	4
	IV-3-6	ダイバーシティ推進の観点から、年齢・国籍・性別・価値観・障がいの有無などの「多様性」を尊重した採用の実施を図る。	総務課	<p>[職員の採用]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者 1人 (R4.4.1)</li> </ul> <p>障がい者雇用が計2名となり、障害者法定雇用率を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設管理・運転業務 1人</li> <li>施設管理・清掃業務 1人</li> </ul> <p>[小松特別支援学校からの職場体験の受入]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9/6～10 生徒1人受入</li> <li>9/6～8 粟津キャンパスで業務従事</li> <li>9/9～10 中央キャンパスで業務従事</li> </ul>	4

#### 4 大学運営の効率化・合理化等に関する目標

中期目標		財源及び人的資源を効率的かつ合理的に運用できる組織体制を整備するとともに、適宜、機能強化に向けた取り組みや見直しを行う。また、事務処理の最適化、外部委託の活用、情報化の推進等により、業務の効率化・合理化を図る。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>4 大学運営の効率化・合理化等に関する目標を達成するための措置</b>					
①資源を効率的かつ合理的に運用できる体制を整備する。 ②事務処理の最適化、外部委託の活用、情報化の推進等により、業務の効率化、合理化を図る。	IV-4-1	年間の予算や業務量、業務内容の状況について把握評価しつつ、適切な予算執行のための体制づくりを進めるとともに、複数キャンパス運営下での法人業務及び大学運営業務の最適化を図る。	総務課、財務課	<p>評価室ヒアリングの実施により、事業の実績、進捗状況の確認、懸案事項の共有を行い、各所属における業務を把握、評価した。また、PO会議の定期開催により、部局・事務局間の調整、情報共有を行った。</p> <p>[評価室ヒアリング] 4/27・28 令和2年度年度計画の実績(下半期分) 10/26・28 令和3年度年度計画の実績(上半期分) 2/21・2/22 令和3年度年度計画の実績(下半期分)</p> <p>[PO会議] 4/6、5/11、6/1、7/6、9/7、10/5、11/2、11/30、1/5、2/1、3/1</p> <p>キャンパス間の連携を強化し、業務効率を高めるため。Microsoftアプリを活用したオンライン会議やデータ共有、アンケート等を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的な会議でのオンライン活用 (Teams)</li> <li>・アンケート実施時の活用 (Forms)</li> <li>・ワクチン接種状況調査、産学連携調査、出欠確認等</li> <li>・学内情報公開での活用 (Sharepoint)</li> </ul> <p>学長選考における情報公開・実施案内・所信を聴く会動画の公開等</p>	4

	IV-4-2	<p>引き続き、研修等により職員のコスト意識を高め、経費の縮減に取り組む。業務改善や合理化に向けた職員提案を募集し、職員の意識啓発を行うとともに、具体的な取り組み・改善につなげる。</p>	総務課	<p>Microsoftアプリを活用した「研究助成・産学官連携情報」サイトにおいて、科研費、外部資金に関する応募情報、産学官連携に係る補助金情報、産学官連携情報などを掲載し、情報の一元管理・発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度掲載情報・・・科研費：4件、研究助成：9件、セミナー：4件、産学官連携情報：6件</li> </ul> <p>また、定期的に課内ミーティングを開催。業務の進捗状況、懸案事項などを課内全体で共有し、業務改善や合理化についても意見を出し合った。事務用品や封筒などの消耗品は、全学的に在庫管理をこまめに行い、適正数の発注に努めている。</p>	3
--	--------	--	-----	---	---

V 財務内容の改善に関する目標

1 自己収入の増加に関する目標

(1) 学生納付金

中期目標	法人運営における基礎的な収入である学生納付金については、入学定員の確保や社会情勢、他大学の水準及び法人収支の状況を勘案して、適切な料金設定と安定した収入確保に努める。
------	---

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
------	----	------	------	-------	------

1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 — (1) 学生納付金					
効果的な学生募集活動の展開による入学志願者の確保及び入学定員の充足に努め、安定した学生納付金の確保を図る。	V-1-1	<p><b>【II-1-19】再掲</b></p> <p>オンラインの活用も図りながら、大学説明会の開催或いは合同説明会への参加、オープンキャンパスや高校訪問を実施し、学生募集活動を展開する。 引き続き、入学者の声及びこれまでの教育の成果を積極的に入試広報に活用する。</p>	教育企画委員会（入試部会）	<p>高校教諭対象の説明会やオープンキャンパス、高校訪問など、コロナウイルスに配慮し例年通り実施した。</p> <p>[オープンキャンパス] 受験対象学年のみを対象に感染症対策を行ったうえで実施した。 参加人数 3キャンパス（3学部4学科）合計：254名 （内訳：生産38名、看護73名、臨床76名、国際67名） ※参考：令和2年度169名</p> <p>[高等学校進路指導教諭対象大学説明会] 北陸三県の高校教諭（進路指導）を対象とした大学説明会を4会場（小松、金沢、福井、富山）で開催し、64校64名の参加者となった。 ※会場別参加校・参加者数 小松会場（6/21）：10校10名、金沢会場（6/25）：28校28名、 富山会場（6/22）：17校17名、福井会場（6/24）：9校9名</p> <p>[高校訪問] 教員・事務職員による高校訪問を6月および9月に実施。北陸三県を中心とした訪問の実施を検討したが、新型コロナウイルス感染症の流行により、石川県内の高校に限定して実施した。 6月：13校、9月：9校 ※令和2度は新型コロナウイルス感染症流行状況により郵送にて対応</p> <p>[進学相談会] 業者主催による進学相談会へ参加した。 金沢会場4回、富山会場4回、福井会場2回、新潟会場3回、長野会場1回</p> <p>[オンラインの活用] 大学コンソーシアム石川主催のオンライン説明会（7/18開催41名視聴）及び業者主催のオンライン説明会（10/2開催17名視聴）に参加した。</p>	4

(2) 外部資金等の獲得

中期目標		学生納付金及び運営費交付金に加え、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得や、産学官連携、地域連携による共同研究費、受託研究費の確保に努める。また、基金・寄附金制度の設立等財源確保に向けて取り組む。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 自己収入の増加に関する目標を達成するための措置 – (2) 外部資金等の獲得</b>					
①科学研究費補助金及び各種補助事業等による研究助成に関する情報収集・申請・受入等の研究支援体制を充実させ、外部研究資金の獲得増加を図る。 ②産学官連携、地域連携を推進し、共同研究費、受託研究費の充実を図るほか、寄附金等の獲得に努める。	V-1-2	科学研究費補助金及び各種補助研究助成への申請、獲得状況などについて教員別、学科別等に分析し、採択率向上に資する。産学官連携コーディネーターの活用等により、外部資金獲得に努める。	財務課	産学官連携コーディネーター（1名）を配置し、北陸3県の企業等を中心として、本学で行っている研究分野やシーズの紹介、協力企業等への協力依頼を実施。  [協力企業等団体数] ・338団体  [訪問活動実績（協力企業等の依頼）] ・39件  [共同研究] ・新規 4件 ・継続 1件  [受託研究] ・新規 1件	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	V-1-3	公立小松大学基金の受入れを促進するため、広報媒体を充実する。	財務課	<p>パンフレット「公立小松大学基金への寄附のご案内」の活用、ホームページでの基金の紹介、活用実績の掲載により基金の受け入れを促進している。</p> <p>[基金の活用事例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績優秀者等への学長表彰</li> <li>・公認サークルへの助成</li> </ul> <p>[寄附の実績]</p> <p>月別内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月 1件 100千円</li> <li>・ 8月 1件 10千円</li> <li>・ 10月 1件 1,000千円</li> <li>・ 12月 4件 66千円</li> <li>・ 1月 3件 438千円</li> <li>・ 2月 5件 140千円</li> <li>・ 3月 7件 136千円</li> </ul> <p>[寄附者内訳]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学関係者 4件 220千円</li> <li>・ 保護者 11件 207千円</li> <li>（入学予定者9件59千円含む）</li> <li>・ 入学予定者 1件 10千円</li> <li>・ 一般 3件 1,015千円</li> <li>・ 卒業生 1件 10千円</li> <li>・ 企業 1件 100千円</li> <li>・ 小松市 1件 328千円 計 22件 1,890千円</li> </ul>	3

## 2 経費の抑制・効率化に関する目標

中期目標	安定的な大学運営を行うため、収支計画、資金計画、人員配置計画、施設・設備計画等を策定することにより、法人全体の収支構造を中長期的に把握するとともに、業務の効率化、契約方法の合理化、無駄の防止を図る業務改善、教職員のコスト意識の徹底等により経費の縮減に努める。
------	---

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
------	----	------	------	-------	------

### 2 経費の抑制・効率化に関する目標を達成するための措置

①教育研究・地域貢献の水準の維持・向上と経費抑制に配慮した中長期の展望にもとづき、収支計画、人員配置計画、施設・設備計画等を策定し、実施する。	V-2-1	各キャンパスの施設・設備の長寿命化計画に基づき、整備を適切に実施する。	財務課	<p>キャンパス老朽度調査（栗津、末広A棟）による長寿命化計画に基づく整備を進めた。</p> <p>[整備更新] 5月 栗津キャンパス学生食堂外壁を修繕</p>	3
	V-2-2	<p><b>【IV-1-3】再掲</b></p> <p>自己点検・評価委員会による定期的な業務チェック、聞き取りなどにより、事務局内の構成及び業務の質・量の検証を行い、職員の適正な配置を図る。</p>	総務課	<p>令和4年度の大学院開設に向け、担当事務職員（専任1人、併任3人）を選任し、修士・博士過程設置検討WGとともに準備を進めた。組織の適正化、職員の適正な配置を検討し、組織体制の見直しを進めた。</p> <p>[令和3年度事務局体制（保健管理センター、図書館除く）]  <ul style="list-style-type: none"> <li>・栗津 財務課7人（大学院設置準備担当併任1人）、学生課2人</li> <li>・中央 学生課12人（大学院設置準備担当併任2人） 総務課9人（大学院設置準備担当専任1人）</li> <li>・末広 総務課（人事）3人、学生課2人</li> <li>・こまつビジネス創造プラザ 総務課1人</li> </ul> </p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	V-2-3	完成年度後の適切・効率的な大学運営を見据えて、人員配置計画を適宜見直す。必要に応じて、特定分野の専門知識を有する職員採用又は登用の検討を行う。	総務課	大学院開設並びに完成年度後の適切・効率的な大学運営を見据え、大学事務経験者を含む事務職員3名を新たに採用した。 [人員配置実績] R4.3.31 (実績) 教育職員 生産システム科学科 20 (常勤) 看護学科 29 臨床工学科 14 国際文化交流学科 17 キャリアサポートセンター 1 医療職員 常 勤 4 技術職員 常 勤 2 事務職員 常 勤 28 非 常 勤 14 計 129	4
②職員のコスト意識を高め、契約方法の合理化、業務改善、経費縮減に取り組む。	V-2-4	<b>【IV-4-2】再掲</b> 引き続き、研修等により職員のコスト意識を高め、経費の縮減に取り組む。業務改善や合理化に向けた職員提案を募集し、職員の意識啓発を行うとともに、具体的な取り組み・改善につなげる。	総務課	Microsoftアプリを活用した「研究助成・産学官連携情報」サイトにおいて、科研費、外部資金に関する応募情報、産学官連携に係る補助金情報、産学官連携情報などを掲載し、情報の一元管理・発信を行った。 ・R3年度掲載情報…科研費：4件、研究助成：9件、セミナー：4件、産学官連携情報：6件 また、定期的に課内ミーティングを開催。業務の進捗状況、懸案事項などを課内全体で共有し、業務改善や合理化についても意見を出し合った。事務用品や封筒などの消耗品は、全学的に在庫管理をこまめに行い、適正数の発注に努めている。	3

### 3 資産管理の改善に関する目標

中期目標		大学施設や知的財産等、法人が保有する資産の適正な管理を図るとともに、資産の有効な活用に努める。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>3 資産管理の改善に関する目標を達成するための措置</b>					
① 資産の状況を定期的に把握・分析し、適正に管理する。	V-3-1	資産の活用状況を踏まえ、適正に管理する。また、各キャンパスを管理する部署との連携、情報共有を徹底する。	財務課	財務会計システムにより、法人の有する資産を一元管理するとともに、該当する物品に対しては法人の財産であることを示すための備品シールを添付している。また、定期的に該当物品の所在や管理状況を把握し、適正な資産管理に努めた。 インターネットバンキングにより常時預金残高を把握し、預金残高照合表及び資金計画表を作成、管理している。また、施設利用予約サイト及びOutlook予定表を活用し、資産の利用状況を管理するとともに、随時各キャンパス管理担当者と連絡を取りながら情報を共有している。	3
② 大学の施設設備の適切かつ計画的な保守管理を行う。	V-3-2	消防法や文部科学省からの通達を遵守し、大学の施設設備を定期的に点検し、保守管理する。	財務課	粟津・末広キャンパスにおいて各種点検を実施し、施設設備の現状の把握を行っている。また、中央キャンパスでは、各種の法定点検を建物の管理会社が行っているほか、避難経路の点検を月に一度実施している。  [点検の内容] ・電気設備保安管理業務 ・合併浄化槽保守点検業務 ・学生寮及びキャンパス内エレベーター保守点検業務 ・消防用設備保守点検業務 ・受水槽水質検査	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
③ 大学運営に支障が生じない範囲内で施設の一般利用を促進し、適切な運用を図る。	V-3-3	大学施設の市民利用を図る。	財務課	※II-1-47参照 [施設貸付の実績] ・栗津キャンパス 163件（うち162件は運動場利用） ・中央キャンパス 41件（全てこまつ市民大学） ・末広キャンパス 3件（全てこまつ市民大学） 総計 207件 （年度計画目標値 25件） ※昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、外部への施設貸付、施設利用を原則禁止した。	3

VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

中期目標	大学の自己点検・評価体制を整備し、自己点検・評価を定期的実施するほか、小松市公立大学法人評価委員会が行う法人評価の結果と併せ、大学運営を継続的に見直す。
------	--

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 評価の充実に関する目標を達成するための措置</b>					
① 教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、自己点検・評価委員会を設置し、教育研究活動等の状況について自己点検・評価を実施する。	VI-1-1	令和2年度年度計画における業務実績について自己点検・評価を行い、その結果を法人運営の改善に活用する。	総務課、評価室	<p>自己点検・評価委員会及び評価室により、年間の業務の方針、予定、進捗状況を管理するため、進捗管理様式を定め、半年に一回、評価室にてヒアリングを実施した。ヒアリングにおいては、令和2年度業務実績評価における今後の課題について十分に配慮した上で業務を行っているかについても確認した。</p> <p>評価の実施にあたっては、法人の審議会や各種委員会において説明を行い、円滑な実施に努めた。</p> <p>[評価の流れ]</p> <p>4月 各組織ごとに実績取りまとめ 4/27・28 評価室による年度計画にかかるヒアリング実施（令和2年度年度計画の実績） 6/1 第1回自己点検評価委員会 6/9 教育研究審議会で業務実績報告書を承認 6/23 経営審議会・理事会で業務実績報告書を承認 6/24 業務実績報告書を小松市へ提出 8/13 法人評価委員会から業務実績の評価結果を受理（全体評価：A R元年度：A、H30年度：A） 8月末 業務実績報告書、評価委員会による評価書をHPに掲載 10/26 評価室による年度計画にかかわるヒアリング実施（令和3年度上半期分） 2/21、22 評価室による年度計画にかかわるヒアリング実施（令和3年度下半期分）</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<p>② 小松市公立大学法人評価委員会による評価を受け、課題を把握し、解決に向けた取り組みを進める。</p>	<p>VI-1-2</p>	<p>小松市公立大学法人評価委員会に法人の運営状況について適宜報告を行うとともに、評価委員会の指摘事項を全学で共有し、課題解決に向けた取り組みを進める。</p>	<p>総務課、評価室</p>	<p>業務実績報告書を作成し、法人評価委員会に提出した。法人評価委員会では評価方法等を審議の上業務実績評価書を作成し、結果を公表した。これを受け各組織において業務の改善に努めた。また大学院設置に伴い、中期目標・中期計画の変更を行った。</p> <p>[評価の流れ]</p> <p>7/29 業務実績の評価、評価書案の意見聴取（第1回小松市公立法人評価委員会）</p> <p>8/13 業務実績評価書を通知 市と連携して評価書を作成</p> <p>8月末 業務実績報告書。評価委員会による評価書をHPに掲載</p> <p>評価の結果を、9/8教育研究審議会、9/21経営審議会・理事会、その他各組織の定例会議で報告。</p> <p>[大学院設置に伴う中期目標・中期計画の変更]</p> <p>10/22 文部科学省より大学院設置認可</p> <p>11月 教育研究審議会・経営審議会・理事会で中期目標変更について審議</p> <p>11/15 中期目標案の意見聴取（第2回小松市公立法人評価委員会）</p> <p>12月 中期目標の市議会議決、公表</p> <p>1月 教育研究審議会・経営審議会・理事会で中期計画変更について審議</p> <p>2/7 中期計画案の意見聴取（第3回小松市公立法人評価委員会）</p> <p>2月 中期計画の市認可、公表</p>	<p>4</p>

2 情報公開と情報発信の推進に関する目標

(1) 積極的な情報提供の推進

中期目標		公共性を有する法人として、法人経営・大学運営の透明性を確保するため、教育研究活動や業務運営等に関する積極的な情報提供を行う。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>2 情報公開と情報発信の推進に関する目標を達成するための措置 — (1) 積極的な情報提供の推進</b>					
公立大学法人として法人情報の適切な管理に努めるとともに、市民に対する大学経営の透明性を図るため、大学の基本情報や経営情報、自己点検・評価、外部評価等についてホームページ等により積極的に情報を公開する。	VI-2-1	法令上公表が義務付けられている事項はもとより、法人運営の状況についてホームページ等を通じて情報を積極的に公開する。	総務課、広報室	<p>法令上公表が義務づけられている事項について、引き続きHPで公開し、適宜最新の情報に更新した。また、理事会、経営審議会及び理事会の議事概要についても、最新情報に更新した。</p> <p>[HPに法定や情報公開の点から掲載している情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営に関する情報：各種会議の規則、名簿、議事概要</li> <li>・法人情報：定款、役員名簿、業務方法書等</li> <li>・計画・目標：中期目標、中期計画、年度計画</li> <li>・外部評価：業務実績報告書、業務実績の評価</li> <li>・財務情報：財務諸表、事業報告書、決算報告書、監査報告、決算概要</li> <li>・教育情報：学校教育法施行規則に定められている事項</li> <li>・その他：研究倫理規程、学長選考に関する情報 等</li> </ul>	3

(2) 効果的な広報活動の推進

中期目標	大学が行う活動について広く社会に示すとともに、地域の理解を得ていくため、大学の広報や情報発信を組織的に行うための体制を構築し、特色ある教育研究活動や地域連携等の活動に関する広報を行う。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>2 情報公開と情報発信の推進に関する目標を達成するための措置 — (2) 効果的な広報活動の推進</b>					
学生募集や産学官連携、地域連携活動等の推進につなげていくため、大学の広報や情報発信を組織的に行う体制を構築し、ホームページ等の様々な広報媒体を活用して積極的な情報提供を行う。	VI-2-2	ホームページや大学広報紙、プレスリリースなどを通じて、本学の優れた教育、研究、地域連携及び国際交流等の取組に係る情報を幅広く発信する。	広報室	<p>広報マニュアルを踏まえ、広報室が中心となって、広報活動を展開した。</p> <p>[広報室の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定例会議の開催（年10回）</li> <li>・ 5/20 広報マニュアルの改訂・全教職員へ周知</li> <li>【新規】7/28 HPニュース記事作成のポイント（マニュアル）を事務局内担当者に配付</li> <li>【新規】後期の全学科オリエンテーションで、リーフレット「大学生から知っておきたいメディア対応力」を配付、説明（取材対応の注意点、大学への報告のお願いなど）</li> </ul> <p>[広報室学生委員の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6/29 研修会開催（講師：EATLAB瀬尾氏）</li> <li>・ 7月 広報室学生委員作成「小松空港で見つけたおススメのお土産」中央キャンパスに掲示</li> <li>・ 11月 サークル紹介ページ「突撃！サークル活動」を更新（弓道サークル追加）</li> <li>・ 3月 新入生向けお祝いコメントボード制作</li> </ul> <p>[大学案内2021の発行]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年6月発行、全40ページ、10,000部</li> <li>・ 以下のページを更新</li> <li>P11-12 教育の流れ、共通教育科目（高校生がイメージしやすいよう、科目名や科目概要を追加）</li> <li>P13-28 各学科ページ（学生の写真とコメントを新規掲載）</li> <li>P35・36 令和4年度入試情報、令和3年度入試結果</li> <li>・ 大学案内英語版の更新（印刷製本は行わず、PDFで更新）</li> <li>教員一覧の更新、海外協定校・機関等追加</li> </ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[ウェブサイトの運用]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随時、サイト情報更新、NEWSページの作成 NEWS記事掲載 4月～3月：99（イベント6、コロナ関連27、ニュース66） 3月末時点 Webページ数：175ページ ※令和2年度146ページ 4月～3月 PV（ページビュー）1,340,086（前年同期比+8.3%） ユーザー（訪問者数）157,295（前年同期比+0.9%） ※前年同期 PV（ページビュー）1,236,673 ユーザー（訪問者数）155,809</li> <li>・ 英語版ウェブサイト 随時、サイト情報更新 Webページ数：12ページ</li> </ul> <p>[広報誌Tachyonの発行]</p> <p>①2021年9月 第7号 全8ページ 4,000部発行 大学の地域連携、地域貢献特集、国際交流の取り組み紹介、 教員紹介（岩田教授（生産）、トピックス、令和4年度入試情報 10/8保護者、協力企業、北陸3県高校、市内公共施設等に配付</p> <p>②2022年2月 第8号 全8ページ 4,000部発行 大学院特集、トピックス、教員紹介（徳田教授（看護））、 末広キャンパス食堂、英会話カフェなど 3月 保護者、協力企業、北陸3県高校、市内公共施設等に配付</p> <p>[広報誌Tachyon Academiaでの研究者紹介] 【新規】 1号 8月発行、全8ページ、4,000部 酒井教授（生産）「スポーツ選手に寄り添う用具とマシンの研究開発」 李教授（臨床）「脳の運動機能モニタリングシステムの開発研究」 小原教授（国際）「映画を学ぶ、映画から学ぶ」</p>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[ラジオこまつの活用]</p> <p>9月～毎週土曜日9:30～9:45          広報番組「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」          学部学科紹介、研究紹介、学生の生の声など          ※放送済のものは、本学ウェブサイトで視聴可能</p> <p>9/4・11 李教授(臨床)          9/18・25 野川准教授(臨床)          10/2・7 青松祭実行委員          10/14・21・30 山田講師(看護)          11/6・13 看護1年生          11/20・27 看護1年生          12/4・11 池田准教授(生産)、生産4年生          12/18・25 上田教授(生産)、生産4年生          1/1・8 上野助教(生産)、生産4年生          1/15・22・29 国際4年生 2名          2/5・12 国際3年生 3名          2/19・26 国際3年生 2名</p> <p>[Youtubeの活用]</p> <p>①ラジオこまつ広報番組「世界に向かって飛び立て!公立小松大学」の音声データをYouTubeチャンネルに公開【新規】公開動画数:12本</p> <p>②シーズ・ニーズマッチングシンポジウムの発表動画を公開          公開動画数:4本</p> <p>③国際文化交流学科地域実習で学生が作成した動画を公開          公開動画数:2本</p>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>[テレビの活用]  10/20 (水) MRO「絶好調W」で青松祭をPR (約10分放送)  3月 MRO「レオスタ」で卒業に合わせた特集を放送 (約7分放送)</p> <p>[その他媒体の活用]  ・商工会議所会報 10月号  市民公開フォーラム告知</p> <p>・臨床工学ジャーナル「クリニカルエンジニアリング」2021年度版  臨床工学科の広告掲載</p> <p>・各種広告掲載・新聞掲載 (特集)  4/30 北國新聞 小松市政特集 広告掲載  10/13 北國新聞 ジャパンテント協賛 (市民公開フォーラム告知広告)</p> <p>・小松駅コンコース柱面広告掲載 (電光掲示板) 4月～3月  6/25 新規デザインに差し替え</p> <p>・サイエンスヒルズこまつ 大学紹介展示【新規】  9/28 新規設置 (パネル展示、動画、研究紹介)</p> <p>・石川県企業誘致サイト「企業立地ガイド」に大学紹介を掲載【新規】  2/1～公開 <a href="https://www.ishikawa-ritchi.com/employment/">https://www.ishikawa-ritchi.com/employment/</a></p> <p>・広報こまつ 10月号  市民公開フォーラム、青松祭、入学者選抜告知</p> <p>・新聞広報 (小松市情報ガイド10月13日、北國・北陸駐日新聞掲載)  市民公開フォーラム告知</p>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VI-2-3	学生・教員の取り組みや課外活動の成果などを、適切に把握・発信するため、広報マニュアルなどを通じて、教員からの各種報告の徹底を図る。	広報室	<p>広報マニュアルの更新及び日々の新聞掲載のチェックを行っている。</p> <p>[主な取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5/20 広報マニュアルの改訂・全教職員へ周知</li> <li>・7/28 【新規】HPニュース記事作成のポイント（マニュアル）を事務局内担当者へ配付</li> <li>・【新規】後期の全学科オリエンテーションで、リーフレット「大学生から知っておきたいメディア対応力」を配付、説明（取材対応の注意点、大学への報告のお願いなど）</li> </ul>	3

**VII その他業務運営に関する目標**

**1 施設設備の整備及び活用に関する目標**

中期目標	良好な教育研究環境の維持・向上のため、中長期的な構想に基づき、施設設備の充実整備を図る。
------	--

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
------	----	------	------	-------	------

1 施設設備の整備及び活用に関する目標を達成するための措置					
①良好な教育研究環境の維持・向上のため、中長期的な構想に基づき、施設設備の充実整備を図る。 ②キャンパスのバリアフリー化を進める。	VII-1-1	<b>【V-2-1】再掲</b> 各キャンパスの施設・設備の長寿命化計画に基づき、整備を適切に実施する。	財務課	キャンパス老朽度調査（栗津、末広A棟）による長寿命化計画に基づく整備を進めた。  [整備更新] 5月 栗津キャンパス学生食堂外壁を修繕	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VII-1-2	新型コロナウイルス感染防止対策を3キャンパス、その他施設で徹底する。アメニティの向上のための取組を実施する。	財務課、学生課	<p>[新型コロナウイルス感染防止対策]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空気清浄機10台、オゾン発生器100台の定期清掃</li> <li>・足踏み式消毒液ポンプスタンド設置（粟津キャンパス）</li> <li>※中央キャンパス、末広キャンパスは既に設置済み</li> <li>・全講義終了後、職員による教室等の消毒を実施</li> </ul> <p>[アメニティ向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体 <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を実施（継続）</li> <li>（全キャンパスに空気清浄機計10台、計オゾン発生器を100台、サーモグラフィー体温測定器計4台設置）</li> <li>トイレにペーパータオルを設置（継続）</li> </ul> </li> <li>・粟津キャンパス <ul style="list-style-type: none"> <li>学生ホールにミネラルウォーターサーバーを再度設置</li> <li>学生寮運用再開</li> <li>入寮状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>2年 男 5名（生産5名）</li> <li>1年 男 5名（生産4名、臨床1名）</li> <li>女 5名（生産1名、臨床3名、国際1名）</li> <li>計 15名</li> </ul> </li> <li>フローラルこまつ花苗植栽事業参加に参加し、花苗を校門前に設置</li> </ul> </li> <li>・中央キャンパス <ul style="list-style-type: none"> <li>学生ホールにミネラルウォーターサーバーを再度設置</li> </ul> </li> </ul>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VII-1-3	こまつビジネス創造プラザや町家の借用など、市や関係機関と連携し、設備の充実を図り、教育研究環境の向上につなげる。	総務課、財務課	<p>[町家ハウスDoihara] 引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、密にならないよう机イス等の間隔を空けて配置 ○利用時間 平日9:00～21:00（土日祝使用不可）</p> <p>[ビジネス創造プラザ] 2・3号室 国際文化交流学部 グローバルスタディーズ 4・5号室 国際文化交流学部 国際観光・地域創生コース 6～9号室 空室（大学院研究室予定） 10号室 共同研究室 11号室 横川副学長 12号室 共同研究室 13号室 島内先生 14号室 真田先生（地域連携推進センター） セミナールームはものづくり人材スキルアッププログラムの会場にも使用された。前期は5月～9月、後期は10月～1月の午前中に活用。</p>	3

## 2 安全衛生管理に関する目標

中期目標		学生及び教職員の健康及び安全を確保する体制を構築する。また、災害等による被害の発生に備えてリスク管理を徹底するとともに、災害等が発生した場合に適切かつ迅速に対応できる危機管理体制を整備する。さらに、個人情報を含む情報セキュリティ対策を講じる。			
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>2 安全衛生管理に関する目標を達成するための措置</b>					
① 学生及び職員の健康及び安全を確保する体制を構築する。	VII-2-1	職員を対象に定期健康診断とストレスチェックを実施するとともに、衛生管理体制の充実を図るなど、職員の安全衛生管理・健康管理を着実に進行。また、有給休暇の取得を促進するための取り組みを行う。	保健管理センター、安全衛生委員会、総務課	<p>安全衛生委員会を定期的に開催。また、定期健康診断やストレスチェック等を実施し、職員の心身の健康の維持・増進に取り組んだ。</p> <p>[主な取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6/21～6/28 ストレスチェックの実施</li> <li>・ 9/22 定期健康診断実施</li> <li>・ 4/28、5/26、6/23、7/28、8/25、9/22、10/27、11/24、12/21、1/26、2/17、3/16安全衛生委員会開催</li> <li>・ 11月24日（水）～12月13日（月）の間で、8回の集団予防接種を実施</li> </ul> <p>[有給休暇の取得促進]</p> <p>偶数月に職員へ有給休暇の取得状況を通知、6月、9月に職員へ年休の取得促進について通知し、全職員の年5日以上取得を実現した。</p> <p>[新型コロナウイルス感染症の予防対策]</p> <p>4月に教職員に向けて「新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」を配布。</p> <p>引き続き全キャンパスに空気清浄機、オゾン発生器、サーモ式体温測定器、手指消毒用のアルコールを設置。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関する問い合わせや相談に対応。</p> <p>[産業医による職場巡視]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施日 <ul style="list-style-type: none"> <li>末広キャンパス 10月27日</li> <li>栗津キャンパス 11月24日</li> <li>中央キャンパス 12月21日</li> </ul> </li> <li>・ 指摘事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>栗津キャンパスは次の事項の指摘を受けたため、改善した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①ロッカーの上にある段ボールについて</li> </ul> </li> <li>末広キャンパスは次の事項の指摘を受けたため、改善した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①躓くものの片づけについて</li> </ul> </li> </ul> <p>また、末広キャンパスでは排気設備充実の要望があり、改善した。</p> </li></ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VII-2-2	<p><b>【II-1-24】再掲</b></p> <p>健康診断の徹底や新型コロナウイルスなどの感染症予防、健康相談、保健情報提供等、健康支援のための取組を推進する。また、学生相談を3キャンパスで随時実施する。</p>	保健管理センター	<p>学生定期健康診断を実施し、ほぼ全ての学生が受診した。尿・血圧の再検査を実施。要医療・要精検・要再検査（医療機関での検査必要）と判断された28名の学生には医療機関への受診勧奨を実施。受診結果未提出の学生には12月に保護者宛に書類を郵送した。11月19日（金）又野学校医が来学し、学生の健康診断結果の確認。同時に要受診判定者の受診結果を確認し、学業の継続に支障をきたしている学生はいなかった。</p> <p>健康調査票の結果、保健管理センターに相談希望の学生、既往症のある学生、精神面で気になる学生（中央C100名、末広C38名、粟津C23名）にメール等で連絡し、現状把握と対応を行った。</p> <p>1年生の感染症調査票および健診結果をもとに、4種予防接種の接種歴と抗体価を確認。必要な予防接種の接種勧奨を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勧奨数：生産18名、看護30名、臨床工学14名、国際30名</li> <li>・接種者数：生産4名、看護29名、臨床工学11名、国際10名</li> </ul> <p>インフルエンザ予防接種を8医療機関の協力の下、下記のとおり実施した（小松市医師会に協力依頼）。接種の事前申し込みはMicrosoft Formsを使用。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/24～12/13 3キャンパスで計8回実施</li> <li>・12/14～21 医療機関での個別接種を実施</li> </ul> <p>接種率は、学生が64%（628名/980名中）、教職員が81%（103名/127名中）であった。</p> <p>保健医療学部1年生と臨床工学科2年生のB型肝炎集団予防接種を医師会に依頼し、新規で契約した（やわたメディカル健診センターが実施）。3回の接種（5月14日・6月11日・10月14日）と抗体検査（12月9日）を実施した。個別接種と個別検査も含め、1月22日（土）に全員実施完了した。</p> <p>臨床心理士による学生相談は、週4日間（月～水と金）の午後に実施した。</p> <p>[令和3年度相談者数]</p> <p>前期：新規8名、継続14名、相談再開3名、合計25名（うち7名は相談終結） 後期：新規4名、前期からの継続14名、合計18名（うち2名相談終結）</p>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
				<p>総務課とともに、8月25日に坂原臨床心理士によるFD・SD研修を開催した【新規】。テーマは「学生への対応—それぞれの立場で学生を見守り、支えていくために—」。研修会後のアンケートでは「理解できた」との回答が9割、「意義のあるものだった」との回答も9割、継続開催の希望もあった。</p> <p>ほけかんだよりを通して、定期的に学生への感染防止や健康情報の周知を図った。なお、4月～7月までは、全学生・全教職員にほけかんだよりをメールに添付して送付していたが、著作権等に配慮し、後期からは掲示のみとした。</p> <p>研修実績としては、下記のとおり全てオンラインで参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10/6-7 全国大学保健管理研究集会 1名</li> <li>・7/15-16 東海北陸大学保健管理研究集会 2名</li> <li>・9/21-22 障害学生支援実務者育成研修会 1名</li> <li>・11/12 北陸3県大学保健管理研究会 4名</li> </ul> <p>先進的な取り組みを行っている大学への視察については、感染症流行により、他大学への訪問が困難であったため、金沢大学保健管理センターに電話で情報収集を行った。</p> <p>【新型コロナウイルス感染症について】          新型コロナ感染症連絡網を活用し、関係教職員に感染ならびに相談状況を随時報告。安全衛生委員会、学生支援部会で毎月報告。その他、要請があれば理事会に報告した。          また、学生・教職員からの新型コロナ感染症に関する相談や連絡に個別対応した。</p> <p>令和3年度は、学生・教職員からの相談が103件あり、PCR検査実施は71名で、うち陽性者は30名（学生27名、職員3名）であった。学内の講義等での感染はない。</p> <p>5月8日（土）に学内感染確認後の対応をし、同日専門業者による学内消毒を実施した（総務課対応）。その後の主な対応としては、下記のとおり行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境消毒、手指消毒の学内整備と実施及び啓発。</li> <li>・石川県からの事業に則り、6月8日（火）に学生寮入寮者12名全員のPCR検査を実施し、結果は全員陰性であった。</li> <li>・文部科学省より、抗原検査の簡易キットを100個提供いただき、3キャンパスの保健管理センターに配備し、活用した。</li> </ul>	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VII-2-3	新型コロナウイルス感染防止対策や予防接種において南加賀保健福祉センターや市内医療機関等との連携強化を推進する。	保健管理センター、総務課	<p>【新型コロナウイルス感染症について】 令和3年度の新型コロナ感染症疑いも含めて、PCR検査の結果、陽性だった学生は27名であった。</p> <p>主な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学宣誓式後や各学科のオリエンテーションで新型コロナウイルス感染予防について説明。</li> <li>・各キャンパス玄関入り口にサーモグラフィー体温測定器を設置。</li> <li>・各講義室や共用場所にアルコール、机などを拭く環境消毒用クロスを設置。</li> <li>・新型コロナ等による体調不良者には、医療機関の受診勧奨。</li> <li>・関係教職員には新型コロナ感染症連絡網で連絡。</li> <li>・感染者が判明した場合は担当教員などとも連携し対応。</li> <li>・石川県大規模接種会場での学生・職員の接種勧奨。</li> </ul> <p>ワクチン接種促進に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県や市からの情報を適宜学生・教職員へ周知</li> <li>6/17 「いしかわ県民ワクチン接種センター」について周知・送迎バスの手配(6/23、7/1、7/3、7/8、7/13に続報を通知)</li> <li>・中央キャンパスと県の接種会場への往復バスを運行</li> <li>運行実績：7/10～8/19の6日間 計10往復 延べ43人利用</li> </ul> <p>接種状況把握に向けたアンケート調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/27 第1回アンケート</li> <li>回答率：学生35.5% 教職員79.2%</li> <li>ワクチン接種率（予約済みも含む）：学生55.3%、職員86.0%</li> <li>・9/7 第2回アンケート</li> <li>回答率：学生72.0% 教職員88.9%</li> <li>ワクチン接種率（予約済みも含む）：学生78.0%、職員96.7%</li> </ul>	4

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<p>② 防災・防犯のためのマニュアルを作成し、学生や職員を対象とした啓発や訓練を行う。</p> <p>③ 災害等が発生した場合に適切かつ迅速に対応できる危機管理体制を整備する。</p>	<p>VII-2-4</p>	<p>各種の防災マニュアルの整備を行うとともに、計画的に訓練を実施するなど、危機管理のための取組を推進する。避難訓練時などに、障がいのある学生への対応をシミュレーションし、学生・職員への啓発活動を行う。</p>	<p>総務課</p>	<p>防災計画に基づき、定期的に訓練・研修を実施した。 また、必要に応じ危機管理委員会を開催し、本学における新型コロナウイルス感染対策の現状確認・基本方針策定を行った。</p> <p>[訓練・研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7/2 栗津キャンパス及び学生寮避難訓練 (教職員・寮生・寮管理人対象)</li> <li>・ 7/27 中央キャンパス防災訓練 (事務局員対象)</li> <li>・ 12/20 中央キャンパス防災訓練 (事務局員対象)</li> </ul> <p>[危機管理委員会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5/12 第1回委員会 感染に係る連絡を受けた際の連絡体制について周知</li> <li>・ 10/8 第2回委員会 学内施設利用等について後期の対応を確認</li> <li>・ 1/15 第3回委員会 1/17以降の授業体制 (2/2まで原則オンライン授業、実習・実験等は一部対面授業) を決定</li> </ul>	<p>4</p>

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VII-2-5	防災訓練の一環として、安否確認システムの配信訓練を定期的に行い、登録率・応答率の向上を図る。	総務課	<p>安否確認システム「Safetylink24」について、オリエンテーションで学生に周知した。また、昨年に引き続き安否確認システム配信訓練を年2回実施した。</p> <p>[安否確認システム]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月 オリエンテーションで安否確認システムを学生に周知</li> <li>・5/17 第1回安否確認システム配信訓練（1121名） ⇒回答数 900名（80.3%）</li> <li>・11/17 第2回安否確認システム配信訓練（1120名） ⇒回答数 831名（74.2%）</li> </ul> <p>訓練未回答者に対しては、アプリのインストールを個別に案内し、登録を促進した。</p>	3
	VII-2-6	事前研修会や情報提供などにより、学生・職員の海外渡航時の危機管理意識の向上を図り、渡航時の事故や災害に備える。	学生課、国際交流センター、総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7/19 大学国際教育交流・派遣留学 管理者向け危機管理オンラインセミナー（日本アイラック株式会社主催） 国際交流センター職員1名 受講 ⇒上記セミナーを受講し、海外渡航に係る学生の誓約書の見直しを実施。</li> <li>・9/10 令和3年度留学生交流実務担当教職員養成プログラム（日本学生支援機構主催） 国際交流センター職員1名 受講</li> <li>・12/3 学生向け危機管理セミナー 講師：日本アイラック株式会社 スタッフ1名 参加学生：9名</li> </ul>	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
④ 個人情報を含む情報セキュリティ対策を講じる。	VII-2-7	引き続き、個人情報管理や情報ネットワークのセキュリティ等に必要な規定の整備を進める。 また、学内ネットワーク設備等のセキュリティ強化を図るとともに、情報セキュリティに関する研修を実施する。	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内研究用ネットワーク（有線、無線）の整備 無線LAN BLUE, 研究用ネットワーク（BLUE-HS, IC, PS）を設置。それに伴い、無線LAN GREENおよびPURPLEを廃止。</li> <li>・上記学内研究用ネットワークの増設に伴い、学内ネットワーク及びPCの使用についての注意事項を整理。全教員を対象に周知を行った。</li> </ul>	3

### 3 法令遵守等に関する目標

#### (1) 法令遵守及び人権の尊重

中期目標	全ての学生や教職員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。また、人権を尊重し、全ての人がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>3 法令遵守等に関する目標</b> — <b>(1) 法令遵守及び人権の尊重</b>					
① すべての学生や職員に対して法令遵守を徹底し、適正な教育研究活動と業務運営を行う。 ② 人権を尊重し、すべての人がいきいきと活躍できる環境を、ソフト・ハード両面から整備する。 ③ ワークライフバランスに配慮し、誰もが働きやすい職場環境づくりに努める。	VII-3-1	継続的な啓発活動や研修等を実施し、学生や職員へハラスメントや研究（研究費）、情報セキュリティ、個人情報保護等のコンプライアンスを徹底する。	総務課	[具体的な実施内容] ・6/9 第1回ハラスメント委員会開催 ・8/18 石川県人権啓発研修会 1名参加 ・8/25 第1回FD・SD研修会として、ハラスメント研修会を実施。 参加者106名	4
	VII-3-2	業務の量・質を各課内で精査し、担当業務の適正化・平準化を図る。	各課（共通）	[具体的な実施内容] ・課内ミーティングを定期的実施し、進捗状況、懸案事項などを共有し、業務の適正化・平準化を図った	3

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VII-3-3	業務改善・合理化に向けた職員の意識改革に取り組み、時間外勤務の削減、年休取得などワークライフバランスの適正化を促進する。	各課（共通）	<p>[各課における業務改善]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/1より休暇取得日数、時間外勤務時間数、滞在時間数を、管理職並びに職員個人が確認できるよう出勤簿登録システムを導入した。</li> <li>・6月、9月に職員へ年休の取得促進について通知し、各所属長には9月・11月・12月に所属職員の年休取得状況について通知した</li> <li>・偶数月に各所属長へ所属職員の勤務状況（長時間労働等）を集計し、通知した</li> </ul>	4
	VII-3-4	薬品管理について、規定に基づいた適切な管理を徹底する。	安全衛生委員会	末広キャンパスは10月27日、粟津キャンパスは11月24日の職場巡視時に、担当者から薬品管理について説明を受け、産業医がその内容を確認を行った。	3

(2) 内部監査体制の確立

中期目標		内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価	
<b>3 法令遵守等に関する目標 – (2) 内部監査体制の確立</b>						
内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。	VII-3-5	業務方法書及び内部監査規程に基づき、内部監査を実施する。	総務課	<p>「令和3年度監事監査計画」及び「令和3年度内部監査計画」策定を策定し、それらに基づき監査を実施した。内部監査の実施にあたり、総務課員及び財務課員で構成された「監査班」を組織した。</p> <p>監査の結果、いずれの対象課、対象者も法令等に準拠しており、適正に実施されていることが認められた。</p> <p>[監事監査] 理事会をはじめとする重要な会議等へ出席し、質問を行ったほか、必要に応じて意見を述べた。また、令和3年6月に業務実績報告書及び財務諸表等による業務監査及び会計監査を実施した。</p> <p>[内部監査] 監事2名と内部監査の実施について協議を行ったうえで、下記の日程で監査を実施した。内部監査資料の提出様式をリニューアルするとともに、効率化等改善事項・個別懸案事項等についても監査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11/4 学生課内部監査実施</li> <li>・11/5 総務課人事係内部監査実施</li> <li>・12/21 外部資金内部監査実施（公的研究費等） 生産システム科学科：安達教授 看護学科：小田助教 臨床工学科：平山教授 国際文化交流学科：杓谷教授</li> </ul>	3	

(3) 環境保全の推進

中期目標		内部監査のための体制を整備し、内部監査を適正に実施する。				
中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価	
<b>3 法令遵守等に関する目標 – (3) 環境保全の推進</b>						
① 大学運営全体を通して環境負荷の低減に努め、省エネルギーに関する取組を推進する。	VII-3-6	施設設備を点検し、必要に応じて整備更新し、エネルギーの高効率化に努める。	財務課	<p>栗津・末広キャンパスにおいて各種点検を実施し、現状の把握を行っているほか、中央キャンパスでは、各種の法定点検を建物の管理会社が実施している。また、点検結果を踏まえて、整備更新についても随時実施している。</p> <p>[点検の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気設備保安管理業務</li> <li>・合併浄化槽保守点検業務</li> <li>・学生寮及びキャンパス内エレベーター保守点検業務</li> <li>・消防用設備保守点検業務</li> </ul> <p>[整備更新（栗津キャンパス）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生食堂外壁を修繕</li> <li>・消防設備修繕工事</li> <li>・職員玄関内側にカードリーダー設置</li> <li>・学生寮ネットワーク設備修繕工事</li> </ul> <p>[整備更新（栗津キャンパス）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床工学実習室換気扇取付工事</li> <li>・消音ダクト工事</li> </ul>	4	
	VII-3-7	夏季及び冬季の室温を適切に管理する等、省エネルギーに努める。	財務課	<p>空調や照明の集中管理やタイマー設定等による電力量を意識した管理を実施するとともに、冷房や暖房を使用する時期においては、張り紙等により教職員及び学生に省エネ対策を周知した。</p> <p>栗津・末広キャンパスでは、デマンド監視装置により室温等電気の使用状況を管理。</p> <p>中央キャンパスでは、管理会社から日々の電力使用状況の報告を定期的を受け、その報告をもとに、建物全体としてのデマンドの削減に努めた。</p> <p>【デマンド実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栗津キャンパス 205kw</li> <li>・末広キャンパス 131kw</li> <li>・中央キャンパス 234kw</li> </ul>	3	

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
	VII-3-8	会議のオンライン化推進、Office365等各種アプリを活用したデータ共有などにより、ペーパーレス化を図る。	総務課	積極的にMicrosoft社の各種アプリ（Teams、Forms、Sharepoint）を利用し、会議のオンライン化を推進するとともに、アンケートや入力フォームの作成・集計作業の効率化を図った。	3
② 廃棄物の適正な分別を徹底し、減量化とリサイクルを推進する。	VII-3-9	職員と学生に対して廃棄物の分別や減量化等の周知を行うとともに、適正な廃棄物処理に向けた取組を行う。	総務課	キャンパスごとに、ごみの適正な分別と減量化を学生・教職員に周知した。事務局においては、裏紙の利用促進のほか、オンライン会議や各種アプリの活用により、資料等の紙の削減に努めた。	3

**VIII 予算、収支計画及び資金計画**

財務諸表及び決算報告書を参照

**IX 短期借入金の限度額**

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 短期借入金の限度額</b>					
3億円	—	3億円	財務課	なし	—
<b>2 想定される理由</b>					
運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。	—	運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。	財務課	なし	—

**X 出資等に係る不要財産の処分に関する計画**

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
なし	—	なし	財務課	なし	—

**X I 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画**

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
なし	—	なし	財務課	なし	—

**X II 余剰金の使途**

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	—	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	財務課	令和2年度決算において計上した当期総利益の80,578,200円を教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てるため積み立てた。	3

XⅢ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	番号	年度計画	所管部署	業務の実績	自己評価
<b>1 施設及び設備に関する計画</b>					
計画に従い施設及び設備の整備改修等を行う。	—	計画に従い施設及び設備の整備改修等を行う。	財務課	<p>キャンパス老朽度調査（栗津、末広A棟）による長寿命化計画に基づく整備を進めた。</p> <p>[整備更新] 5月 栗津キャンパス学生食堂外壁を修繕</p> <p>大学院の開設に向けて、栗津キャンパスでは大学院棟を建設した。また、計画外の対応として、末広キャンパスでは研究実験棟整備のため建設用地を購入した。</p>	4
<b>2 積立金の使途</b>					
教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	—	教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	財務課	目的積立金より80,578,200円を取崩し、教育研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てた。	3
<b>3 その他法人の業務運営に関し必要な事項</b>					
なし	—	なし	—	なし	—

#### (4) 指標単位評価

実績及び自己評価結果

##### 【教育指標】

項目	考え方	達成年度	中期計画 目標値	R3目標値	実績	備考	自己評価
1 志願倍率	志願者数／募集定員	最終年度	2倍以上	-	(7.8)	2021年 7.8(一般9.6、推薦2.5) 2022年 5.8(一般6.9、推薦2.5)	-
2 学生の満足度	5段階評価(平均値)	毎年度	3.3	3.3	<b>4.26</b>	前期 4.27 後期 4.25	a
3 外国語能力検定試験結果	国際文化交流学部TOEICスコア (4年生平均)	毎年度	600点	600点	<b>549</b>		b
4 標準修業年限での卒業者の比率	4年間で卒業した人数／当該年度 入学者数	毎年度(完成年度 以降)	80%	80%	<b>90.8%</b>		a
5 就職希望者の就職率	就職者数／就職希望者数	毎年度(完成年度 以降)	90%以上	90%以上	<b>99.5%</b>	2022年3月末時点の就職内定率 100%	s
6 国家試験合格率	看護師・保健師の合格率	毎年度(完成年度 以降)	95%以上	95%以上	<b>100%</b>		s
	臨床工学技士の合格率	毎年度(完成年度 以降)	95%以上	95%以上	<b>91.2%</b>	全国合格率80.5%	b
7 市民公開講座開講数	開講テーマ数／年	完成年度以降	10／年	10／年	<b>13</b>	市民大学 10 市民公開フォーラム 1 ものづくり人材スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 1	a
	教員参画数／年	完成年度以降	20人／年	20人／年	<b>延べ25人</b>		a
8 市民による施設利用度	市民図書館利用者数／年	毎年度	500人	500人	<b>0人</b>	新型コロナウイルス感染防止のため 利用を制限	d
	自習室利用登録者数／年	毎年度	80人	80人	<b>0人</b>	新型コロナウイルス感染防止のため 利用を制限	d
	大学施設利用件数／年	毎年度	25件	25件	<b>207件</b>	中央 41件 栗津 163件 末広 3件	s
9 インターンシップ参加者数	参加者数／年	毎年度(3年目以 降)	200人	200人	<b>延べ304人</b>	・「学外技術体験実習」(生産)84人 ・「インターンシップ」(国際) 63人 ・その他(授業外) 157人	s

### 【研究指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R3目標値	実績	備考	自己評価
10	学会報告件数	報告件数／年	完成年度以降	100件	100件	146件	国内学会 110件 国際学会 36件	s
11	論文・著書数	論文数／年	完成年度以降	70編	70編	117編	日本語 33編 英語・その他外国語 84編	s
		英語・その他の外国語論文数／年	完成年度以降	30編	30編	84編		s
		著書発表数／年	完成年度以降	5編	5編	13編		s
12	共同研究・受託研究数	実施件数／年	完成年度以降	10件	10件	6件	共同研究 5件 受託研究 1件	c
13	科学研究費補助金等獲得状況	科学研究費補助金採択件数／年	完成年度以降	15件	15件	44件	新規 15件 継続 29件	s
		その他外部研究資金採択件数／年	完成年度以降	5件	5件	14件		s

### 【国際交流指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R3目標値	実績	備考	自己評価
14	留学生受入・派遣数	受入人数／年	毎年度 (3年目以降)	10人以上	10人以上	1人	短期 0人 長期 1人(R3.4～R3.3)	d
		派遣人数／年	毎年度 (3年目以降)	40人以上	40人以上	22人	短期 20人(オンライン留学20人) 長期 2人(オンライン留学1人)	d
15	海外大学等との交流協定締結数	協定数(累計)	最終年度	10件	—	(16件)	大学間 10件 部局間 5件 その他 1件	—
16	国際シンポジウム・セミナー等発表・開催数	発表者数／年	完成年度以降	15人	15人	39人	学会発表 36人 招待講演 3人	s
		開催件数(累計)	最終年度	15件	—	(10件)		—

【地域貢献指標】

項目		考え方	達成年度	中期計画 目標値	R3目標値	実績	備考	自己評価
17	市民公開講座開講数 (再掲)	開講テーマ数/年	完成年度以降	10/年	10/年	13	市民大学 10 市民公開フォーラム 1 ものづくり人材スキルアッププログラム 1 資格取得支援講座 1	a
		教員参画数/年	完成年度以降	20人/年	20人/年	延べ25人		a
18	市民による施設利用度 (再掲)	市民図書館利用者数/年	毎年度	500人	500人	0人		d
		自習室利用登録者数/年	毎年度	80人	80人	0人		d
		大学施設利用件数/年	毎年度	25件	25件	207件	中央 41件 粟津 163件 未広 3件	s
19	連携施設・店舗等の数	累計数	最終年度	50件	-	(363件)	協力企業等 338団体 ランチ助成券 25店舗 学食ネット 2店舗 (ランチ助成券との重複2店舗)	-
20	学生の地域行事等ボランティア 件数・人数	件数/年	完成年度以降	20件	20件	128件	小松市ワクチン集団接種 122件 ボランティアサークル 5件 その他 1件	s
		参加人数/年	完成年度以降	100人	100人	249人	小松市ワクチン集団接種 197人 ボランティアサークル 50人 その他 2人	s

### 【業務運営の改善及び効率化】

項目	考え方	達成年度	中期計画 目標値	R3目標値	実績	備考	自己評価	
21	業務改善実施件数	件数(累計)	最終年度	40件	—	(40件)	—	
22	FD・SDに関する取組件数	FD・SD活動取組件数/年	毎年度	1件以上	1件以上	<b>2件</b>	本学主催 2件	<b>a</b>

### 【財務内容の改善】

項目	考え方	達成年度	中期計画 目標値	R3目標値	実績	備考	自己評価	
23	自己収入額	自己収入額/年	毎年度(完成年度以降)	7億円以上	7億円以上	<b>7.3億円</b>		<b>a</b>
24	科学研究費補助金等獲得状況(再掲)	科学研究費補助金採択件数/年	完成年度以降	15件	15件	<b>44件</b>	新規 15件 継続 29件	<b>s</b>
		その他外部研究資金採択件数/年	完成年度以降	5件	5件	<b>14件</b>		<b>s</b>

## 4 資料

資料1	[シラバス] キャリアデザイン・チーム論	.....	141
資料2	[シラバス] アカデミック・スキルズ	.....	143
資料3	[シラバス] テーマ別基礎ゼミ	.....	145

## キャリアデザイン・チーム論 I

共通教育科目  
1 年生  
1 単位 前期  
水曜 1 限  
木村 繁男

## ■到達目標

- 「生産システム科学」とはどのような研究・教育分野であるか理解する。
- 自己のキャリア形成について具体的イメージを持つことができる。

## ■授業の概要

「生産システム科学部」設立の理念、本学部で学ぶ意味、将来のキャリアパスについて考える機会を与える。また、選挙権を有する社会人としての自覚を促し、その中で必要となる基礎的知識とスキル、自己管理能力、他との協調性を身につけ、人間力養成を図ることが目標である。授業においては、「生産システム科学部」における教育研究を概観し、本学部で何を学び、何を研究すべきかについて議論する。南加賀の地において活躍する企業人を非常勤講師として迎え、現代社会を一個人として生きて行く上で必須となる健康論、環境論、人権論、地域概論、企業倫理、キャリア形成についても学ぶ。

## ■授業計画

- 1 大学・社会生活論（大学における学び方と生活の仕方）  
大学での学び方と生活上の注意
- 2 生産システム科学について  
工学の歴史と発展、石川県におけるものづくり産業の発展
- 3 キャリア形成の助けに  
㈱コマツ顧問 黒本和憲氏を予定
- 4 現代社会を生きる（I）  
賢い消費者塾（石川県消費者センター担当弁護士を予定）
- 5 現代社会を生きる（II）  
大人の交通マナー（IAF 広報担当者を予定）
- 6 社会と産業の持続的発展に向けて（I）  
元金沢大学学長 林勇二郎先生
- 7 社会と産業の持続的発展に向けて（II）  
元金沢大学学長 林勇二郎先生
- 8 社会と産業の持続的発展に向けて（III）  
元金沢大学学長 林勇二郎先生

## ■テキスト・教材

適宜資料を配布

## ■参考書

三輪修三著「工学の歴史—機械工学を中心に」ちくま学芸文庫  
中野明著「IT 全史」祥伝社

## ■評価方法

課題レポート（100%）

## ■実務経験の有無

有り

## ■実務経験と授業科目との関連性

電機メーカーでの就業体験を活かし、モノづくりの変遷、地域社会との関わり等について講義を行う。

## キャリアデザイン・チーム論 II（看護）

共通教育科目  
1 年生  
1 単位 前期  
水曜 1 限  
山崎 松美 清水 由加里 藤田 結香里

## ■到達目標

- 大学での勉学と自分の将来とを結びつけ、学修意欲を高める。
- 現時点でのキャリアデザインを描く。
- 社会人力を向上させる。

## ■授業の概要

保健医療学部での勉学と卒業後の進路を結びつけながら考える授業とし、将来、人々の健康と福祉に貢献することの責任と誇りを自覚し、学修意欲と知的好奇心を喚起する。医療従事者としての広い視野を身につけるため、看護学科及び臨床工学科の教員が、それぞれ専門とする分野を授業のテーマとして、学部学科における教育内容を概観しながらキャリアデザインについて講義を行う。また、医療現場で求められる協調性や社会人として求められる自己管理能力についても考える機会とする。

## ■授業計画

- 1 ●クラスアワー／カリキュラムマップの紹介  
集う・語り合う・知り合う  
保健医療学部の教育を理解する
- 2 ●小松大学の学生気質を創る  
一人が皆となる
- 3 ●AED 講習  
人の命を救う・救われるために
- 4 ●現代社会を生きる I  
賢い消費者塾
- 5 ●現代社会を生きる II  
大人の交通マナー
- 6 ●世界の達人  
未来の Glocal 人へ
- 7 看護の達人  
未来の貴方へ
- 8 キャリアデザインを描く／クラスアワー  
What are you going to be?  
集う・語り合う・支え合う

## ■テキスト・教材

必要な資料や教材等は毎回の講義において配布する（教科書の指定はない）

## ■参考書

授業中に随時紹介する。

## ■評価方法

授業参加度、グループワーク、プレゼンテーション、レポート、等を総合評価：100 点

## ■実務経験の有無

## ■実務経験と授業科目との関連性

共通教育科目  
1年生  
1単位 前期  
水曜 2限  
担当複数

## キャリアデザイン・チーム論Ⅱ（臨床工学）

担当教員：真田 茂 深澤 伸慈 坂元 英雄

### ■到達目標

- 大学での勉学と自分の将来とを結びつけ、学修意欲を高める。
- 現時点でのキャリアデザインを描く。
- 社会人力を向上させる。

### ■授業の概要

保健医療学部での勉学と卒業後の進路を結びつけながら考える授業とし、将来、人々の健康と福祉に貢献することの責任と誇りを自覚し、学修欲と知的好奇心を喚起する。医療従事者としての広い視野を身につけるため、看護学科及び臨床工学科の教員が、それぞれ専門とする分野を授業のテーマとして、学部学科における教育内容を概観しながらキャリアデザインについて講義を行う。また、医療現場で求められる協調性や社会人として求められる自己管理能力についても考える機会とする。

### ■授業計画

- 1 クラスアワー：集う・語り合う・知り合う
- 2 ●カリキュラムマップの紹介：保健医療学部の教育を理解する  
●印は、看護学科と臨床工学科の合同授業
- 3 キャリアデザインを描く：あなたの未来は？医学・医療における臨床工学の役割
- 4 ●小松大学の学生気質を創る：一人が皆となる  
●印は、看護学科と臨床工学科の合同授業
- 5 ●AED講習：人の命を救う・救われるために  
●印は、看護学科と臨床工学科の合同授業
- 6 臨床工学の達人1：医療の未来と医療機器のイノベーション
- 7 ●世界の達人：未来のGlocalな人へ  
●印は、看護学科と臨床工学科の合同授業
- 8 臨床工学の達人2：安全・安心の医療技術

### ■テキスト・教材

必要な資料や教材等は毎回の講義において配布する（教科書の指定はない）。

### ■参考書

真野俊樹（2017）「医療危機—高齢社会とイノベーション」（中公新書）  
田中竜馬（2015）「集中治療 999 の謎」メディカルサイエンスインタナショナル  
その他、授業中に随時紹介する

### ■評価方法

授業参加度、グループワーク、プレゼンテーション、レポート、等を総合評価：100点

### ■実務経験の有無

有り

### ■実務経験と授業科目との関連性

キャリアデザインについての講義を、病院での臨床工学技士として実務経験がある教員がオムニバスで担当している。

共通教育科目  
1年生  
1単位 前期  
月曜 2限  
担当複数

## キャリアデザイン・チーム論Ⅲ

担当教員：岩田 礼 盛田 清秀 酒井 亨

### ■到達目標

- 大学での勉学と自分の将来とを結びつけ、学習意欲を高める。
- 現時点でのキャリアデザインを描く。
- 社会人力とは何かを理解する。

### ■授業の概要

新入生が4年間の大学における勉学を卒業後の進路と結びつけながらデザインし、組織や社会集団の一員として自己実現しながらそれらに貢献していくための知識とノウハウを学ぶ。教員の一方的な話にならないよう、毎回、予習の必要な課題を与え、集団討議の時間を設ける。また、毎回 ミニツペーパーを提出させる。外部講師による講義を組み入れながら各自のキャリアデザインを考えさせたり、事例を上げながらチームワークのあり方を考えさせたりする。

### ■授業計画

- 1 国際文化交流学部で学ぶ意義、チーム力とはなにか？（岩田）
- 2 自己認識と社会的役割・参加（盛田）
- 3 外部講師による講演
- 4 日本の労働市場と労働慣行・報酬制度（盛田）
- 5 教員自身の職業体験、社会人の基本動作（酒井）
- 6 大学で学ぶ意義と自己責任意識（酒井）
- 7 いまの社会は学生に何を求めているか？（酒井）
- 8 チーム力（岩田）、試験

### ■テキスト・教材

大久保幸夫『キャリアデザイン入門Ⅰ基礎力編（第2版）』（日本経済新聞出版社・日経文庫） その他随時プリントなどを配布

### ■参考書

- ・平井孝志ほか『ロジカル・シンキング』（日本経済新聞出版社・日経文庫ビジュアル）
  - ・青井倫一ほか『クリティカルシンキング』（総合法令出版・通勤大学文庫）
  - ・大久保幸夫『キャリアデザイン入門Ⅱ専門力編（第2版）』（日本経済新聞出版社・日経文庫）
  - ・堀公俊『ファシリテーション入門』（日本経済新聞出版社・日経文庫）
  - ・前野隆司（編著）『システム×デザイン思考で世界を変える』（日経BP社）
  - ・碓山洋『異彩を放つ石川の百年企業』（能登印刷出版部）
  - ・ライターハウス『いしかわが世界に自慢したい企業・法人15』（ダイヤモンド社）
- その他随時紹介。

### ■評価方法

グループワーク、ディスカッション参加度 30%、ミニツペーパー 20%、試験 50%

### ■実務経験の有無

有り

### ■実務経験と授業科目との関連性

酒井：共同通信記者時代（1989-2000年）、特に大阪支社および本社経済部所属の1994-1999年には、各業界を担当し、経済記事に携わる。その後台湾のシンクタンク（新境界文教基金会）勤務時代（2001-2012年）には、日台および台湾と他のアジアとの交流に関する行政実務を行った。これらの経験を講義に反映させる。

盛田：横浜市行政事務職員（1976-80年）、農林水産省行政官（本省勤務1990-92年）として勤務した折に、税務関係業務、国レベルの研究開発目標・計画策定業務（農林水産業・食品産業関連）に従事した経験があり、学生への実務指導に生かすことが可能である。

## アカデミック・スキルズ（生産開講）

共通教育科目  
1年生  
1単位 前期  
月曜2限 水曜2限  
新田 雅道 岩田 佳穂 山田 良穂 安達 正明

## ■到達目標

- 理工系の文化に触れることにより「人に役立つものづくり」についての概要を理解できる。
- 調査研究を通して、理工系のテーマについての報告書作成と発表ができる。

## ■授業の概要

ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミックスキルズの養成を図る。全学240人が12クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。

## ■授業計画

- 1 モノづくりとは  
ものづくりとは何かについて担当教員の専門分野を通して理解を深める
- 2 理科系の作文技術  
テキストを参考にして理工系の報告書のまとめ方を学ぶ
- 3 調査研究テーマの決定  
1クラスを4～5人のグループに分け、各グループが実施する調査研究の大テーマと各人が担当するサブテーマを決める
- 4 調査研究テーマの実施（Ⅰ）  
進捗報告、調査研究、報告書執筆
- 5 調査研究テーマの実施（Ⅱ）  
進捗報告、調査研究、報告書執筆
- 6 調査研究テーマの実施（Ⅲ）  
進捗報告、調査研究、報告書執筆
- 7 発表資料の作成  
発表用PPT作成、最終報告書のまとめ
- 8 報告会  
報告会においてプレゼンテーションとディスカッションを行う。  
報告書及びPPT資料を提出する

## ■テキスト・教材

木下是雄（著）「理科系の作文技術」中公新書  
その他適宜資料を配布

## ■参考書

必要に応じて授業内で紹介する

## ■評価方法

調査報告書（50％）発表（50％）

## ■実務経験の有無

## ■実務経験と授業科目との関連性

## アカデミック・スキルズ（看護開講）

共通教育科目  
1年生  
1単位 前期  
月曜2限 水曜1限  
松井 優子 徳田 真由美 佐藤 大介

## ■到達目標

- 大学での学修の基礎となる集団討議・情報収集・整理・文章作成に関する多面的なアカデミックスキルを修得し、大学生活に活用できるようになる。

## ■授業の概要

「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き、ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る。全学240人が12クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。

## ■授業計画

- 1 コミュニケーション技法：グループワークにおける技法と実践  
・技法についての講義、講義された技法を用いてグループワークを実践
- 2 情報収集・整理の技法：ノートの取り方、スケジュール管理  
・効果的なノートの取り方、スケジュール管理について学生間でグループ討議・発表
- 3 文章作成の技法（1）：レポートの書き方  
・レポート様式とルール、文献の引用、論理的な文章構成に関する講義  
・見本レポートを推敲（ペアワーク）
- 4 文章作成の技法（2）：レポートの書き方  
・推敲後の見本レポートを紹介、自分たちの推敲結果と比較、学びの共有
- 5 プレゼンテーションの技法（1）：魅力的なプレゼンテーションの条件  
プレゼンテーションの技法（1）：魅力的なプレゼンテーションの条件
- 6 プレゼンテーションの技法（2）：プレゼンテーション資料の作成  
・プレゼンテーション用ソフトウェアの操作方法、資料作成方法の講義と演習
- 7 プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション  
・グループ毎のプレゼンテーション、相互評価と改善点についての意見交換
- 8

## ■テキスト・教材

必要な資料や教材等は毎回の講義において配布する（教科書の指定はない）。

## ■参考書

授業中に随時紹介する。

## ■評価方法

授業参加度、グループワーク、レポート、プレゼンテーション、等を総合評価：100点

## ■実務経験の有無

## ■実務経験と授業科目との関連性

共通教育科目  
1年生  
1単位 前期  
月曜2限  
中山 謙二

## アカデミック・スキルズ（臨床工学開講）

### ■到達目標

大学での学修を成功させるために、情報の収集と整理、課題の解決、批判的な思考、そしてコミュニケーションを効果的に行う能力を高める。

### ■授業の概要

「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き、ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る。全学240人が12クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。

### ■授業計画

- 情報収集・整理の技法1
  - さまざまな情報源から、効果的に必要な情報を得て整理することを理解する。
- 情報収集・整理の技法2
  - 情報へのアクセスと利用に関する倫理的な問題を認識する。
- 批判的思考の技法
  - 学問における批判的思考の重要性とエビデンスに基づく議論の展開を理解する。
- 課題解決の技法
  - 専門分野における課題の認識と、解決のための創造的思考と分析的思考を理解する。
- コミュニケーション技法
  - 文章やマルチメディアを使ったコミュニケーションの重要性を認識する。
- 文章作成の技法
  - 科学的思考と記述法を理解し、論理的な文章構成を理解する。
- プレゼンテーションの技法1
  - 学術的アイデアを効果的に伝えるプレゼンテーションを理解する。
- プレゼンテーションの技法2
  - 質疑応答の実際、的確な議論の進め方を演習する。

### ■テキスト・教材

テキスト  
教材 教科書は特に指定しない。必要な資料、教材は毎回の講義にて配布する。

### ■参考書

授業中に随時紹介する。

### ■評価方法

プレゼンテーション・ディスカッション：50点  
レポートへの評価：50点

### ■実務経験の有無

有り

### ■実務経験と授業科目との関連性

大学卒業後、16年間日本電気（株）に勤務し、通信機器の開発設計業務に従事した。その際に、調査・報告の機会があり、この経験が本授業のベースとなっている。

共通教育科目  
1年生  
1単位 前期  
水曜1限 水曜2限  
中子 富貴子 木村 誠 木場 紗綾 千葉 悠志

## アカデミック・スキルズ（国際開講）

### ■到達目標

○大学での学修の基礎となる集団討議・情報収集・整理・文章作成に関する多面的なアカデミックスキルを修得し、大学生活に活用できるようになる。

### ■授業の概要

「キャリアデザイン・チーム論」に引き続き、ノートの取り方、資料収集法、資料整理法、レポート執筆等のアカデミック・スキルズの養成を図る。全学240人が12クラスに分かれ、学生は所属学部以外の教員の授業を選択する。異分野の教員のスキルに触れることによって、新入生の視野を広げる狙いがある。教員は各々の専門分野の中から専門的知識を前提としない一般的テーマ（一般科目に対応したテーマなど）を掲げ、講義、討議、文章作成を組み合わせたアクティブラーニングによる授業を展開する。

### ■授業計画

- コミュニケーション技法：集団討議の技法と実践
  - アイスブレイク、ブレインストーミング、グループ技法についての講義
  - 代表的技法を用いたグループワーク
- 情報収集・整理の技法：ノートの取り方、スケジュール管理
  - 知識の構造、人間の記憶についての講義
  - 効果的なノートの整理方法、スケジュール管理方法の紹介
- 文章作成の技法（1）：レポートの書き方
  - 形式とルールに関する講義
  - 文献検索と文献の引用方法の練習（ペアワーク）
- 文章作成の技法（2）：レポートの書き方
  - 論理的な文章構成に関する講義
  - 論理的な文章の実例紹介
- プレゼンテーションの技法（1）：魅力的なプレゼンテーションの条件
  - 聴き手を惹きつけるプレゼンテーション技法についての講義
  - 優良事例の紹介とグループワークでの意見交換
- プレゼンテーションの技法（2）：プレゼンテーション資料の作成
  - プレゼンテーション用ソフトウェアの操作方法、資料作成方法の講義
- プレゼンテーションの技法（3）：プレゼンテーション発表
  - グループ毎のプレゼンテーション発表と相互評価、改善点についての集団討議
- まとめ
  - まとめ、および総括

### ■テキスト・教材

教科書は特に指定しない。必要な資料、教材は毎回の講義にて配布する

### ■参考書

授業中に随時紹介する

### ■評価方法

プレゼンテーション・ディスカッション：50点  
レポートへの評価：50点

### ■実務経験の有無

### ■実務経験と授業科目との関連性

共通教育科目 1年生 2単位 後期 月曜2限 担当複数
---

担当教員: 木村 繁男 山田 外史 山田 良穂 安達 正明 木村 春彦 川端 信義 田村 博志 岩田 佳雄 新田 雅道 富澤 洋 酒井 忍 香川 博之 足塚 正利 池田 慎治 梶原 祐輔 史 金星 朴 亨原

### ■到達目標

- 生産システム科学科の選択した特定研究分野の今日的課題を理解できる
- 調査研究を通して、設定した課題についてプレゼンテーションとディベートができる

### ■授業の概要

1年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を受け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。  
発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。  
1クラス当たりの平均受講者数は15名前後となる。学生は希望するテーマを選択して受講する。

### ■授業計画

- 1 授業概要の説明。学科の研究テーマについて学ぶ (I)
- 2 学科の研究テーマについて学ぶ (II)
- 3 学科の研究テーマについて学ぶ (III)
- 4 学科の研究テーマについて学ぶ (IV)
- 5 学科の研究テーマについて学ぶ (V)
- 6 テキストを参考にして理工系の報告書のまとめ方を学ぶ (I)
- 7 テキストを参考にして理工系の報告書のまとめ方を学ぶ (II)
- 8 将来のキャリア形成について考える
- 9 4～5人からなる相談教員のグループに別れ、各グループが実施する調査研究の大テーマと各人が担当するサブテーマを決める
- 10 進捗報告、調査研究、報告書執筆 (I)
- 11 進捗報告、調査研究、報告書執筆 (II)
- 12 進捗報告、調査研究、報告書執筆 (III)
- 13 報告書のまとめと PPT 作成 (I)
- 14 報告書のまとめと PPT 作成 (II)
- 15 発表と報告書提出

### ■テキスト・教材

木下是雄 (著) 「理科系の作文技術」 中公新書 (6 2 4)  
その他適宜資料を配布

### ■参考書

特に指定しない。必要に応じて授業内で紹介する。

### ■評価方法

活動状況 (20%) 報告書 (40%) 発表 (40%)

### ■実務経験の有無

### ■実務経験と授業科目との関連性

共通教育科目 1年生 2単位 後期 火曜3限 木曜1限 担当複数
--

### ■到達目標

- 看護学における導入的テーマに沿って、大学生としての知的生活を営む上で基本となる「読む・書く・プレゼン・ディベート」の能力を形成する
- 「他者との協働的關係作り」に積極的に参加し、思考を深め創造する能力を形成する

### ■授業の概要

1年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を受け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。1クラスあたりの平均受講者数は10名前後となる。

### ■授業計画

- 1 ガイダンス  
情報検索・引用文献の書き方・レポートの形式と書き方・評価表の記入方法などについて理解する
- 2 導入的テーマの把握  
当該テーマの背景や概略を理解する。
- 3 情報収集・整理 1  
当該テーマの現状や問題点など、様々なツールを使って情報収集と整理を行う
- 4 情報収集・整理 2  
当該テーマの現状や問題点など、様々なツールを使って情報収集と整理を行う
- 5 批判的思考の実践 1  
批判的思考によって当該テーマの課題を明らかにする
- 6 批判的思考の実践 2  
批判的思考によって当該テーマの課題を明らかにする
- 7 課題解決方法の検討 1  
当該テーマの課題を解決するための方策を考察し、小括的な結論を導く
- 8 課題解決方法の検討 2  
当該テーマの課題を解決するための方策を考察し、小括的な結論を導く
- 9 グループディスカッションにおける円滑なコミュニケーションの実践 1  
配布資料やスライドを効果的に用いながら、自分の考えを的確に主張する
- 10 グループディスカッションにおける円滑なコミュニケーションの実践 2  
配布資料やスライドを効果的に用いながら、自分の考えを的確に主張する
- 11 プレゼンテーションの準備 1  
思考経過と結論を効果的に伝えるプレゼンテーションの設計と準備を行う
- 12 プレゼンテーションの準備 2  
思考経過と結論を効果的に伝えるプレゼンテーションの設計と準備を行う
- 13 プレゼンテーションの準備 3  
思考経過と結論を効果的に伝えるプレゼンテーションの設計と準備を行う
- 14 プレゼンテーションの実際 (前半グループ)  
発表と質疑応答を経て、当該テーマに対する自分の思考や表現方法を総括する
- 15 プレゼンテーションの実際 (後半グループ)  
発表と質疑応答を経て、当該テーマに対する自分の思考や表現方法を総括する

### ■テキスト・教材

教科書は特に指定しない。必要な資料、教材は毎回の講義にて配布する。

### ■参考書

授業中に随時紹介する。

### ■評価方法

プレゼンテーション、ディスカッション、レポートなどを総合評価：100点

### ■実務経験の有無

有り

### ■実務経験と授業科目との関連性

病院で実務経験があり、さらにスタッフの指導・教育経験のある教員が、医療の視点から統一テーマを検討する。学生が協働して自主的な学びを深められるよう導く。

共通教育科目  
1 年生  
2 単位 後期  
月曜 2 限

平山 順 野川 雅道 李 鍾吳

## テーマ別基礎ゼミ（臨床工学）

### ■到達目標

- 自身の主張を聞き手に、明確にかつ理解し易く伝えるためのプレゼンテーション能力を取得している。
- 討論の際の質疑応答技術を習得している。

### ■授業の概要

1 年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を承け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。  
発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。  
また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。  
1 クラス当たりの平均受講者数は 15 名前後となる。学生は希望するテーマを選択して受講する。

### ■授業計画

- 1 基礎ゼミの概要と目的の説明
- 2 プレゼンテーションの基礎と重要性の理解
- 3 プレゼンテーション用スライド作成方法-1
- 4 プレゼンテーション用スライドの作成方法-2
- 5 グループ発表 I-1
- 6 グループ発表 I-1 に関する討論
- 7 グループ発表 I-2
- 8 グループ発表 I-2 に関する討論
- 9 グループ発表 I-3
- 10 グループ発表 I-3 に関する討論 4
- 11 グループ発表 II-1
- 12 グループ発表 II-2
- 13 グループ発表 II-3
- 14 グループ討論
- 15 総括

### ■テキスト・教材

講義資料を配布する。

### ■参考書

研究発表のためのスライドデザイン 宮野公樹（講談社）

### ■評価方法

ゼミにおける発表および討論に基づいて成績を評価する。

### ■実務経験の有無

### ■実務経験と授業科目との関連性

共通教育科目  
1 年生  
2 単位 後期  
火曜 4 限

010 0. YANCE Timothy John SANDERS Robert Martin 李 鍾 吳

## テーマ別基礎ゼミ（国際）

### ■到達目標

国際観光・地域創生およびグローバルスタディーズの各専門分野の導入的なテーマに沿った講義・演習を通し、主体的な課題の設定、資料の収集・整理、議論の構築、発表を行えるようになる。

### ■授業の概要

1 年前期開講の「アカデミック・スキルズ」の授業を承け、学部別に専門導入的テーマを設定して、演習形式によって発表と討議の訓練を行う。  
発表準備の過程で、図書やインターネットを活用した資料収集と相手に効果的に伝えるための資料整理の方法を学ばせる。  
また、討議を通じて要点を的確に伝える話し方や質問の方法についても学修する。  
1 クラス当たりの平均受講者数は 15 名前後となる。学生は希望するテーマを選択して受講する。

【注意事項】 この授業は国際文化交流学部で学ぶための基礎的な訓練を行なうことを目的とするが、共通科目であり、専門科目ではない。従って、上記のいずれの設定テーマに参加するかは、2 年時以降のコース選択、専門分野選択とは一切関係しない。1 クラスあたりの受講者数が平均 16 名前後となるよう教員が調整し、授業開始前に公示するので注意すること。

### ■授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 基礎的知識の習得 1
- 3 基礎的知識の習得 2
- 4 講義・演習・フィールドワーク 1
- 5 講義・演習・フィールドワーク 2
- 6 講義・演習・フィールドワーク 3
- 7 講義・演習・フィールドワーク 4
- 8 講義・演習・フィールドワーク 5
- 9 資料収集
- 10 資料整理・まとめ
- 11 グループディスカッション 1
- 12 グループディスカッション 2
- 13 プレゼンテーションの準備
- 14 プレゼンテーションの実施
- 15 総括

### ■テキスト・教材

教科書は特に指定しない。必要な資料、教材は毎回の講義にて配布する。

### ■参考書

授業中に随時紹介する。

### ■評価方法

レポート（50%）、発言などに表れた授業への参加度・プレゼンテーション（50%）

### ■実務経験の有無

### ■実務経験と授業科目との関連性

## 5 用語解説

### 【アクティブラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブラーニングの方法である。

### 【アドミッション・ポリシー、AP】

入学者受入れの方針。各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。

※（1）知識・技能 （2）思考力・判断力・表現力等の能力 （3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

### 【カリキュラム・ポリシー、CP】

教育課程編成・実施の方針。ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

### 【シラバス】

学生が授業科目の履修を決める際の参考資料や準備学習を進めるために用いられる各授業科目の詳細な授業計画。一般に、授業科目、担当教員名、講義目的、毎回の授業内容、成績評価方法・基準、準備学習のための具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件などが記載されている。また、教員相互の授業内容の調整や、学生による授業評価などにも使われる。

### 【ディプロマ・ポリシー、DP】

卒業認定・学位授与の方針。各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。